

宮崎市文化財調査報告書 第48集

間 越 遺 跡

— Magoe site —

養護盲老人ホーム移転に伴う発掘調査

2001

宮崎市教育委員会



間越遺跡遠景（南より生目古墳群を望む）

東金区海



序

近年、全国各地で行われる開発によって、埋蔵文化財の発掘調査が数多く行われるようになりました。これらの調査に伴って、今までの常識を覆すような遺跡がいくつも見つかっており、それらが新聞紙上を賑わせることで、俗に考古学ブームと呼ばれる社会現象をひきおこすまでになりました。このように考古学上の新しい発見が相次ぎ、社会の関心が集まる中、名声を欲するあまり遺物を捏造する不貞の輩が現れたりもしましたが、これも国民の考古学に対する関心が高まり、ひとびとの知的好奇心を満足させるに足るものとなっているからに外なりません。

本書は、養護盲老人ホーム生目幸明荘の移転に伴い実施した間越遺跡の発掘調査報告書です。今回の調査では、弥生時代から中・近世に至る住居址などの遺構、それに伴う膨大な量の遺物が見つかっています。これらは、この地区で長い期間にわたり人々が生活を営んだ確固たる証拠であり、貴重な文化遺産であります。本書が皆様に広く活用され、跡江地区、さらには宮崎市の歴史の解明に役立つこととなりましたら幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご協力いただいた関係各位、地元の方々、また夏の暑いさかりから厳冬期の年末まで、現場で作業に携わっていただいた作業員の皆様に心から感謝申し上げます。

平成13年3月

宮崎市教育委員会

教育長 内藤泰夫

例　　言

- 本書は養護老人ホーム生日幸明荘移転建設に伴い、宮崎市大字跡江字長削で行われた発掘調査の報告書である。
- 調査は平成11年7月26日～平成11年12月28日までの期間、宮崎市教育委員会が行った。
- 調査主体

宮崎市教育委員会 文化振興課

(平成11年度)

調査総括 課長 野間重孝
係長 永井淳生
庶務担当 主事 竹野隆司
調査員 主査 田村泰彦
技師 烏枝誠
稻岡洋道
宇田川美和
嘱託 河野賢太郎

(平成12年度)

調査総括 課長 野間重孝
係長 永井淳生
庶務担当 主事 竹野隆司
整理担当 主査 田村泰彦
主事 烏枝誠(市民税課)
技師 宇田川美和
主事補 仁尾忠尊
嘱託 河野賢太郎
川原愛
椎由美子
松永光雄
小川正子
久富なみ

- 本書の執筆は第I章を宇田川、第II～IV章を河野、第V章を烏枝が行った。
- 掲載図面の実測、製図、図版の作成は、田村、烏枝、稻岡、宇田川、仁尾、河野、川原、椎、松永、小川が行った。
- 写真撮影は、烏枝、河野が行った。
- 本書の編集は、河野、久富が行った。
- 本書で使用した空中写真は株式会社スカイサーバイによるものである。
- 本遺跡出土遺物は宮崎市教育委員会が保管している。
- 本書実測図中で使用した遺構略号は以下のとおりである。
S A - 積穴住居 S B - 掘立柱建物 S C - 土坑 S D - 地下式横穴墓 S E - 溝状遺構
- 実測図中の「」は攪乱である。
- 実測図中、破線は復元推定ラインである。
- 本文中の遺構の深さは検出面からのサイズである。
- 遺構実測図中の「」は焼土である。

本文目次

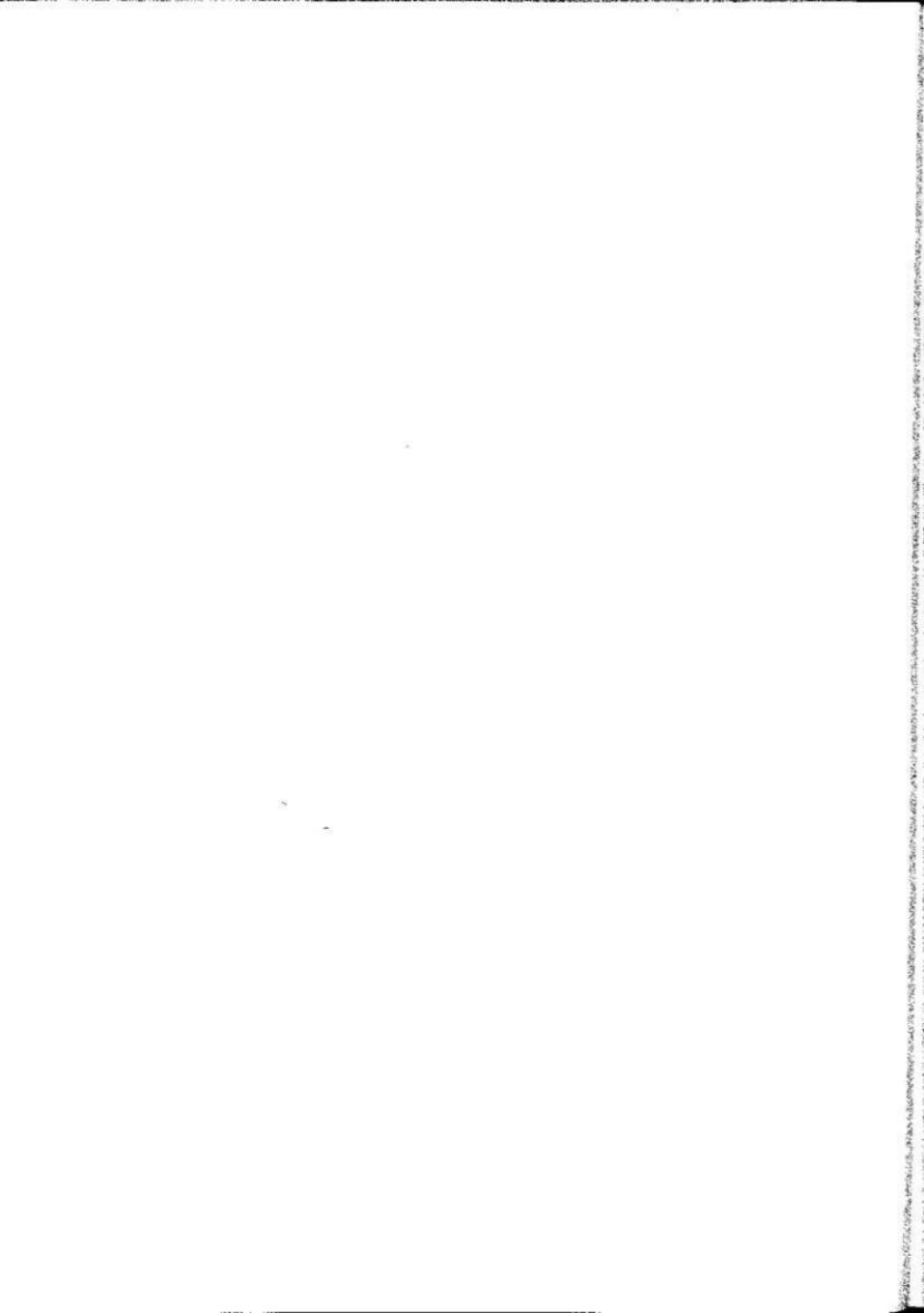
第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の立地と歴史的環境	1
間越遺跡周辺図	4
間越遺跡全体図	5
第Ⅱ章 弥生時代の遺構と遺物	7
第1節 調査の概要	7
第2節 墓穴住居	7
18号、41号	7
第3節 土 坑	7
4号	7
7号、8号、9号、10号、11号、16号、20号	8
22号、23号	9
第4節 溝状遺構	9
10号	9
遺構実測図	10
遺物実測図	13
第Ⅲ章 古墳時代の遺構と遺物	21
第1節 調査の概要	21
第2節 墓穴住居	21
1号、2号、3号、4号	21
5号、6号、7号、8号	22
9号、10号、11号、12号、13号	23
14号、15号、16号、17号、19号	24
20号、21号、22号、23号	25
24号、25号、26号、27号、28号	26
29号、30号、31号、32号、33号、34号、35号、36号	27
37号、38号、39号、40号	28
第3節 土 坑	28
1号、2号、3号、5号	28
6号、12号、14号、17号、19号、21号、24号	29
第4節 溝状遺構	29
1号	29
5号、11号、13号、14号、15号、16号、18号	30
第5節 地下式横穴墓	31
1号、2号	31

遺構実測図	32
遺物実測図	44
第IV章 その他の遺構と遺物 58	
第1節 調査の概要	58
第2節 挖立柱建物	58
1号	58
第3節 溝状遺構	58
4号、7号	58
第4節 流路状遺構	58
遺物実測図	59
第V章まとめ 64	
遺物観察表	69
図版	85

挿 図 目 次

第1図	間越遺跡周辺図	4
第2図	間越遺跡全体図	5
第3図	遺構実測図1 S A18, 19, S C 4, 7, 12	10
第4図	遺構実測図2 S C 8, 9, 10, 11	11
第5図	遺構実測図3 S C16, 20, 22, 23	12
第6図	出土遺物実測図1 S A18	13
第7図	出土遺物実測図2 S A41, S C 4, 8, 9	14
第8図	出土遺物実測図3 S C 9, 10, 16, 20, 22	15
第9図	出土遺物実測図4 S C23	16
第10図	出土遺物実測図5 S C23	17
第11図	出土遺物実測図6 S C23	18
第12図	出土遺物実測図7 S C23	19
第13図	出土遺物実測図8 S C23, S E10	20
第14図	遺構実測図4 S A 1, 6, 34	32
第15図	遺構実測図5 S A 2, 3, 4, 5, 9, 14	33
第16図	遺構実測図6 S A 7, 8	35
第17図	遺構実測図7 S A10, 11, 12, 13, 20	36
第18図	遺構実測図8 S A15, 16, 17, 31	37

第19図	遺構実測図9	S A 21, 22, 25, 32, 33, S C 2	38
第20図	遺構実測図10	S A 23, 24	39
第21図	遺構実測図11	S A 26, 27, 28, 30, 39, 40, 41	40
第22図	遺構実測図12	S A 35, 36, 37, 38	41
第23図	遺構実測図13	S C 1, 3, 5, 6, 14, 17, 19, 21, 24	42
第24図	遺構実測図14	S D 1, 2	43
第25図	出土遺物実測図9	S A 1, 2	44
第26図	出土遺物実測図10	S A 3, 4, 5, 6	45
第27図	出土遺物実測図11	S A 6, 7, 8	46
第28図	出土遺物実測図12	S A 8, 9, 10	47
第29図	出土遺物実測図13	S A 10, 11, 12, 13, 14	48
第30図	出土遺物実測図14	S A 15, 16	49
第31図	出土遺物実測図15	S A 17, 19, 20, 21	50
第32図	出土遺物実測図16	S A 22, 23	51
第33図	出土遺物実測図17	S A 24, 25, 26, 27	52
第34図	出土遺物実測図18	S A 28, 29, 30	53
第35図	出土遺物実測図19	S A 31, 32	54
第36図	出土遺物実測図20	S A 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 40	55
第37図	出土遺物実測図21	S C 1, 2, 3, 12, 14, 17, 19, 21, 24	56
第38図	出土遺物実測図22	S E 1, 5, 11, 13, 14, 15, 16, 18, S D 1, 2	57
第39図	出土遺物実測図23	S E 4, 7, 流路状遺構	59
第40図	出土遺物実測図24	流路状遺構	60
第41図	出土遺物実測図25	鉄器、石器	61
第42図	出土遺物実測図26	石器	62
第43図	出土遺物実測図27	石器	63



第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

平成11年6月7日、社会福祉法人凌雲堂が、養護老人ホーム移転計画に伴い、宮崎市大字跡江2366番地外における埋蔵文化財の所在の有無の照会を、宮崎市教育委員会文化振興課に提出した。

これを受け文化振興課では、当該地区が周知の遺跡「間越遺跡」であることから、開発に先立ち、埋蔵文化財の所在を確認する試掘調査が必要であると回答し、平成11年6月17日～平成11年6月21日のうち3日間、試掘調査を行った。

試掘調査の結果、対象地区の北東部分は、すでに削平により破壊されていたが、それ以外の場所においては、大量の土師器が出土し、竪穴住居址や溝状遺構、柱穴等が重なって検出されたため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨を伝えた。

その後、文化振興課と社会福祉法人凌雲堂との間で協議を重ね、開発対象面積8,000m²のうち、2,400m²について本調査を実施した。なお、調査期間は平成11年7月26日から平成11年12月28日までである。

第2節 遺跡の立地と歴史的環境

間越遺跡は、宮崎市西部、大淀川の支流である大谷川左岸の、標高7m程度の微高地に立地する。本遺跡は平成元年度に宮崎市教育委員会が実施した、リゾート地域を中心とした市内全域の遺跡詳細分布調査報告の中で、「間越遺跡」(遺跡番号 4003)として、報告されており、周知の遺跡となっていた。

本遺跡の周辺は、跡江台地上の生日古墳群をはじめ、各時代の遺跡が多数所在している。

縄文時代には、間越遺跡より北へ0.5kmの跡江丘陵南端部に、跡江貝塚が所在し、縄文時代早期の押型文土器・窓ノ神式土器等、多種にわたる土器が出土している。跡江貝塚から北へ1.7kmのところには同時期の柏田貝塚が所在している。大正7(1918)年、濱田耕作らによって調査され、縄文時代早期の窓ノ神式土器等が出土している。

弥生時代には、間越遺跡の南東約1.8kmの微高地に、弥生時代後期の竪穴状遺構が検出された。現昔遺跡が所在するほか、大谷川を挟んで南へ0.6kmのところには、弥生時代の散布地である、平岩遺跡が所在する。

さらに、間越遺跡から北へ0.7kmの跡江丘陵上には石ノ迫第2遺跡が築かれる。石ノ迫第2遺跡では弥生時代中期の環濠集落が検出されたほか、未指定古墳3基を含む円墳5基と43基にも及ぶ土墳、5基の地下式横穴墓が検出され、弥生時代後期に集落が廃絶した後、住居域から墓域となつたことが窺える。また、石ノ迫第2遺跡の東約3.2km、大淀川対岸の丘陵上に下郷遺跡が所在する。下郷遺跡は、弥生時代前半と後期後半の2時期にわたって環濠集落が築かれており、竪穴住居址や貯蔵穴、土坑等が検出され、大量の弥生土器、石器が出土している。下郷遺跡が立地する丘陵裾には茶園遺跡が存在する。発掘調査は行われておらず、詳細は不明であるが、採集された資料

から、おおむね弥生時代中期の遺跡であると考えられる。

茶園遺跡の東には垣下遺跡が所在し、旧河道と思われる大溝遺構からは竹製の釜をはじめ、多数の木製品や弥生土器が出土している。さらに、垣下遺跡の北約1.2kmの沖積地には黒太郎遺跡が所在し、弥生時代後期の溝状遺構、周溝状遺構が検出された。

古墳時代になると、跡江丘陵上には生目古墳群が造られる。現在、丘陵上に前方後円墳7基、円墳20基、丘陵下に円墳2基の、合計29基の古墳が存在している。史跡公園化にむけて、平成10年度より、発掘調査を行っている。

更に、間越遺跡の南東1.4kmのところには前方後円墳2基、円墳4基、横穴墓1基により構成される大淀古墳群が存在し、3号墳の周溝からは、4世紀末の壺型埴輪が出土している。大淀川左岸、間越遺跡より東へ2.2kmの標高20mの台地上及びその北、標高約70mの丘陵上には下北方古墳群が存在する。下北方古墳群は前方後円墳4基、円墳13基、地下式横穴墓9基より構成され、昭和50年に調査された5号地下式横穴墓の玄室からは金製垂飾付耳飾をはじめとする装身具、鏡類、武器・武具類、馬具類等が豊富に出土している。さらに下北方古墳群が立地する台地の南東、宮崎神宮社殿北側には墳長85mの船塚古墳が所在する。

また、横穴墓の分布も多く、大淀川右岸においては、間越遺跡の南西1.7kmのところに19基の横穴群からなる浮田横穴群が所在する。大淀川左岸においては、間越遺跡の北東約3kmのところに池内横穴が存在する。とともに31基が存在したが、現在は4基が残るのみである。また、その西には上北方横穴群が存在している。今まで詳細な調査は行われておらず、確認されている横穴墓の数は60基余りである。

また、古墳時代の集落としては、間越遺跡の南東約1.7kmのところに竪穴住居10軒が検出された竹之下遺跡、同じく竪穴住居が6軒検出された多宝寺遺跡が所在する。ともに古墳時代後期の集落跡である。

古代になると、間越遺跡の西1.2kmの水田地帯の中に、深田遺跡が所在する。深山遺跡では井戸が検出されたほか、掘立柱建物が3棟検出された。また、間越遺跡の南約2kmのところには余り田遺跡が所在する。余り田遺跡では流路状遺構が検出され、9世紀後半の土師器や150点あまりの墨書き土器等が出土している。

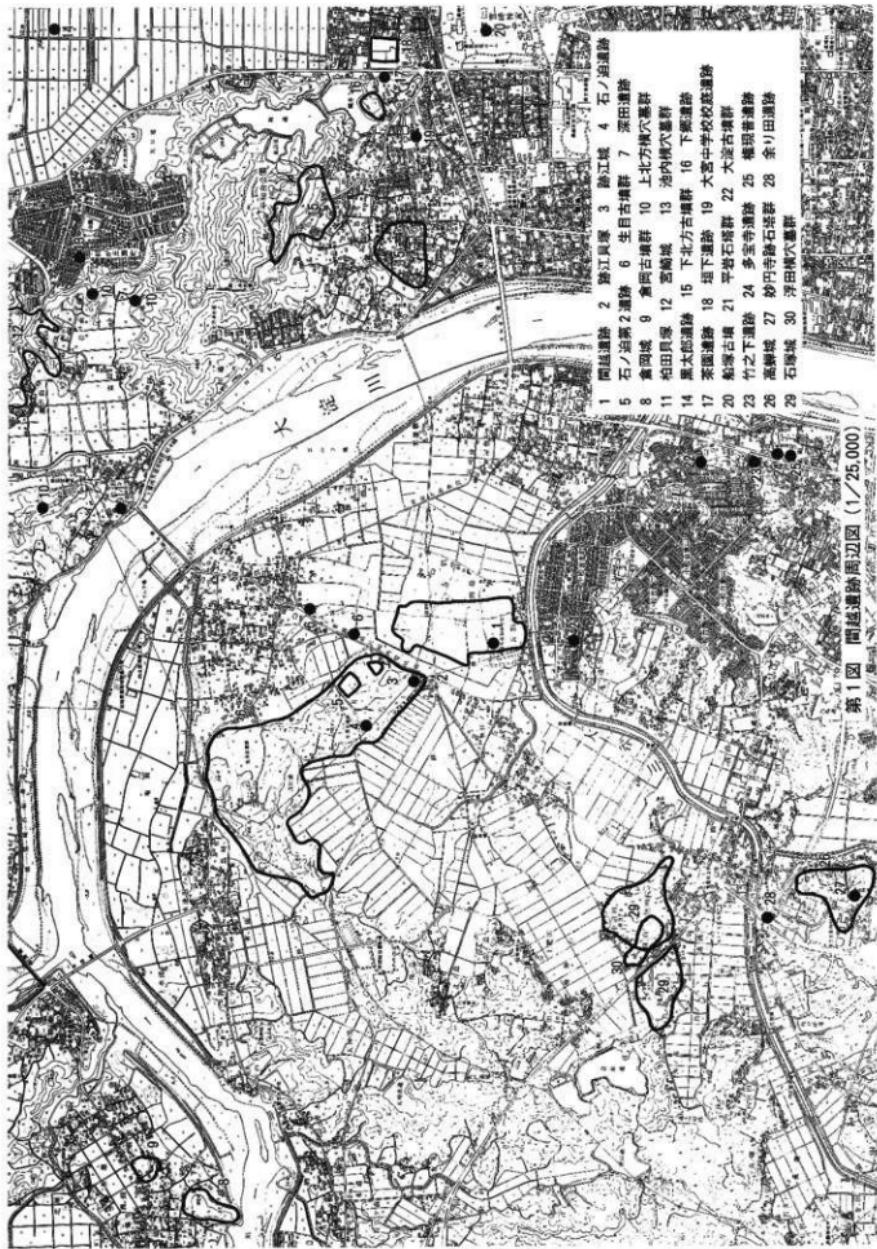
中世以降になると、前述の深田遺跡で掘立柱建物が11棟検出されているほか、跡江台地上に跡江城が築かれる。間越遺跡より北へ0.6kmに存在する跡江城は、建武3(1336)年に南朝方の瓜生野八郎左衛門がこの城に投げ挙兵したが、北朝方の伊東祐持や十持宣栄に攻略されて落城した。現在でも曲輪、掘削が残るほか、付近には「城の下」という地名が残る。また、間越遺跡から南西1.7kmの所には伊東氏48城の一つである石塚城(現在は消滅)があり、石塚城から更に南へ1kmの所にある高輝城は応永8(1401)年に、島津氏が石塚城を攻めるために築いた城と伝えられる。また、間越遺跡から北西へ3.2kmのところには、石塚城と同じく、伊東氏48城の一つである倉岡城があり、天正5(1577)年以降は島津氏が入ったが、元和元(1615)年の一国一城令により廃城となつた。

また、間越遺跡の周辺には石塔の類も多く、南へ1.4kmのところには、16世紀後半以降の五輪塔、板碑等約30基より構成される平岩石塔群が所在する(現在は移転)ほか、先述の余り田遺跡からも

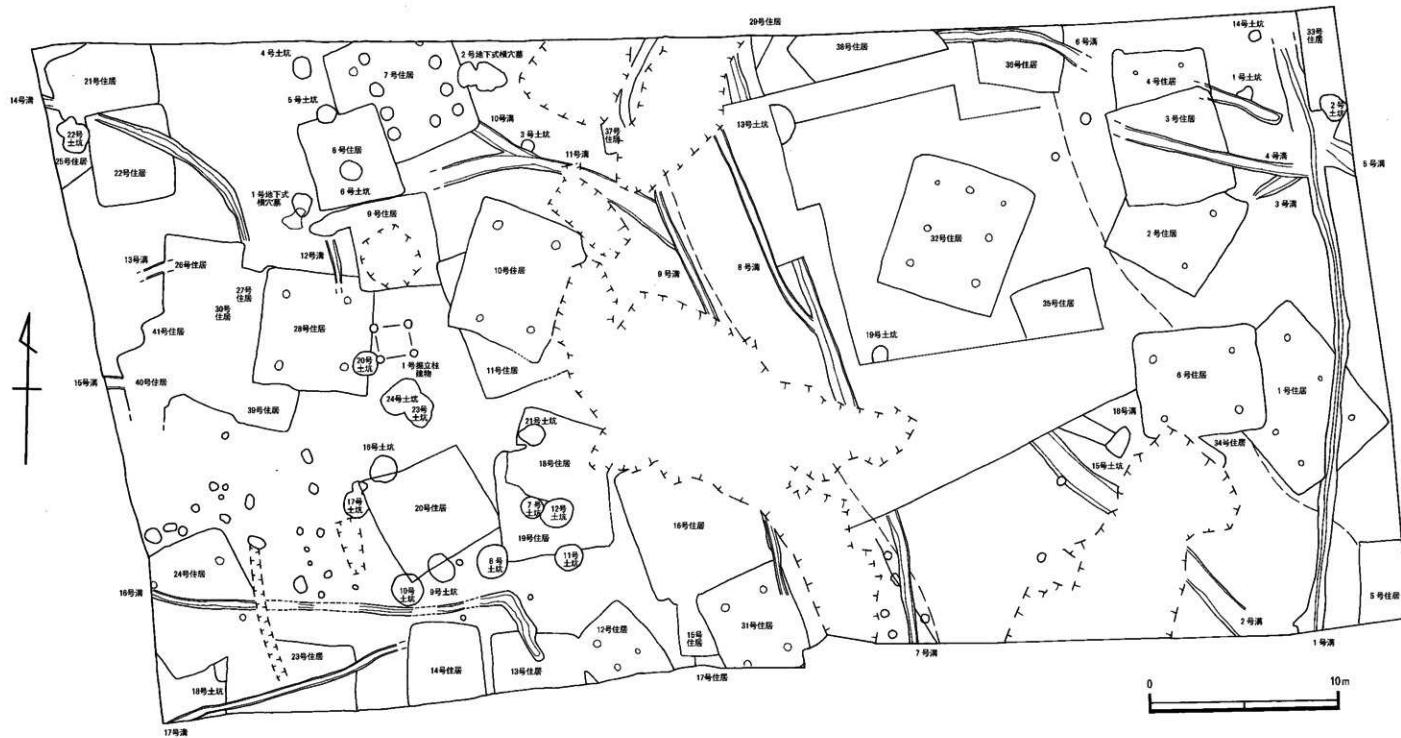
五輪塔62基、板碑1基、石塔1基で構成される石塔群が確認された。(現在は移転)。更に、先述の高蟬城の頂部には天保年間までは妙円寺という寺があり、そこに残されていた五輪塔や板碑など1237基が、昭和11年に発掘された。現在は千仏山本勝寺境内に改設され、「妙円寺跡石塔群」として市指定史跡となっている。

【参考文献】

- 宮崎市教育委員会 1990 『宮崎市遺跡等詳細分布調査報告書Ⅱ』
宮崎市教育委員会 2000 『宮崎市の文化財』
宮崎市教育委員会 2000 『史跡生目古墳群－保存整備事業 発掘調査概要報告Ⅰ－』
宮崎市文化財調査報告書第42集
宮崎市教育委員会 1996 『史跡生目古墳群周辺遺跡発掘調査報告書』
宮崎市教育委員会 1999 『石ノ迫第2遺跡』宮崎市文化財調査報告書第40集
宮崎市教育委員会 1999 『下郷遺跡』宮崎市文化調査報告書第41集
宮崎市教育委員会 1991 『垣下遺跡』
宮崎市教育委員会 1977 『下北方地下式横穴第5号』宮崎市文化財調査報告書第3集
宮崎市教育委員会 2000 『黒太郎遺跡』宮崎市文化財調査報告書第45集
宮 崎 県 1989 『宮崎県史』資料編・考古1
宮 崎 県 1993 『宮崎県史』資料編・考古2
宮崎県教育委員会 1999 『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ』詳説編
宮崎県埋蔵文化財センター 1997 『余り田遺跡』
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第1集



第1図 開港場周辺図 (1/25,000)



第2図 間越道跡全体図

第Ⅱ章 弥生時代の遺構と遺物

第1節 調査の概要

竪穴住居2軒、土坑10基、溝状遺構1条を検出した。遺構は標高のやや高い調査区西側に集中する。23号土坑でまとまった数の一括資料が得られた。

第2節 竪穴住居

18号住居 [第3図 遺構実測図1 第6図 出土遺物実測図1]

東西4.3m以上、南北4.3m、深さ20cmを測る方形プランを呈し、西壁中央に突出壁を設ける。住居南側を19号竪穴住居、北西側を21号土坑に切られる。主柱穴および炉跡は検出されなかった。中央から西側にかけての床面からやや浮いた状態で住居廃絶後に投棄されたものと思われる大量の土器が出土した。

1~8は壺である。1は口縁部が「く」の字に外反し、口縁部と胴部最大径がほぼ同じになる。3~8は壺の底部で、3、6が僅かに上げ底、その他は上げ底を呈す。9~19は壺である。9は凸レンズ状の平底を呈し、丸く張った胴を持ち、短い腹部から直線的に外反する。16、17は凸レンズ状の平底を呈し、18、19は乳房状の底部を呈す。20は鉢である。21~27は高杯である。21~23は一段の稜をもって外反する。24は脚部が「ハ」の字に開く。28はミニチュアの鉢である。29は土師器で住居上部に別遺構の存在の可能性が考えられる。29は壺で丸底を呈し、口縁部が直線的に緩く外反し、最大径を口縁部にもつ。内外面ともにハケ日調整を施してある。このほか、砥石、敲石が出土した。

41号住居 [第21図 遺構実測図11 第7図 出土遺物実測図2]

北西隅および南壁の一部のみ検出した。周辺は複数の古墳時代住居に切られており、規模、プラン等を明確にすることはできなかった。

30~34は壺の底部である。35は壺、36~38は複合口縁壺で、37、38は口縁部上半外面に波状文を施す。39は鉢である。40は土師器の台付きの壺で、流れ込みと思われる。598は石包丁で石材は頁岩である。両端に抉入が見られる。

第3節 土 坑

4号土坑 [第3図 遺構実測図1 第7図 出土遺物実測図2]

円形プランを呈し、長径1.1m、短径0.95m、深さ85cmを測る。遺物は埋土中より少量出土した。41は壺である。42、43は器台である。42は細長い体部を持ち、透かし孔をもつ。43は脚部で「ハ」の字に開き、端部で若干肥厚する。

7号土坑 [第3図 遺構実測図1]

円形プランを呈し、径1.15m、深さ25cmを測る。上部を19号住居、12号土坑に切られる。遺物は、埋土中より高环が出土した。

8号土坑 [第4図 遺構実測図2 第7図 出土遺物実測図2]

円形プランを呈し、長径1.85m、短径1.7m、深さ50cmを測る。東側を19号住居に切られる。遺物は、埋土下層よりややまとまって出土した。

44~48は壺である。44、45は口縁部が「く」の字に外反し、最大径は口縁部である。44、48は上げ底を呈す。49、50は壺で、49は口縁部から胴部上位にかけてで、口縁部は短く頸部から外反する。50は胴部中央から底部にかけて、乳房状の底部を呈す。51、52は鉢で、51は丸底気味の平底を呈し口縁部は「く」の字に一段の稜を持って外反する。52は平底を呈し、内湾しながら立ち上がる。

9号土坑 [第4図 遺構実測図2 第7図 出土遺物実測図2~第8図 出土遺物実測図3]

南北にやや長い円形プランを呈し長径1.6m、短径1.2m、深さ55cmを測る。北側を20号住居に切られる。遺物は、埋土上部に集中して出土した。

53は壺の口縁部から胴部にかけてで、口縁部はわずかに内湾しながら外反し、丸く張った胴部を持ち、口縁部径と胴部最大径がほぼ同じになる。54~56は壺である。54は凸レンズ状の半底、55は平底を呈する。口縁部は、54は頸部から直線的に外反し、56は複合口縁壺で、直線的に外反した後口縁部上半が内傾する。57、58は高环である。57は壺部で、直線的に立ち上がり、垂直気味に立つ。58は体部から脚部にかけて、透かし孔を持つ。

10号土坑 [第4図 遺構実測図2 第8図 出土遺物実測図3]

円形プランを呈し、長径1.7m、短径1.65m、深さ75cmを測る。北東側を20号住居に切られる。遺物は、埋土中層より出土した。

59は壺で、上げ底を呈する。60~63は壺である。60は口縁部が頸部から外上方に立ち気味に立ち上がる。61~63は壺の底部で、62、63は乳房状の底部を呈し、61は上げ底で乳房状の底部を呈す。

11号土坑 [第4図 遺構実測図2]

円形プランを呈し、長径1.88m、短径1.45m、深さ26cmを測る。北側を19号住居に切られる。遺物は埋土中より少量出土した。

16号土坑 [第5図 遺構実測図3 第8図 出土遺物実測図3]

円形プランを呈し、長径1.5m、短径1.4m、深さ75cmを測る。南側を20号住居に切られる。遺物は、底面からやや浮いた状況でまとめて出土した。

64、65は壺の底部で、64が僅かに上げ底、65が平底を呈す。66~69は壺である。66は複合口縁壺で球形の胴部を持ち、口縁部上半と頸部からやや下がったところに波状文を施す。68は丸く張った胴部を持ち、口縁部が直線的に外反しながら立ち上がる。67は複合口縁壺口縁部で、口縁部上半に波状文を施す。70~72は高环である。

20号土坑 [第5図 遺構実測図3 第8図 出土遺物実測図3]

円形プランを呈し、長径1.3m、短径1.2m、深さ15cmを測る。西側を28号住居に切られる。遺物は、埋土中層より出土した。

73は壺である。74は壺で口縁部上半に波状文を施してある。

22号土坑 [第5図 造構実測図3 第8図 出土遺物実測図3]

隅丸長方形プランを呈し、長径1.3m、短径1.2m、深さ20cmを測る。上部を25号住居に切られ、東側を22号住居に切られる。遺物は、底面からまとまった状態で出土した。

75は壺で、口縁部が「く」の字に外反する。76、77は壺である。76は球形の胴を持ち、口縁部は直線的に外反し、端部をつまんである。78は高壺で一段の稜を持って外反する。

23号土坑 [第5図 造構実測図3 第9図 出土遺物実測図4～第13図 出土遺物実測図8]

やや不整な円形プランを呈し、長径1.7m以上、短径1.5m、深さ80cmを測る。北側を24号土坑に切られる。土坑全面の埋土上層から底面にわたって、おびただしい量の遺物が出土した。

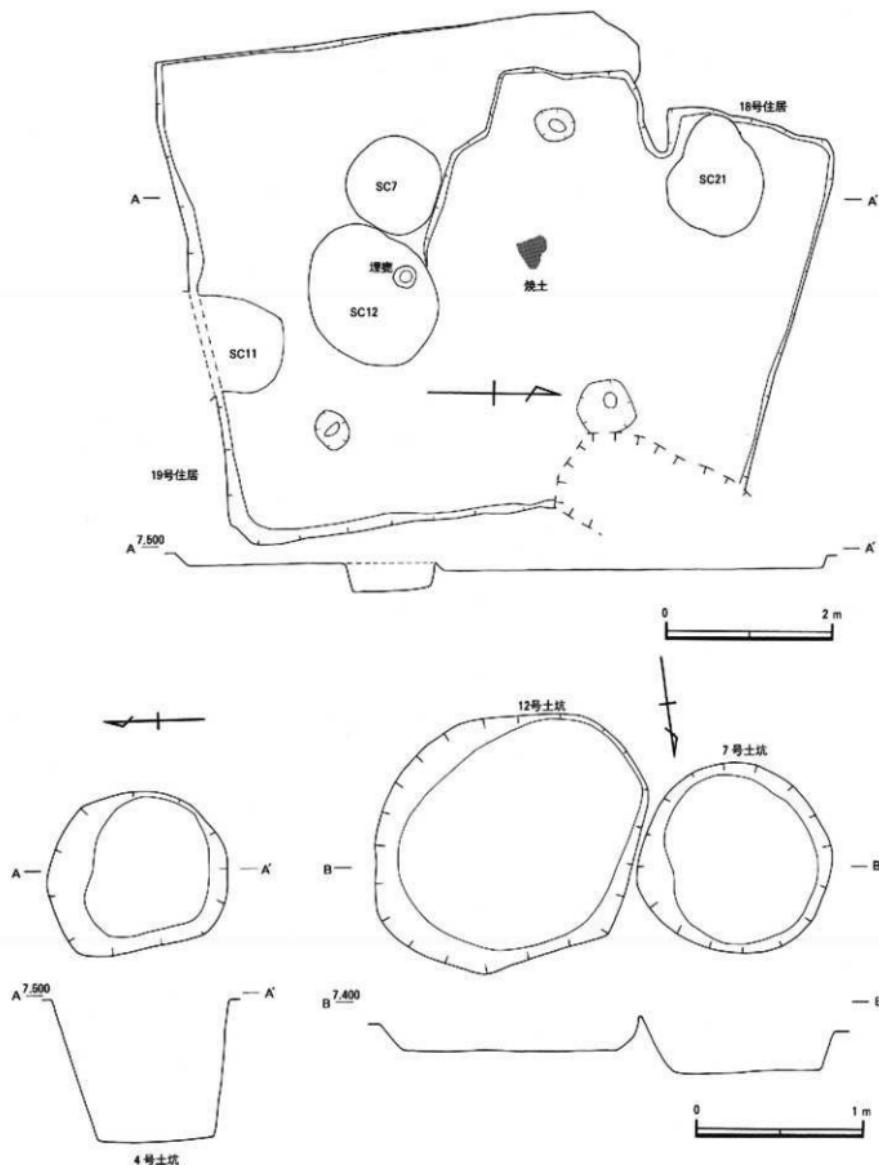
79～104は壺である。79～82、95、96、101、103、104は上げ底、85、102が僅かに上げ底、83、84、89、92が平底、97～100が平丸底を呈す。最大径は79、85、86、87、91、92、94、95が口縁部、80、82、83、88、89、97が口縁部と胴部がほぼ同じ、81、84、90、93、98、99、100が胴部となる。97～100は丸く張った胴を持つ。97は胴部に極細の沈線を施してある。105～119は壺である。114、115は同一個体である。106、108、115は丸底、107、109、112、113、116、118は凸レンズ状の平底、111、117は僅かに上げ底、119は乳房状の底部を呈し、底部に格子状の刻み目を持つ。105は安国寺系土器の要素が強く卵形の長胴を呈す。106～118は丸く張った胴を持ち、107、108、109、115はそれが著しい。106～110は複合口縁壺である。106～109は極短い頭部から外反し、口縁部上半に波状文を有する。106は底部付近に線刻を施してある。108は胴部上半から頸部にかけて線刻が施してあり、口縁部の端部をつまんである。111～113は口縁部が「く」の字に外反する。120～123は高壺である。120は一段の稜をもって外反し、細長い体部で脚部がハの字に開く。124～126は器台である。124は口縁部が細長い体部から水平気味に開き、透かし孔を持つ。125は体部が上に向かって徐々に広がり、上下にそれぞれ透かし孔をもつ。127、128は鉢である。127は凸レンズ状の底部を持ち、直線的に立ち上がった後、頭部直下で直立し一段の稜を持って外反する。128は乳房状の底部を持ち若干内湾しながら立ち上がり、一段の稜をもって外反する。最大径は127、128ともに口縁部である。129は瓶形土器である。口縁部直下に1対と底部に穿孔が1個施してある。

第4節 溝状造構

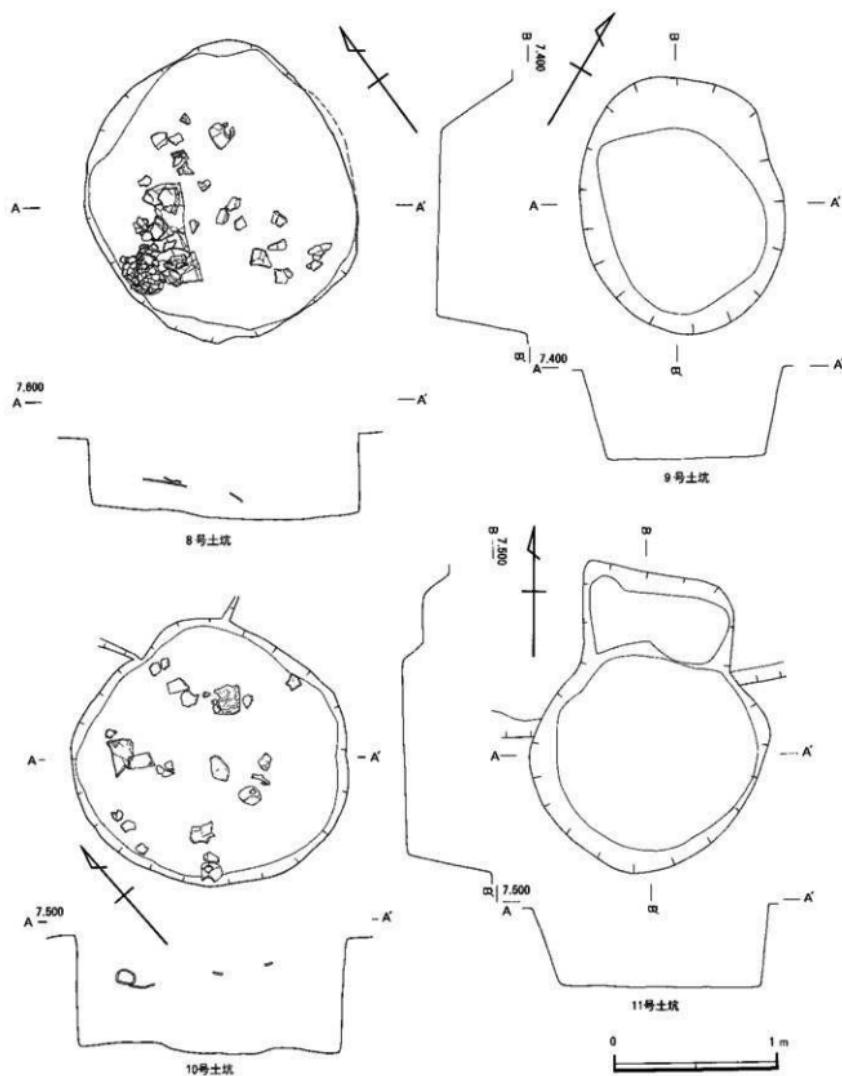
10号溝状造構 [第2図 間越遺跡全体図 第13図 出土遺物実測図8]

調査区北側で検出され、ほぼ東西方向にのびる。幅90cm、深さ10cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。溝底は西から東へ緩やかに傾斜する。遺物は、底面より出土している。

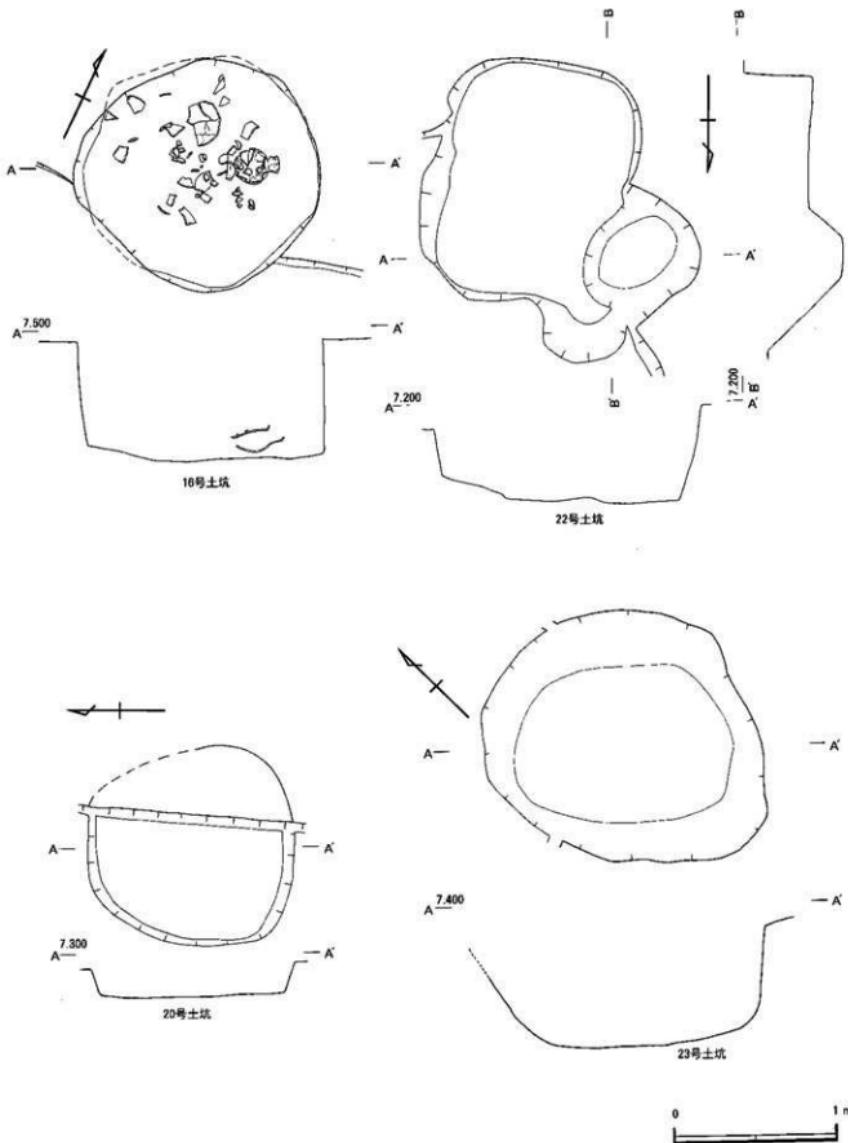
130は壺である。口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。胴部は上半部が張り、底部は凸レンズ状の平底を呈し、頸部に刻み目突帯を巡らす。131は器台で透かし孔を有する。



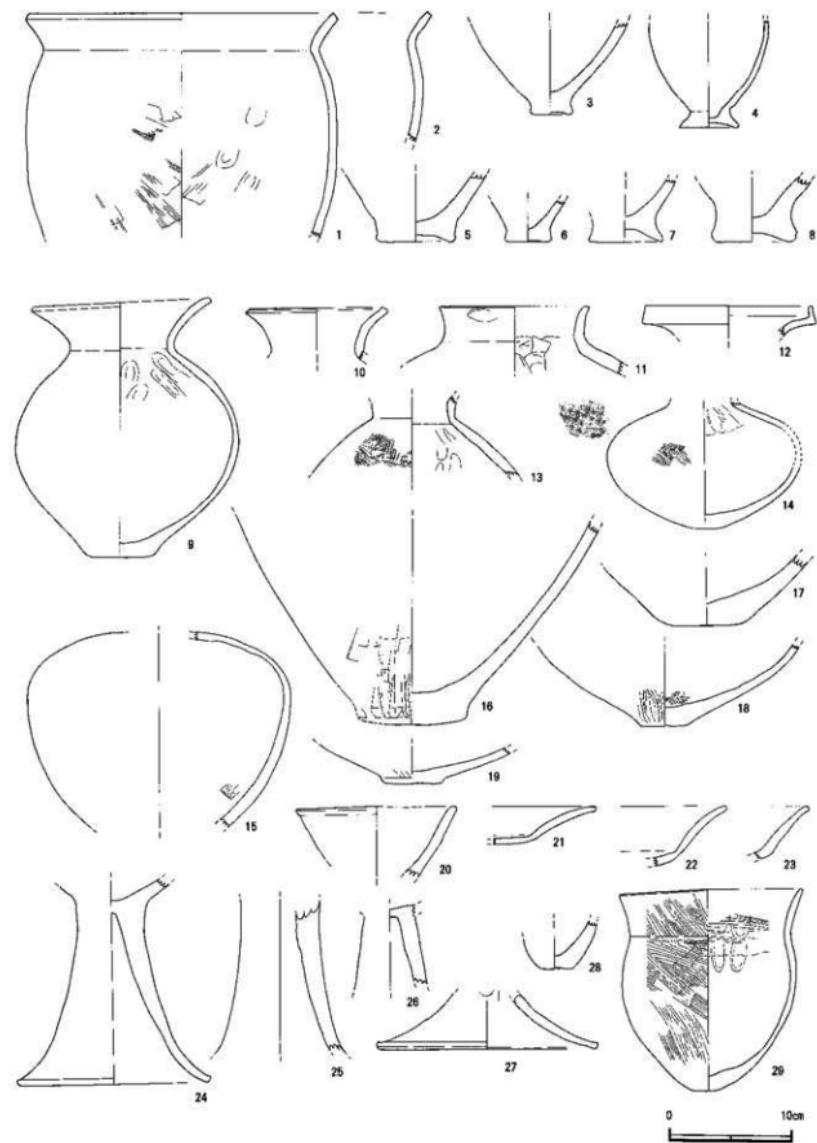
第3図 遺構実測図1 (S A18、19、S C4、7、12)



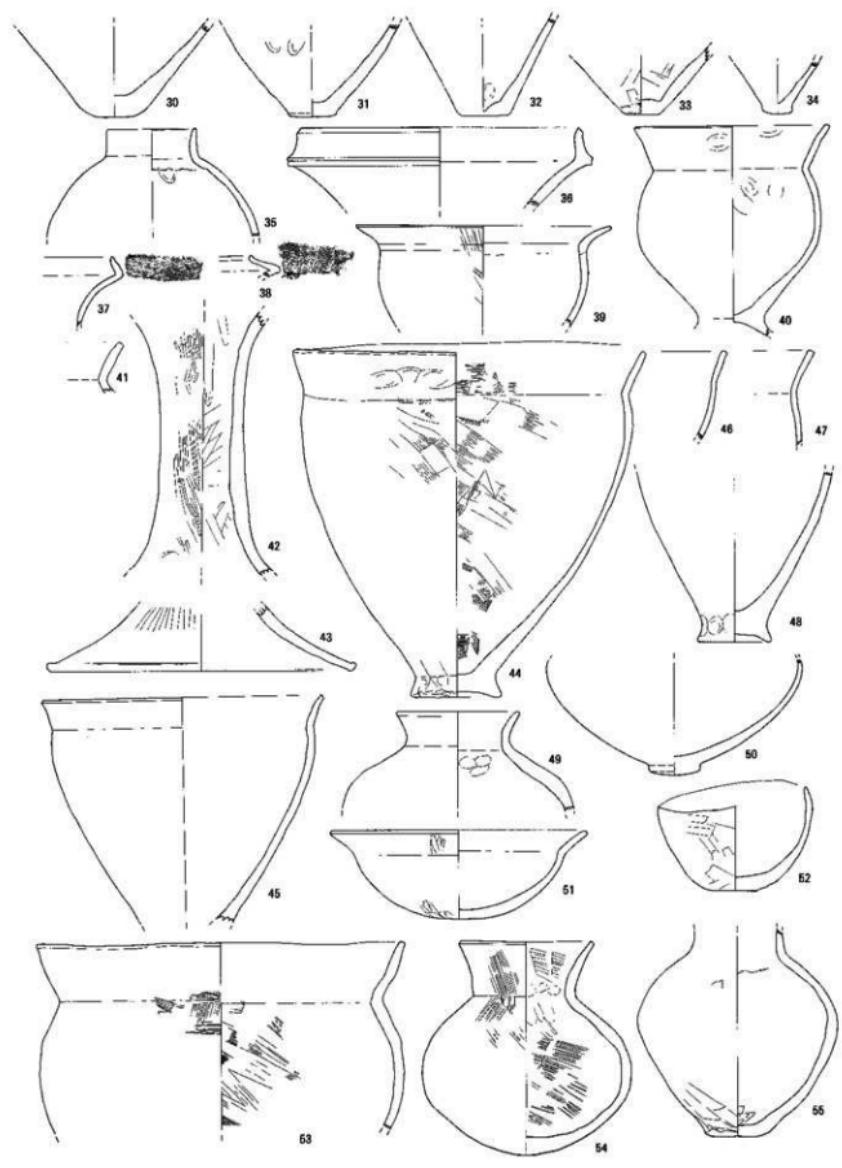
第4図 遺構実測図2 (SC 8、9、10、11)



第5図 造構実測図3 (SC 16, 20, 22, 23)

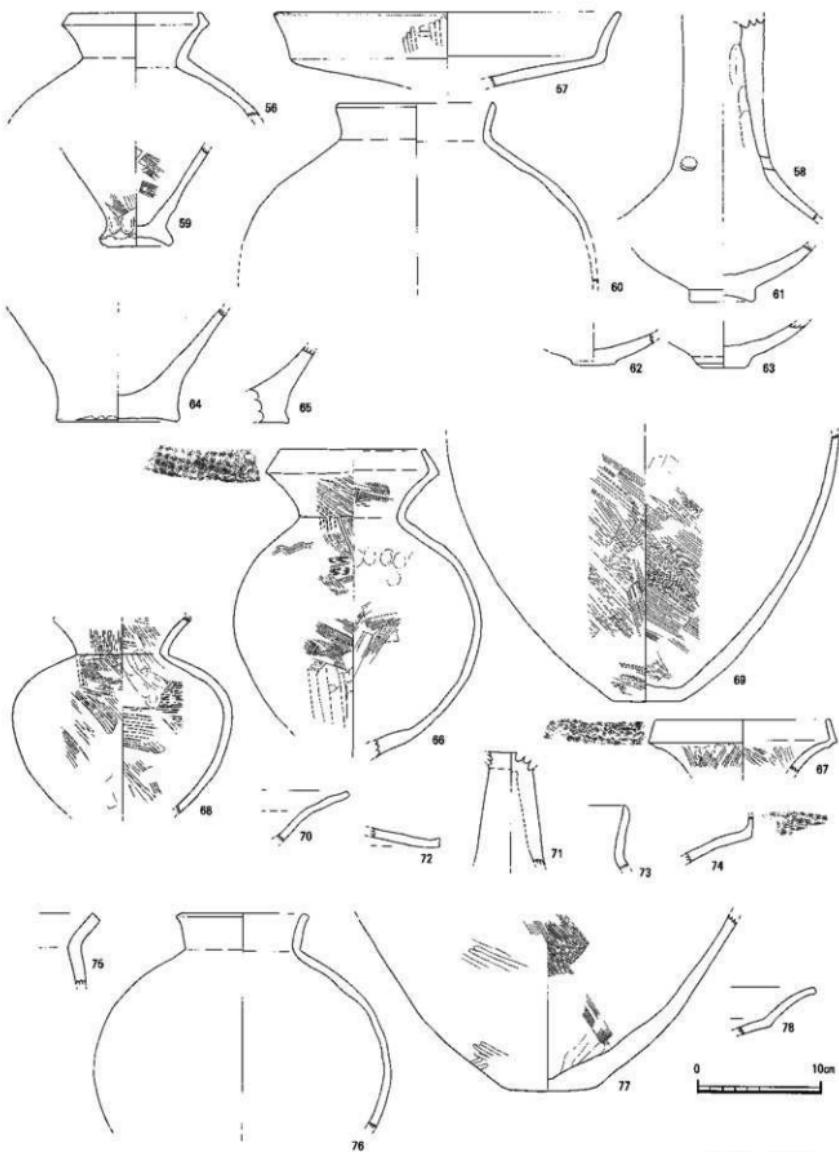


第6図 出土遺物実測図1 (S A 18)



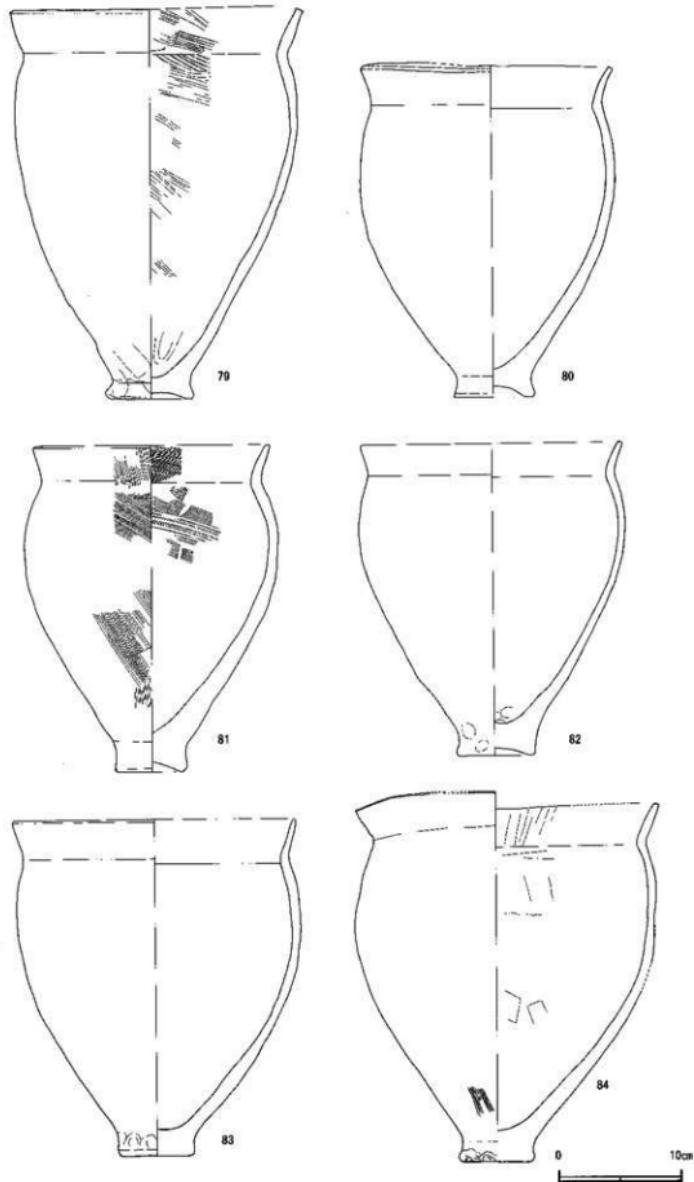
第7図 出土遺物実測図2 (SA41、SC4、8、9)

SA41	30~40
SC4	41~43
SC8	44~52
SC9	53~55

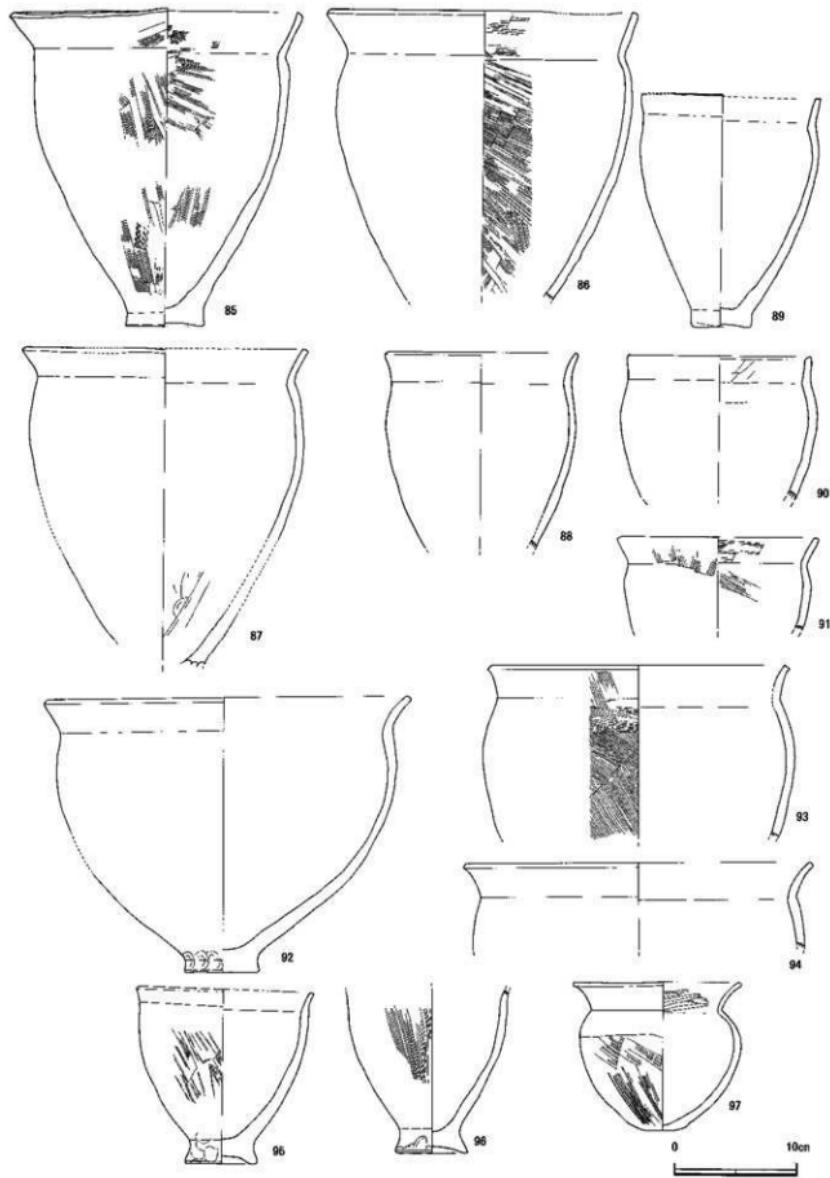


第8図 出土遺物実測図3 (SC 9、10、16、20、22)

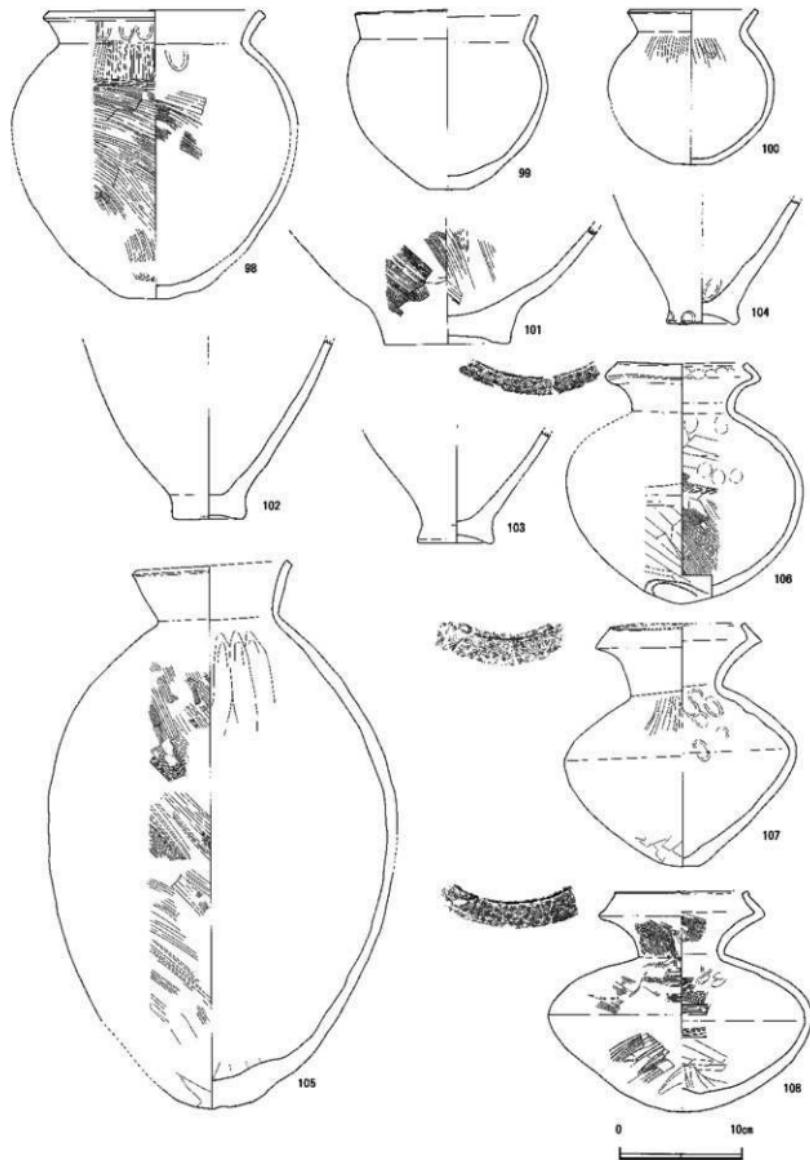
SC 9 56~58
 SC 10 59~63
 SC 16 64~72
 SC 20 73、74
 SC 22 75~78



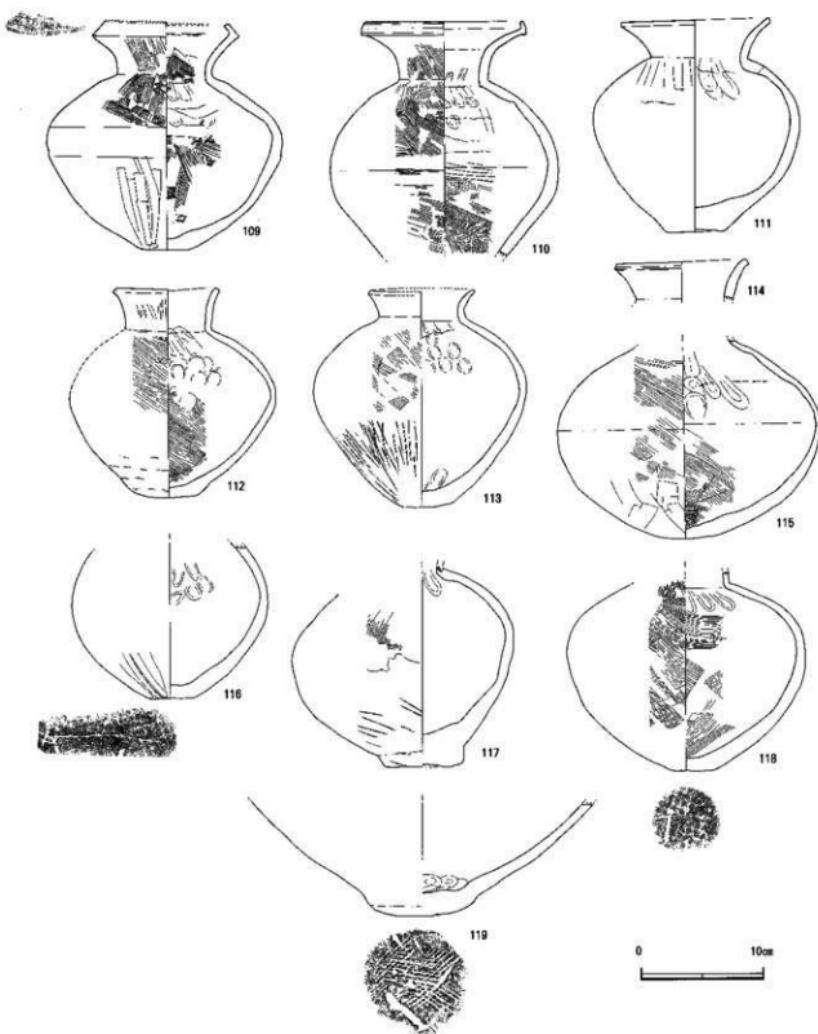
第9図 出土遺物実測図4 (SC 23)



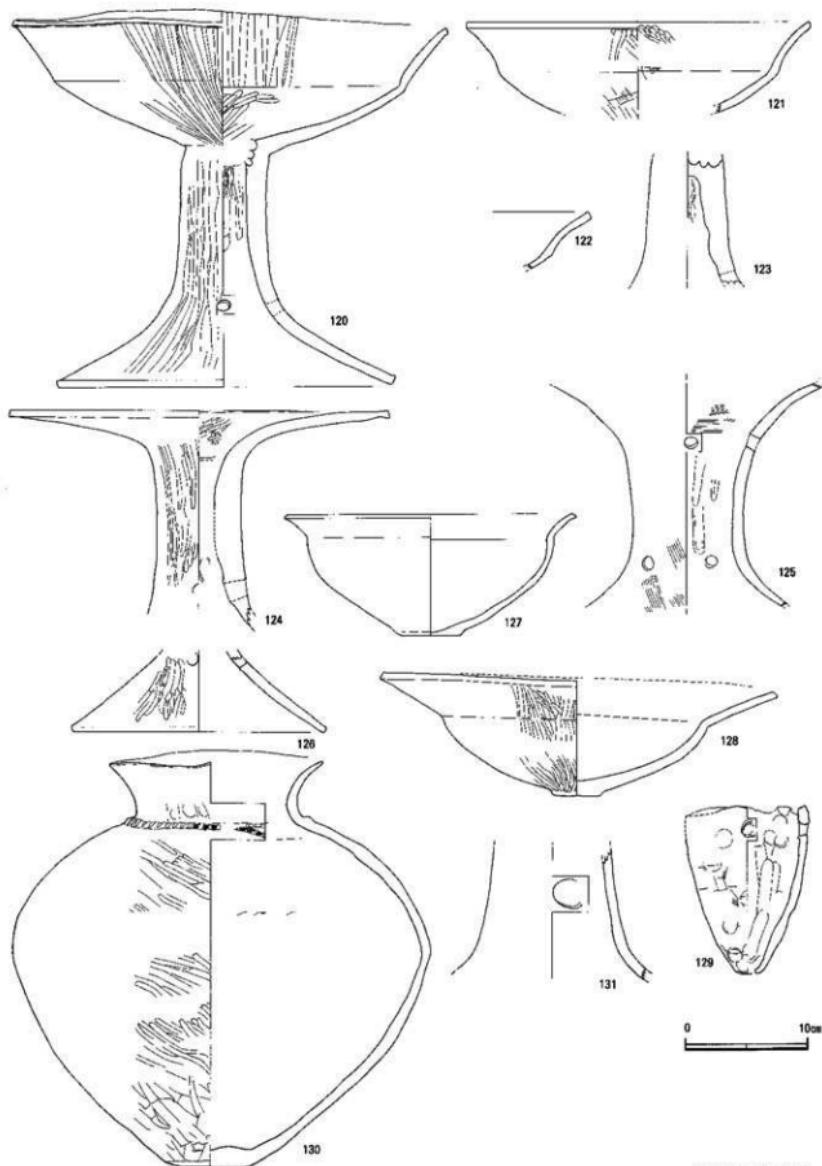
第10図 出土遺物実測図 5 (SC 23)



第11図 出土遺物実測図 6 (SC 23)



第12図 出土遺物実測図 7 (S C 23)



第13図 出土遺物実測図8 (SC23、SE10)

SC23 120~129
SE10 130~131

第Ⅲ章 古墳時代の遺構と遺物

第1節 調査の概要

堅穴住居39軒、土坑11基、溝状遺構8条、地下式横穴墓2基を検出した。

第2節 堅穴住居

1号住居 [第14図 遺構実測図4 第25図 出土遺物実測図9]

南北8.4m、東西6.4m、深さ50cmを測り、長方形プランを呈す。西側を6号住居に切られ、東側を1号溝に切られる。主柱穴は6本で、中央やや東に埋葬炉を有する。床面は貼床を施してあり、幅20cm前後、深さ5~10cmの壁帶溝が巡る。遺物は少量であったが床面より甕、壺が良好な状態で出土した。

132~135は甕である。132は完形品で横倒した状態で出土した。136は瓶で埋葬炉として使用されていたものである。137~141は壺である。137~139は半球状を呈し、138、139は口縁部が僅かに内湾する。140、141は口縁部が短く立ち上がる。135が埋土中層より出土し、その他は床面より出土した。577は散石である。

2号住居 [第15図 遺構実測図5 第25図 出土遺物実測図9]

南北5.6m、東西5.9m、深さ40cmを測り、ほぼ正方形プランを呈す。北側を3号住居に切られる。主柱穴は4本で住居の中央やや南よりに埋葬炉を有する。床面は貼床を施してあり、東壁の一部で壁帶溝が検出された。

142~146は甕である。142は口縁部が短く外反する。145は埋葬炉として使用されたもので丸底を呈す。146は木の葉底を呈する。147は壺である。148は瓶である。149は高壺の脚部で端部がつまんである。150、151は壺である。150は、全体に横方向の磨きを施してあり、シャープ記号(♯)のような線刻(ヘラ印)を有する。152は須恵器の壺蓋で、口縁部に細かい刻目を有する。146、147が埋土上部、149、151が埋土中層、他は床面及び床面からやや浮いた状態で出土した。580は台石で住居中央やや南西でやや浮いた状態で出土した。

3号住居 [第15図 遺構実測図5 第26図 出土遺物実測図10]

南北5.7m、東西5.8m、深さ40cmを測り、正方形プランを呈す。北側で4号住居、南側で2号住居を切り、上面を4号溝に切られる。主柱穴は4本で、住居中央に径60cm×45cm深さ15cmと径40cm深さ20cmの円形の土坑を持つ。南壁の一部より壁帶溝が検出された。遺物は、少量であった。

153、154は壺で同一個体と思われる。154はミガキ調整が施してあり丹塗りが施してある。155は鉢で平底を呈し、口縁部は極短く外反する。床面からやや浮いた状態で出土した。156、157は須恵器の壺身で、口縁部が短く内傾する。156、157はいずれも埋土中からの出土である。

4号住居 [第15図 遺構実測図5 第26図 出土遺物実測図10]

南北3m以上、東西5m、深さ30cmを測り、南側を3号住居に切られている。主柱穴は4本と推定され、ここではP1、P4を検出した。住居北西に住居に伴うと思われる直径60cm、深さ40cmの

上坑が検出された。遺物はP 4付近の床面に集中して出土した。

158～160は壺である。158は丸く張った胸部を持ち、口縁部が短く外反し端部を丸くおさめる。158が床面から、159、160が土坑から出土した。161は瓶である。162は高坏で土坑から出土した。163は塊で、丸底を呈し、ごく僅かに内傾しながら立ち上がる。内外面ともにミガキが施してある。161、163は床面から出土した。

5号住居 [第15図 遺構実測図5 第26図 出土遺物実測図10]

南北4.3m以上、東西2.2m以上、深さ40cmを測る。大半が調査区外にかかり住居北西約4分の1強のみ調査した。住居中央やや東に相当する位置より径65cm×50cm、深さ15cmの土坑が検出された。柱穴はP 4を検出し、深さ40cmを測る。床面出土の遺物は極少量でいずれも細片である。

164、165は壺である。165は木の葉底を呈する。166は壺である。遺物はいずれも埋土中からの出土である。

6号住居 [第14図 遺構実測図4 第26図 出土遺物実測図10～第27図 出土遺物実測図11]

南北5.7m、東西6.5m、深さ40cmを測り、長方形プランを呈する。東側で1号住居を切り、南側を34号住居に切られる。主柱穴は4本で、中央付近に焼土が確認された。床面には貼床を施す。中央に径90cm×100cmの土坑(D 1)、その西側に隣接して径95cm×90cmの土坑(D 2)、さらにその南側に径85cm×80cmの土坑(D 3)が検出された。遺物は、北西隅でまとまって出土した。

167～172は壺である。167は口縁部が短く外反する。169は木の葉底を有する。173、174は壺である。175は瓶で口縁部がつまんである。176、177、178は鉢である。179、180は高坏である。179は脚部が「ハ」の字に開き、若干内湾しながら立ち上がり、一段の稜をもって緩く外反する。181は杯である。182はミニチュアの鉢である。183は須恵器の壺蓋で、大井部にヘラ印を有する。184は須恵器の壺と思われるものの頸部である。171、184が理上部、173が理土中層、その他は床面から出土した。

7号住居 [第16図 遺構実測図6 第27図 出土遺物実測図11]

南北6.7m、東西6.9m、深さ40cmを測り、方形プランを呈す。南東側で11号溝状遺構を、南西側で8号住居、東側で2号地下式横穴墓を切る。主柱穴は8本であるが、1間×3間の掘立柱建物との切りあいの可能性もある。住居の中央やや南に埋壺炉を有し、北壁中央付近に白色粘土塊が検出された。南東隅付近のみ壁帶溝が検出された。遺物は、土師器の壺、鉢、高坏、壺、ミニチュアが出土した。

185、186は壺である。185は平底を呈し長胴で、口縁部は短く外反する。186は平底で木の葉底を有する。187は鉢で木の葉底を有する。188は高坏である。189は壺である。190はミニチュアの鉢で木の葉底を有する。191は弥生土器の壺で流れ込みと思われる。190が埋土上部より、191が切りあう土坑中、その他は床面及び床面からやや浮いた状態で出土した。

8号住居 [第16図 遺構実測図6 第27図 出土遺物実測図11～第28図 出土遺物実測図12]

南北5m、東西4.6m、深さ45cmを測り、長方形プランを呈す。北東側を7号住居、北側を5号土坑、中央部を6号土坑に切られる。主柱穴は4本で、P 1～P 4を検出した。南壁に幅6～11cm、深さ4～10cm程度の壁帶溝を持つ。

192～195は壺である。192は丸底を呈し、口縁部は短く外反する。196～198は壺である。199は高

坏である。200～213は坏である。214は壇である。215～217はミニチュアである。218は須恵器の坏蓋である。194、195、199が埋土上部、204、213、215、216、218が埋土中層、その他は床面及び床からやや浮いた状態で出土した。このほか凹石が出土した。

9号住居 [第15図 遺構実測図5 第28図 出土遺物実測図12]

南北5m、東西4.4m、深さ10cmを測り、長方形プランを呈す。南西隅で28号住居と切りあい、床面は大きく攪乱されており、柱穴等は検出されなかった。遺物はごく少量であった。

219は坏である。220は壺である。221は高坏である。すべて埋土中から出土した。

10号住居 [第17図 遺構実測図7 第28図 出土遺物実測図12～第29図 出土遺物実測図13]

南北7.2m、東西5.6m、深さ36cmを測り、長方形プランを呈す。南側を11号住居と切りあう。主柱穴はP1～P4の4本柱か、柱間が5mあるP3、P4間にP5を主柱穴とみなせば6本柱の可能性もあるが、対になる位置に柱穴が検出されなかつたため疑問は残る。遺物は、北側で割とまとまって出土した。

222～225は壺である。222は住居南東部からの出土で、11号住居からの流れ込みと思われる。226は壺である。227～229は瓶である。230～235は坏である。236、238は須恵器の坏蓋で、ともに口縁部内面に浅い段を持つ。237は須恵器の坏で口縁部は短く内傾する。230～233の坏は住居北西の壁に立てかけられるように出土した。235が埋土上部、234が埋土中層、その他は床面及び床面からやや浮いた状態で出土した。582は凹石、583は蔽石である。このほか台石が出土した。

11号住居 [第17図 遺構実測図7 第29図 出土遺物実測図13]

南北7.8m、東西7.7m、深さ25cmを測り、長方形プランを呈す。北側を10号住居と切りあい、南壁一部を土坑に切られる。P1～P4を主柱穴とみなした。遺物は埋土上層から下層まで出土した。

239～241は壺である。242は壺で平底を呈する。243は瓶である。244は高坏である。245は坏である。246は壇である。247は須恵器の壺である。248は須恵器の提瓶と思われる。249は弥生土器の壺、250は弥生土器の器台で、流れ込みと思われる。241が床面から出土し、その他は埋土中から出土した。584は石包丁で抉入が見られる。石材は頁岩である。

12号住居 [第17図 遺構実測図7 第29図 出土遺物実測図13]

南北4.8m以上、東西3.9m、深さ20cmを測り、長方形プランを呈する。北西側を13号住居に切られる。南側の大半が調査区外になる。主柱穴は4本柱と考えられ、そのうちP3、P4を主柱穴とみなした。P1、P2は後世の土坑により検出できなかつた。P3、P4間にわずかに焼上が確認され、西壁側に幅15cmの壁帶溝が確認された。遺物は少量出土した。

251は壺で平底を呈し、木の葉底を有する。252は鉢で短い脚台をもつ。253は坏で、内外面ともにミガキが施してある。254は壇である。255はミニチュアである。256は須恵器の坏である。251、256が埋土中から、その他は床面及び床面からやや浮いた状態で出土した。

13号住居 [第17図 遺構実測図7 第29図 出土遺物実測図13]

南北3.3m以上、東西4.8m、深さ25cmを測り、方形か、長方形プランを呈する。東側で12号住居に切られ、北側で16号溝と切りあう。南側約1mが調査区外になる。柱穴は4本と考えられ、そのうちP1、P4を検出した。P1が深さ10cm、P2が深さ55cmを測る。住居中央に埋甕炉を有する。

257, 258は壺で、257は木の葉底を有する平底を呈し、長胴で埋壺炉として使用されたものである。259は瓶である。260は鉢で埋土中から出土した。その他は床面と床面からやや浮いた状態で出土した。

14号住居 [第15図 遺構実測図5 第29図 出土遺物実測図13]

南北4.2m以上、東西4.1m、深さ35cmを測り、長方形プランを呈す。南側一部が調査区外にかかる。主柱穴等は検出されなかった。遺物は、土器器の壺、壺、高坏が出土した。

261, 262は壺である。263は壺である。264は器台である。262, 264が埋土中上層、その他は下層から出土した。

15号住居 [第18図 遺構実測図8 第30図 出土遺物実測図14]

南北2.7m以上、東西2.1m以上、深さ40cmを測る。北側を16号住居、南側を17号住居、東側を31号住居に切られる。柱穴等は検出されなかつたが、床面で焼土が広範囲にわたって検出された。遺物は、床面焼土上からまとまって出土した。

265～271は壺である。266～270は口縁部が長く直線的に立ち上がる。271は、外面にタタキを施す。272～274は壺で、274は小型丸底壺である。275～277は高坏である。278は坏である。271が埋土中、その他が床面及び床面からやや浮いた状態で出土した。

16号住居 [第18図 遺構実測図8 第30図 出土遺物実測図14]

南北7.1m、東西6.8mを測る方形プランを呈す。北東を大きく攪乱されており、15号、31号住居と切りあう。柱穴は検出されなかつたが、現状での中央付近に埋壺炉を有する。遺物は、埋土上部から床面までまんべんなく出土した。

279～281は壺である。279は木の葉底を有する平底を呈し、口縁部が短く外反する。282～285は壺である。286は鉢で、埋壺炉として利用されていたもので、木の葉底を有する平底を呈し、口縁部が短く外反する。285は小型丸底壺である。287は坏である。すべて床面かそれよりやや浮いた状態で出土した。585は砾石である。このほか砾石が出土した。

17号住居 [第18図 遺構実測図8 第31図 出土遺物実測図15]

15, 31号住居と切りあい、西壁と床面の一部のみ検出したが、規模プランは不明で、窓が31号住居内でかなり浮いた状態で検出した為、17号住居にともなうものと思われる。主柱穴等は検出されなかつた。遺物は極少量出土した。

288は壺である。

19号住居 [第3図 遺構実測図1 第31図 出土遺物実測図15]

南北5.9m、東西5.9m、深さ20cmを測り、正方形プランを呈す。北側で18号住居を切り、7, 8, 11, 12号土坑と切りあう。主柱穴は確認できなかつた。北側で白色粘土塊と焼土を検出し、窓の可能性も考えられる。中央に埋壺炉を有する。

289～291は壺で、木の葉底を有する平底を呈する。292は瓶である。293は鉢で内外面ともにミガキが施してある。294は高坏である。295は須恵器の坏で口縁部が短く内傾する。296, 297は弥生土器の壺、298は弥生土器の壺である。294が白色粘土中、298がP 2より出土し、その他は床面及び床面よりやや浮いた状態で出土した。587は石包丁で抉入が見られる。石材は頁岩である。586は砾石である。296～298は流れ込みと思われる。

20号住居 [第17図 遺構実測図7 第31図 出土遺物実測図15]

南北5.0m、東西5.9m、深さ20cmを測り、不定方形プランを呈す。19号住居、9, 10, 16, 17号上坑と切りあう。柱穴は確認できなかった。中央には埋甕炉を有する。遺物は少量出土した。

299～302は甕である。300～302は木の葉底を有する平底を呈する。301～3～3は埋甕炉として使用されたものである。303は盞である。304, 305は鉢である。306は須恵器の壺蓋である。307は須恵器の壺で口縁部は短く内傾する。308は須恵器の盞である。309は弥生土器の器台で透かし孔を有する。588は砥石で石材は頁岩である。306, 307, 308が埋土上部、その他が床面及びやや浮いた状態で出土した。309は流れ込みと思われる。

21号住居 [第19図 遺構実測図9 第31図 出土遺物実測図15]

南北5.7m以上、深さ40cmを測るが、調査区外にかかる遺構との切りあいで東西が不明である。22, 25号住居、22号上坑、14号溝と切りあう。中央と思われる部分で埋甕炉を検出した。柱穴はP2を検出した。床面には貼床が施してある。

310～313は甕である。311, 313は木の葉底を有する平底を呈し、312は平底を呈す。311は埋甕炉として使用されたものである。314～316は七輪器の壺である。317は須恵器の甕である。318は須恵器の壺蓋である。313, 317が埋土上部、その他が床面及びそれよりやや浮いた状態で出土した。このほか敷石が出土した。

22号住居 [第19図 遺構実測図9 第32図 出土遺物実測図16]

南北5.0m、東西4.2m、深さ45cmを測り、長方形プランを呈す。北側で21, 25号住居を切り、14号溝に切られる。住居のはば中央で炉跡と思われる焼土を検出した。主柱穴は4本と考えられ、P3, P4を検出した。床面には貼床が施してある。遺物は、埋土中層から床面にかけて出土した。

319は甕である。320は壺で、木の葉底を有する平底を呈する。321は瓶である。322, 323は壺である。324は塊である。325は器種は不明であるが、須恵器の胴部である。326, 327は須恵器の壺蓋で、327は天井部にヘラ印を有する。328は弥生土器の壺で流れ込みと思われる。320, 321, 326が埋土上層、325が埋土中層、その他が床面及び床面よりやや浮いた状態で出土した。590は凹石である。591は砥石で石材は砂岩である。

23号住居 [第20図 遺構実測図10 第32図 出土遺物実測図16]

南北3.8m以上、東西6.9m、深さ45cmを測り、24号住居、17号溝と切りあう。遺構の大半が調査区外になるが、方形プランを呈すると思われる。北壁中央に竈を付設してある。主柱穴は確認できなかった。北東側に1.5m×1.2mの土坑が検出された。

329～332は甕である。329は丸底気味の平底を呈し、口縁部は短く外反する。332は平底を呈する。333は壺で、丸く張った胴部を持ち頭部から直線的に立ち上がる。334は瓶である。335は鉢である。336, 337は高壺である。336は一段の稜をもって外反する。338は把手付き塊（盤）である。339, 340はミニチュアの鉢で、それぞれ木の葉底を有する平底を呈す。341は須恵器の壺蓋である。342は須恵器の提瓶である。343は弥生土器の甕で頭部に突帯を有する。334, 335, 342が埋土上部、388が竈右袖より、その他が床面及び床面よりやや浮いた状態で出土した。576は刀子である。343は流れ込みと思われる。このほか、竈内より軽石製支脚が出土した。

24号住居 [第20図 遺構実測図10 第33図 出土遺物実測図17]

南北6.7m、東西6.1（推定）m、深さ20cmを測り、長方形プランを呈す。23号住居、16号溝と切りあう。住居の中央～南側にかけて4.2×2.6m、深さ10cm程の落ち込みが確認された。主柱穴は4本で、P 1は深さ70cm、P 2が深さ80cmを測る。遺物は少量出土した。

344は壺である。345～346は鉢である。349は高坏である。350は弥生土器の器台で透かし孔を持つ。351は弥生土器の壺である。348、349が埋土上部、その他は床面及びやや浮いた状態で出土した。350、351は流れ込みと思われる。

25号住居 [第19図 遺構実測図9 第33図 出土遺物実測図17]

東側を21、22号住居に切られ、22号土坑を切る。大半が調査区外にあたるため、住居の規模、プラン等は不明である。遺物は少量出土した。

352は壺で、半底を呈する。353は高坏である。354は土玉である。354が床面より、その他が埋土中より出土した。このほか凹石が出土した。

26号住居 [第21図 遺構実測図11 第33図 出土遺物実測図17]

南北4.2m以上、東西4.2m、深さ10cmを測り、30、41号住居、13号溝と切りあう。柱穴は確認できなかった。北東隅に竈を付設する。遺物は、北東部でわりとまとまって出土した。

355～358は壺である。356は木の葉底を有する平底を呈す。357は埋壺炉として使用された壺で木の葉底を有する。359、360は壺である。359は口縁部が短く外反する。361は壺である。362は鉢である。363は高坏で、内外面ともにミガキが施してある。364は土製支脚で、竈内から出土した。365は薬研形不明土製品である。363が竈内より、356が埋土中、その他は床面及び床面からやや浮いた状態で出土した。593は凹石である。

27号住居 [第21図 遺構実測図11 第33図 出土遺物実測図17]

著しく切りあう住居群の中にあり、規模、プラン等は不明であるが、北壁の一部と埋壺炉をもつて住居とした。埋壺炉付近の床面には貼床が施してある。

366～369は壺である。370は鉢である。371は坏である。372はミニチュアの鉢である。373は須恵器の高坏である。374～376は須恵器の坏蓋である。377は弥生土器の壺である。378は弥生土器の壺である。379は弥生土器の高坏である。366、375、378が埋土上部より、その他が床面及び、それよりやや浮いた状態で出土した。377～379は流れ込みと思われる。

28号住居 [第21図 遺構実測図11 第34図 出土遺物実測図18]

南北6.2m、東西6.1m、深さ30cmを測り、27、30、39号住居、20号土坑、1号掘立柱建物と切りあう。方形プランを呈する。住居内からは多数のピットが検出されたが、P 1、P 2、P 3、P 4を主柱穴とみなした。各ピットを結んだ線は正方形を呈する。

380～386は壺である。383、384は同一個体である。387、388は煮である。389は壺である。390は鉢である。391～398は坏である。399は塊である。400は須恵器の高坏で、透かしを有する。401～406は弥生土器の壺である。407、408は弥生土器の高坏である。385、399、404、406、408が埋土上部より、その他が床面及び床面よりやや浮いた状態で出土した。401～408は流れ込みと思われる。このほか凹石、砥石が出土した。

29号住居 [第2図 間越遺跡全体図 第34図 出土遺物実測図18]

調査区北側で検出され、規模、プラン等は不明である。遺物は土師器の細片が少量で埋土中からの出土である。

409は甕である。

30号住居 [第21図 遺構実測図11 第34図 出土遺物実測図18]

26, 27, 28号住居をはじめとする住居群内にあり、埋甕炉のみ検出され、規模、プラン等の確認はできなかった。

410, 411は甕である。411は埋甕炉として使用されたものである。

31号住居 [第18図 遺構実測図8 第35図 出土遺物実測図19]

南北5.7m、東西4.8m、深さ65cmを測り、長方形プランを呈する。西側で15号住居を切り、北側で16号住居、上部を17号住居に切られる。主柱穴は4本が検出された。

412, 413は甕である。413は木の葉底を呈し、埋甕炉として用いられていたものである。414~418は壺で、415~417は同一個体と思われる。419~421は高壺である。422は鉢である。423~431は壺である。428は十文字の縦刻を有する。

432, 433は高壺である。434は小型丸底壺である。432~434は西側埋土中やや浮いた状態で出土しており、西に隣接する15号住居からの流れ込みと思われる。その外は床面及び床面からやや浮いた状態で出土した。このほか、砾石が出土した。

32号住居 [第19図 遺構実測図9 第35図 出土遺物実測図19~第36図 出土遺物実測図20]

南北6.4m以上、東西6.7m、深さ20cmを測り、方形プランを呈する。住居の南壁を10号溝が切るが、主柱穴はP1~P6の6本検出した。現況での中央やや南に埋甕炉を有する。遺物は少量であったが、住居南西部で割とまとまって出土した。

435~437は甕である。437は埋甕炉として使用されたものである。438~439は壺である。440は鉢である。441~443は土師器の壺である。444~446は須恵器の壺である。447は高壺である。

33号住居 [第19図 遺構実測図9 第36図 出土遺物実測図20]

南北5.4m以上、東西長2.4m以上、深さ25cmを測り、南側を2号土坑と切りあう。遺構の大半は調査区外にあたるため、規模、プラン等は不明である。主柱穴は4本と考えられ、そのうちP4を検出した。焼跡は検出されなかった。

448, 449は甕である。全て埋土中からの出土である。

34号住居 [第14図 遺構実測図4 第36図 出土遺物実測図20]

6号住居と切りあう。西側を攪乱されており、規模、プラン等は不明である。

450は壺である。床面から出土した。596は凹石である。

35号住居 [第22図 遺構実測図12 第36図 出土遺物実測図20]

南北3.4m以上、東西4.4m、深さ20cmを測る。方形か長方形プランを呈すると思われる。遺物は小片が少量出土したのみであった。

451は土師器の甕である。452は須恵器の壺である。

36号住居 [第22図 遺構実測図12 第36図 出土遺物実測図20]

南北3.6m以上、東西4.8m、深さ25cmを測り、長方形プランを呈する。6号溝に切られる。

453は壺である。埋土中からの出土である。

37号住居 [第22図 遺構実測図12 第36図 出土遺物実測図20]

遺構のほとんどが機乱によって破壊されており、規模、プラン等は不明である。

454は壺である。

38号住居 [第22図 遺構実測図12 第36図 出土遺物実測図20]

南北2.5m以上、東西6.6m（推定）を測る。遺構の大半が調査区外のため、規模、プラン等は不明である。

455, 456は壺である。457は壺である。458, 459は須恵器の壺である。457が床面より、その他が埋土中より出土した。597は凹石である。

39号住居 [第21図 遺構実測図11]

切りあい多数の住居群内で埋堀炉と南東隅部分のみ検出した。規模、プラン等は不明である。埋堀の遺存状態が悪く、図化には至らなかった。

40号住居 [第21図 遺構実測図11 第36図 出土遺物実測図20]

切りあい多数の住居群内で北西隅のみ検出した。規模、プラン等は不明である。遺物は少量であった。

460～462は壺である。463は壺である。464は高壺である。

第3節 土 坑

1号土坑 [第23図 遺構実測図13 第37図 出土遺物実測図21]

長径0.7m以上、短径0.6m、深さ10cmを測り、7号溝状遺構に切られている。プランは楕円形を呈すると考えられる。遺物は、土師器の壺、壺が出土している。

465は壺の底部で木の葉底を有する平底を呈す。466～468は壺で同一個体である。胴部中央より下に最大径を持ち、平底を呈す。口縁部はなだらかに外反しながら立ち上がる。

2号土坑 [第19図 遺構実測図9 第37図 出土遺物実測図21]

長径1.6m、短径1.1m、深さ50cmを測る円形プランを呈し、33号住居と切りあう。遺物は、埋土中より少量出土した。

469は壺で平底を呈し、極僅かに内湾しながら立ち上がる。

3号土坑 [第23図 遺構実測図13 第37図 出土遺物実測図21]

長径0.8m以上、短径0.8m、深さ20cmを測り、11号溝状遺構に切られている。プランは円形を呈す。遺物はすべて底面から出土した。

470は壺で木の葉底で平底を呈し、口縁部は直線的に外反し、端部で直立する。471は壺で口縁部は稜をもって内傾する。内外面ともに磨き調整を施す。

5号土坑 [第23図 遺構実測図13]

長径1m、短径0.85m、深さ135cmを測る円形プランを呈し、8号住居と切りあう。遺物は、小片が少量出土したのみであった。

6号土坑 [第23図 遺構実測図13]

長径1.2m、短径1.1m、深さ93cmをはかる円形プランを呈し、8号住居を切る。遺物は、小片が少量出土したのみであった。

12号土坑 [第3図 遺構実測図1 第37図 出土遺物実測図21]

円形プランを呈し、長径1.8m、短径1.5m、深さ15cmを測る。上部を19号住居に切られ、東側で7号土坑を切る。遺物は、埋土中層より出土した。

472は壺である。

14号土坑 [第23図 遺構実測図13 第37図 出土遺物実測図21]

長径0.65m、短径0.6m、深さ20cmを測る円形プランを呈する。遺物は床面及び床面からやや浮いた状態で出土した。

473、474は壺である。

17号土坑 [第23図 遺構実測図13 第37図 出土遺物実測図21]

長径2m、短径1.4m、深さ30cmを測る円形プランを呈する。

475は壺である。476は壺である。

19号土坑 [第23図 遺構実測図13 第37図 出土遺物実測図21]

長径0.9m以上、短径0.9m、深さ35cmを測る円形プランを呈する。

477は壺である。

21号土坑 [第23図 遺構実測図13 第37図 出土遺物実測図21]

長径1.45m、短径1.2m、深さ35cmを測る楕円形プランを呈し、18号住居を切る。遺物は、すべて底面から出土した。

478は壺である。479は壺で丸底気味の平底を呈し、直線的に外反する。480は鉢である。481、482はミニチュアの鉢である。483、484は須恵器で483は坏蓋、484は坏身である。483、484は重なった状態で出土した。

24号土坑 [第23図 遺構実測図13 第37図 出土遺物実測図21]

長径2.15m、短径1.4m（推定）以上、深さ40cmを測る楕円形プランを呈し、23号土坑を切る。中央は一段下がる。遺物は底面から出土した。

485、486は高坏である。487は坏である。

第4節 溝状遺構

1号溝状遺構 [第38図 出土遺物実測図22]

調査区東部で検出され、南北にのびる。幅70~100cm、深さ40cmを測り、断面形は逆台形を呈す。埋土上部で遺存状態のよい甌が出土したが心ない人によって盗まれた。

488~492は壺である。488~490は口縁部が短く外反する。492は底部に格子状の線刻を施してある。493~495は壺である。493は頸部から直線的に立ち上がり、端部で外反する。496は高坏で内面にミガキ調整が施してある。497~499は坏である。499は高台を持ち、高台内面に十文字の線刻が施してある。500、501は須恵器の坏身である。500は立ち上がりが短く内傾する。601は支脚で石材

は軽石である。602は凹石である。

5号溝状遺構 [第38図 出土遺物実測図22]

調査区北東部で検出され、ほぼ南北にのびる。幅75cm、深さ20cmを測り、断面形は浅い皿状を呈す。1号溝と切りあう。

502～504は壺である。

11号溝状遺構 [第38図 出土遺物実測図22]

調査区北部で検出され、東西にのびる。幅110cm、深さ30cmを測り、断面形は浅い皿状を呈す。遺物は底面から出土した。

505、506は甕である。507～509は壺である。510は須恵器の壺蓋で口縁部内部に段を有している。511、512は須恵器の壺身である。511は口縁部が短く内傾し、端部で僅かに外反する。513は須恵器の甕と思われるものの頭部で刻目が施してある。

13号溝状遺構 [第38図 出土遺物実測図22]

調査区西部で検出され、東西にのびる。幅70cm、深さ10cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。

514は小型の甕である。球形の胴部を持ち、口縁部は直線的に立ち上がる。

14号溝状遺構 [第38図 出土遺物実測図22]

調査区西部で検出され、東西方向にのびる。幅70cm、深さ40cmを測り、断面形は逆台形を呈す。

515は甕で口縁部が短く外反する。

15号溝状遺構 [第38図 出土遺物実測図22]

調査区西部で検出され、東西にのびる。幅55cm、深さ10cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。

516は甕である。

16号溝状遺構 [第38図 出土遺物実測図22]

調査区南部で検出され、ほぼ東西にのびるが、13号住居の北側で南に折れる。幅60cm、深さ30cmを測り、断面形は逆台形を呈す。折れた南側を13号住居に切られ、西側では24号住居を切る。

517は甕で平底を呈す。518、519は甕である。520は須恵器の壺蓋で天井部と口縁部の境に段を有し、口縁部内部にも段を有している。

18号溝状遺構 [第38図 出土遺物実測図22]

調査区南東部で検出され、南北にのびる。幅100cm、深さ30cmを測り、断面形は浅い皿状を呈す。

521、522は甕で口縁部が短く外反する。523は須恵器の壺蓋である。このほか凹石が出土した。

第5節 地下式横穴墓

1号地下式横穴墓 [第24図 遺構実測図14 第38図 出土遺物実測図22]

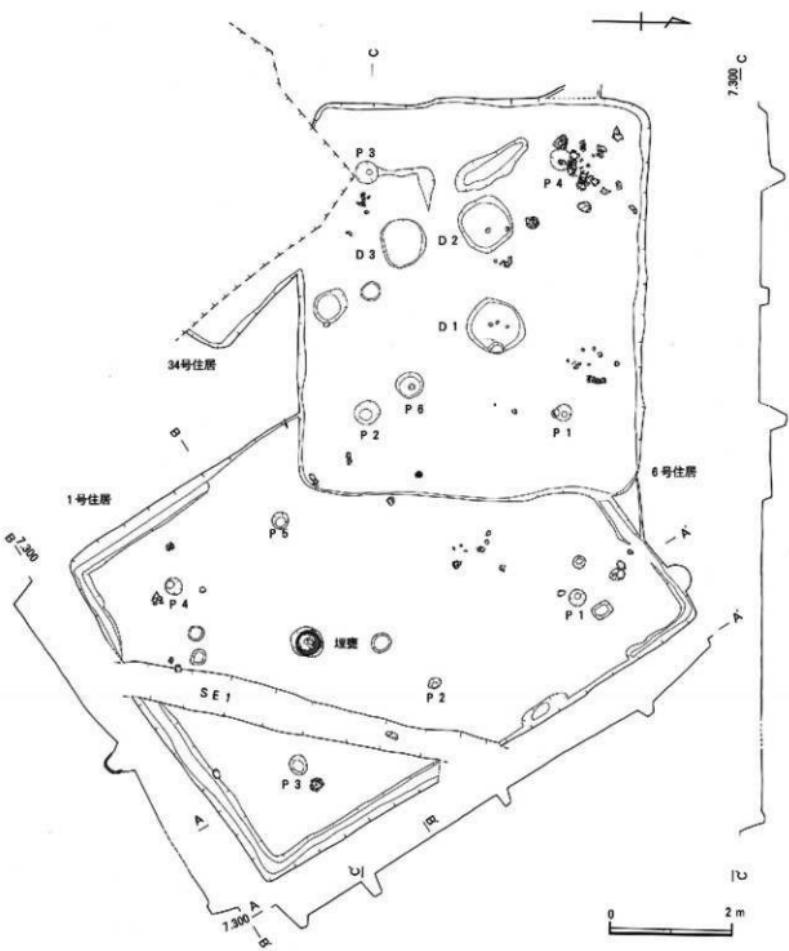
竪坑の平面形は長径1.2m、短径1mの不整椭円形を呈し、玄室のプランは平入り楕円形で、天井はドーム型を呈す。玄室の規模は幅1.3m、奥行き50cm、高さ40cmを測る。竪坑は浅く、羨道にかけてゆるやかに下降する。人骨は遺存しておらず、閉塞施設等も確認されなかった。

524は土師器の壺で玄室右袖付近の羨道寄りで出土した。525は刀子で玄室中央より出土した。

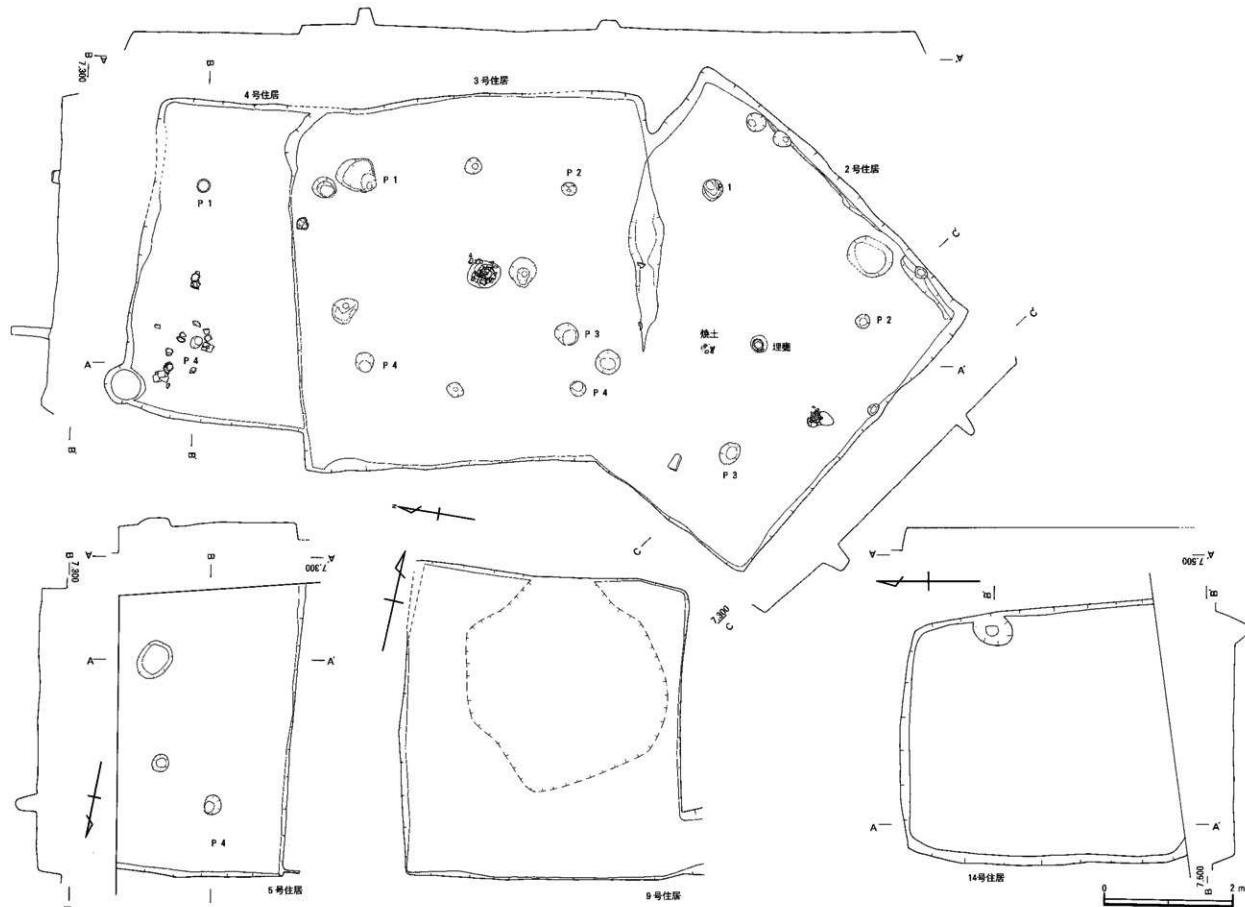
2号地下式横穴墓 [第24図 遺構実測図14 第38図 出土遺物実測図22]

竪坑の平面形は長径1.5m、短径1mの方形を呈し、東側は別造構により切られている。玄室のプランは平入り方形で、天井部の大部分は崩落していたがドーム型を呈するものと思われる。規模は幅1.4m、奥行き70cmを測る。人骨は遺存しておらず、閉塞施設も確認されなかった。

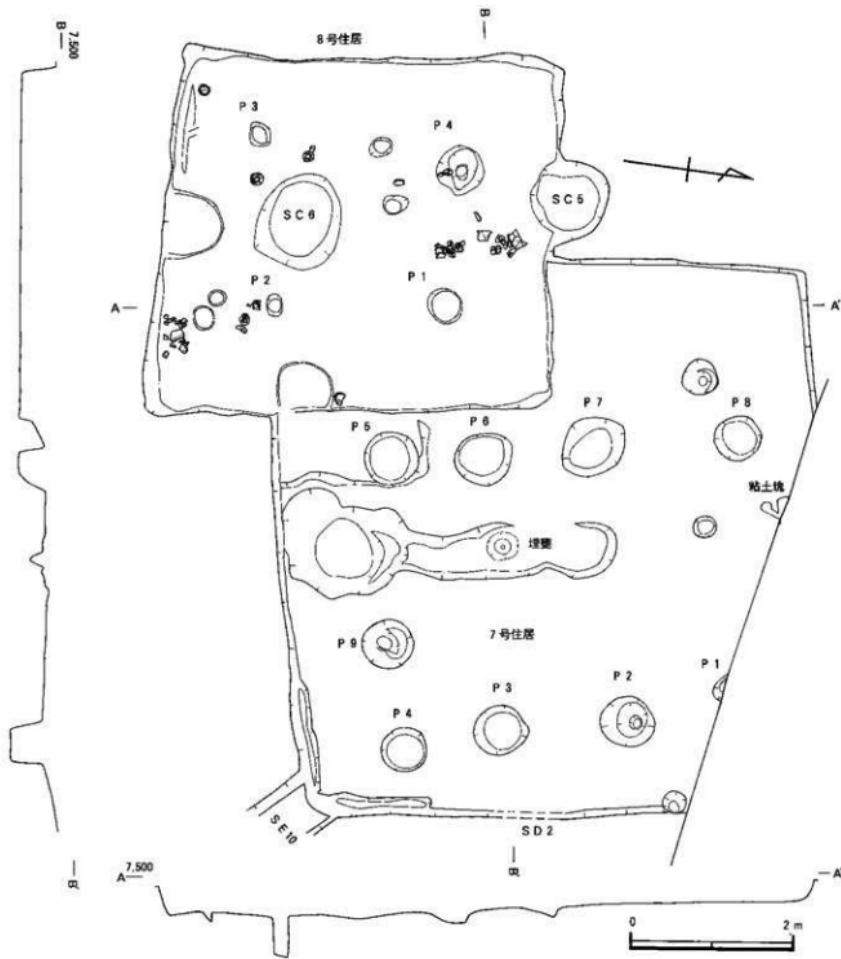
526は壺で底部は丸底を呈し胴部は扁球形を呈し、口縁部は長く直立する。玄室左袖側より出土した。527はコップ状の土器で平底を呈し、羨道部中央で出土した。528は刀子で、玄室のほぼ中央やや奥より出土した。529は鉄鎌で、玄室右袖側から出土した。



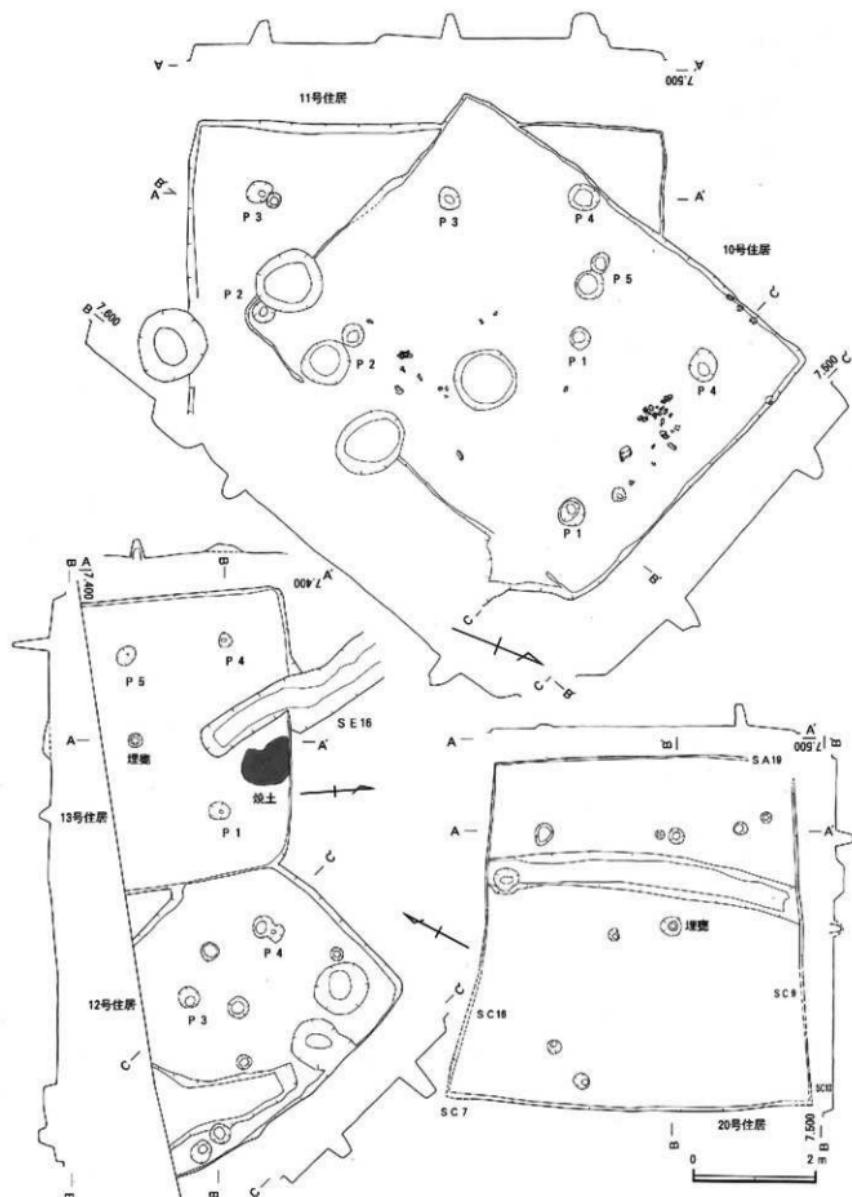
第14図 造構実測図4 (SA 1、6、34)



第15図 遺構実測図5 (SA 2、3、4、5、9、14)



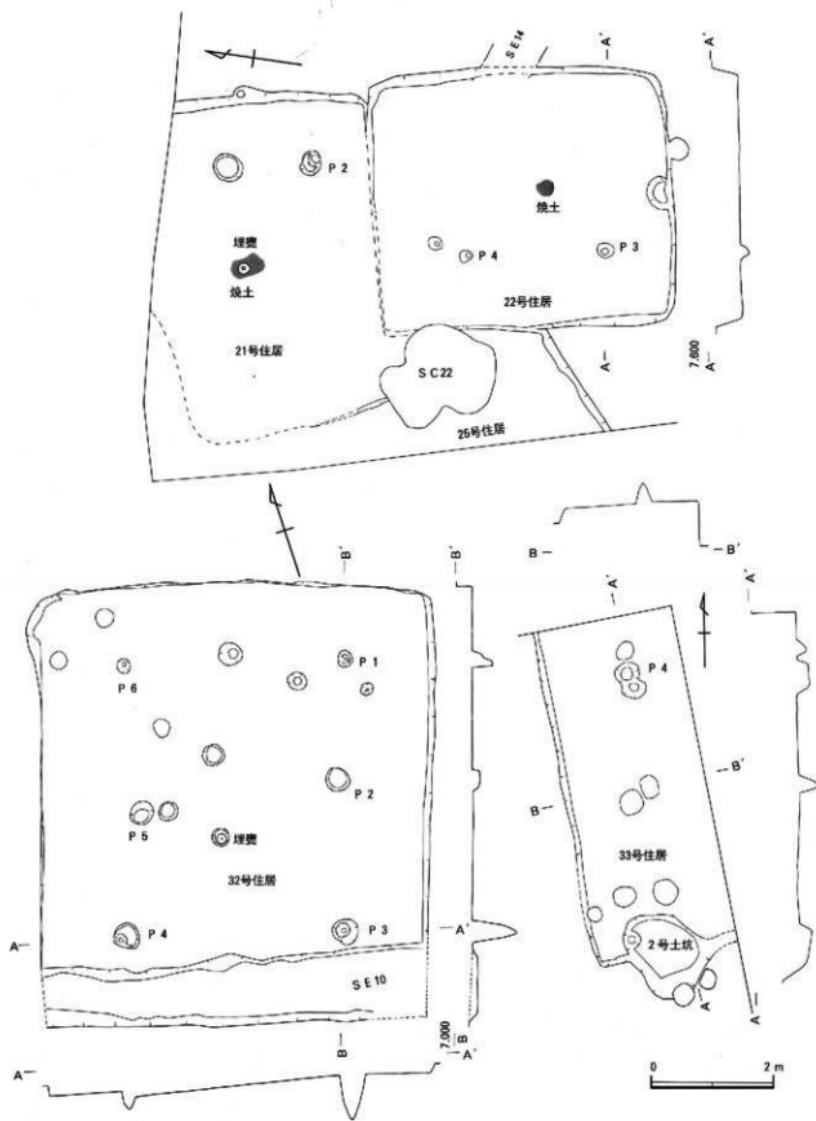
第16図 遺構実測図 6 (SA 7、8)



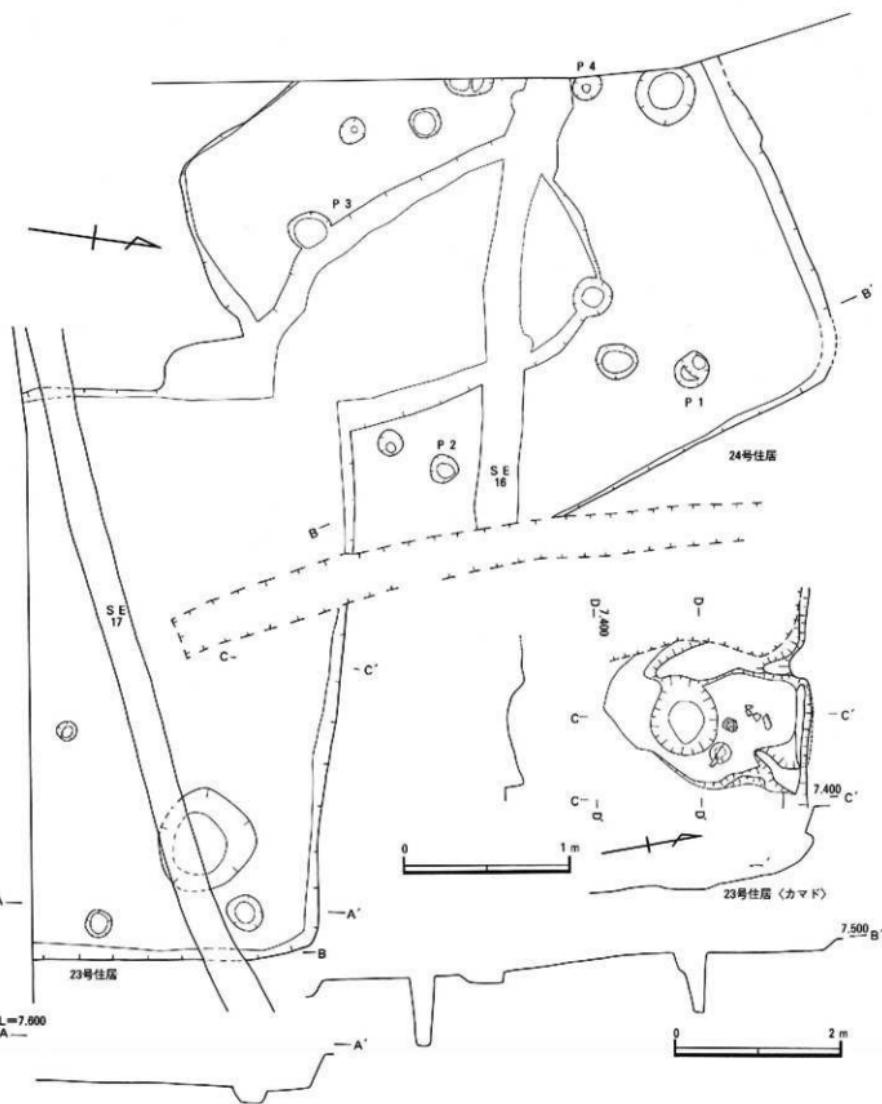
第17図 造構実測図7 (SA10, 11, 12, 13, 20)



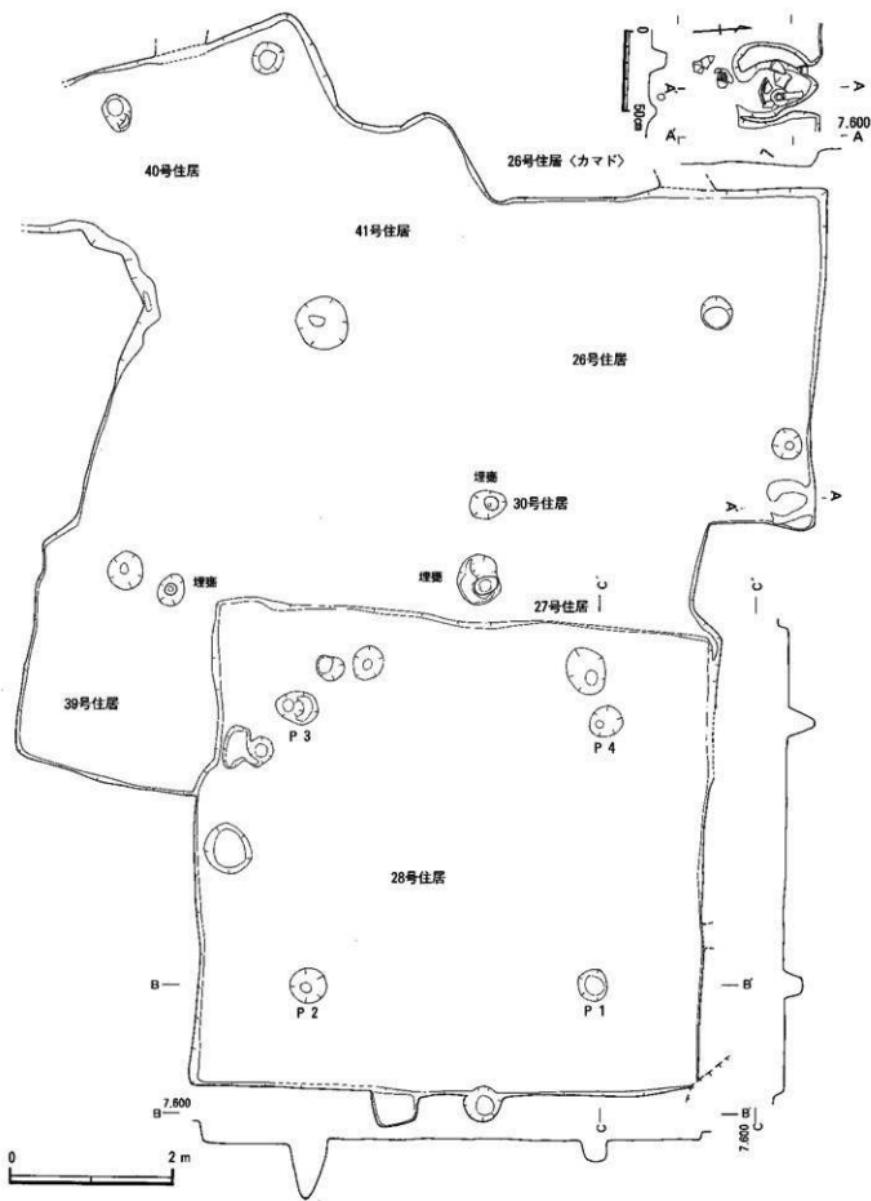
第18図 造構実測図8 (SA15、16、17、31)



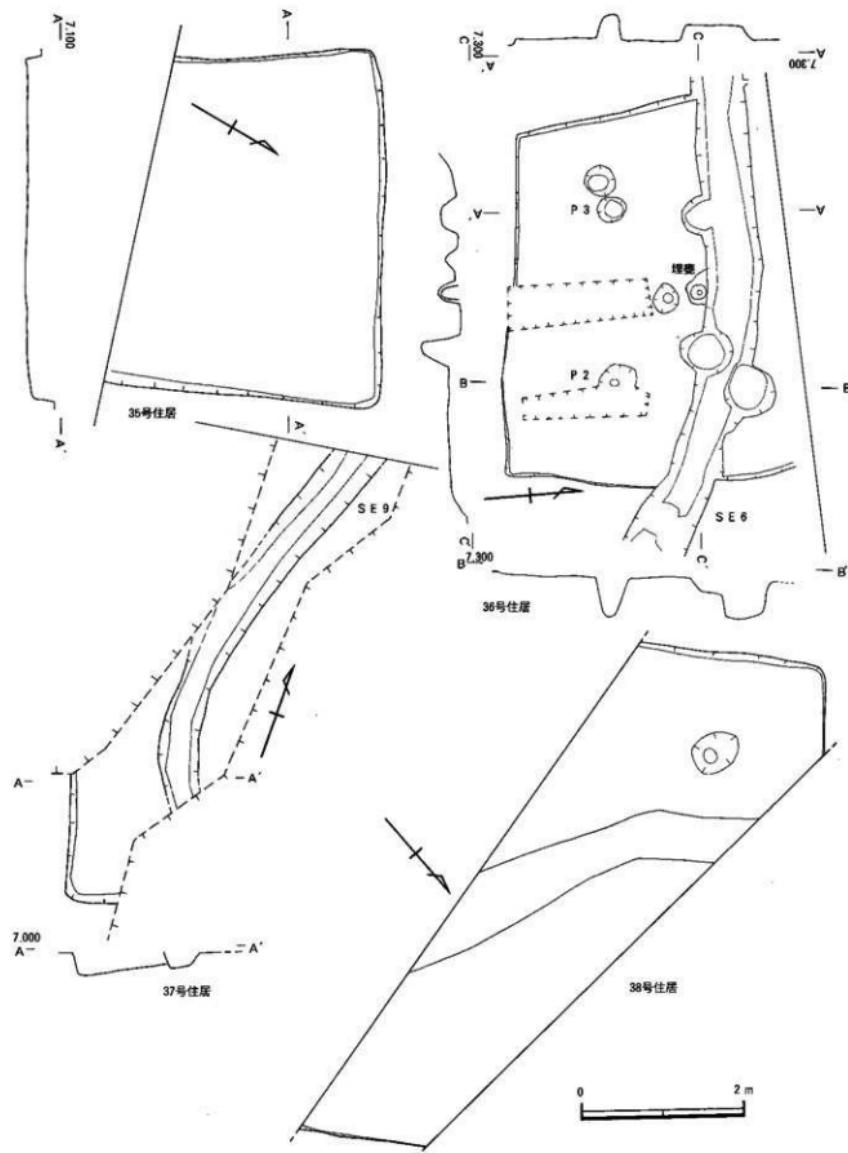
第19図 造構実測図9 (SA21, 22, 25, 32, 33 SC2)



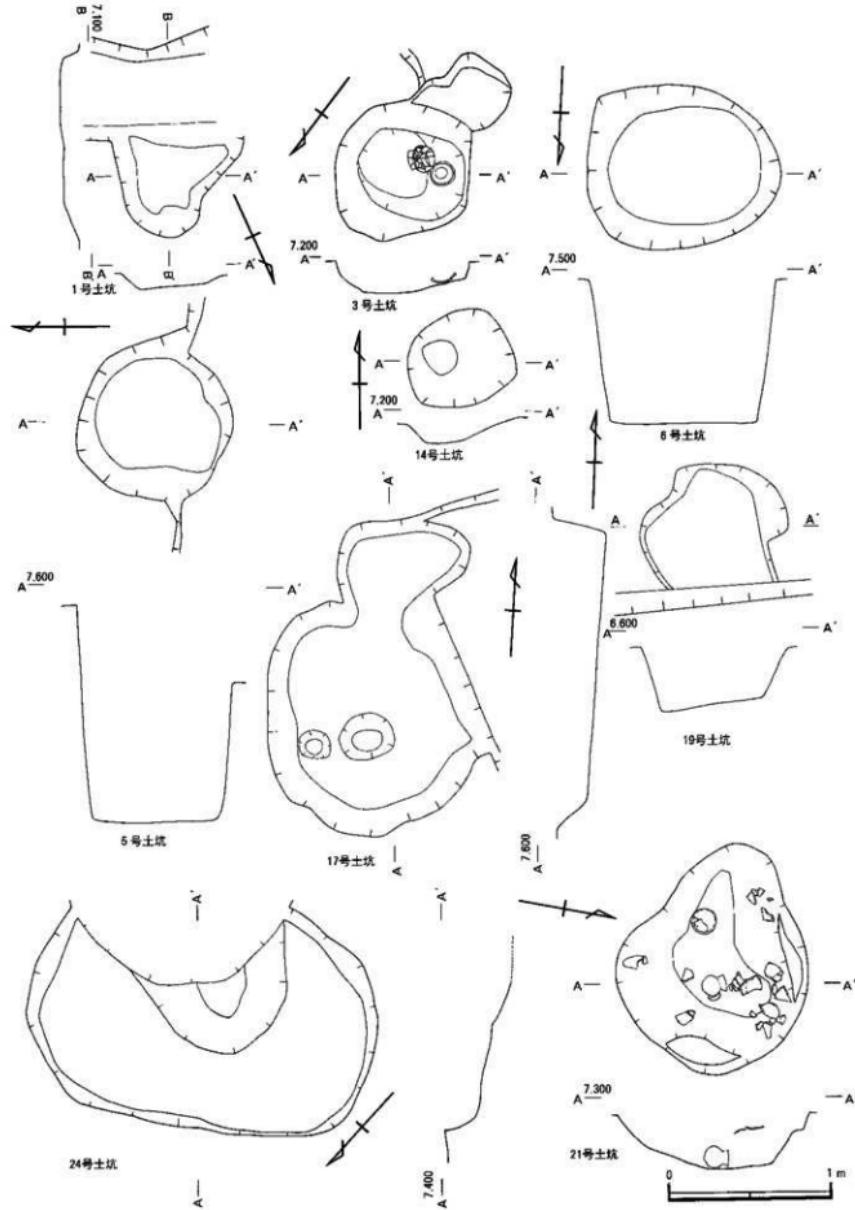
第20図 造構実測図10 (S A23、24)



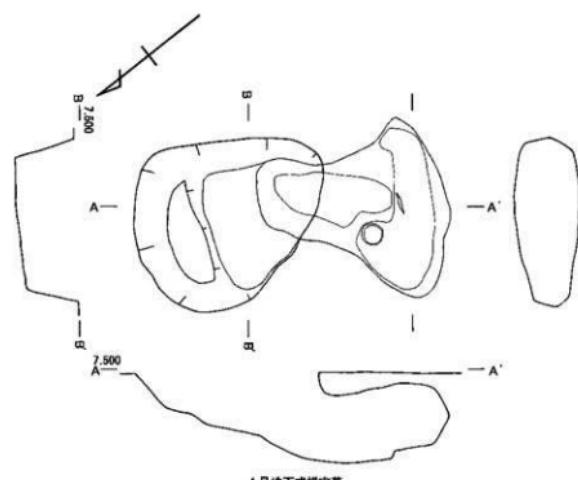
第21図 遺構実測図11 (S A26、27、28、30、39、40、41)



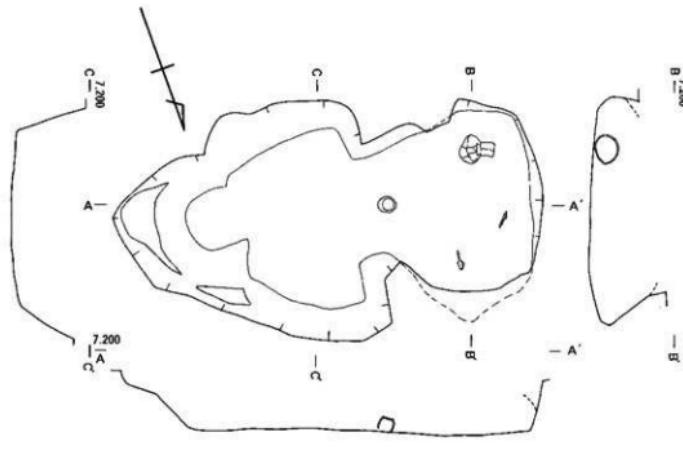
第22図 造構実測図12 (S A35、36、37、38)



第23図 遺構実測図13 (SC 1、3、5、6、14、17、19、21、24)



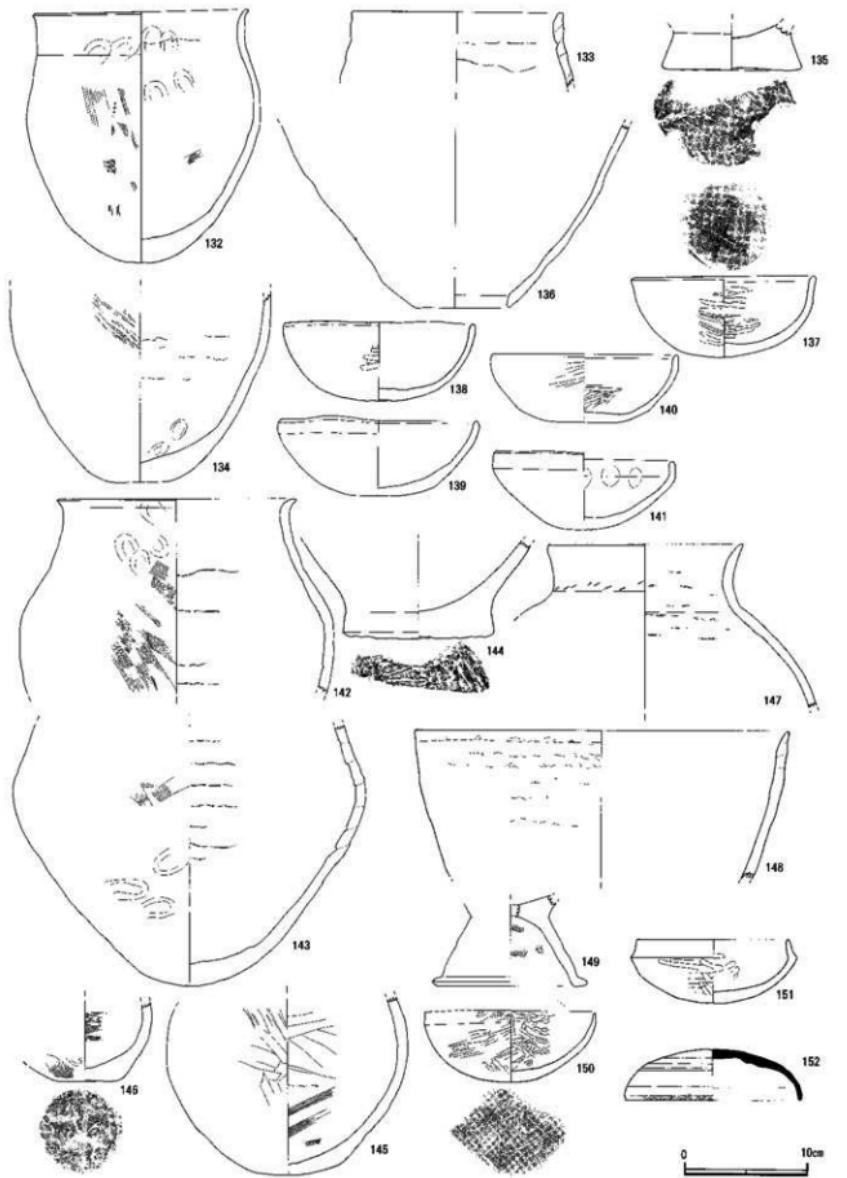
1号地下式横穴墓



2号地下式横穴墓

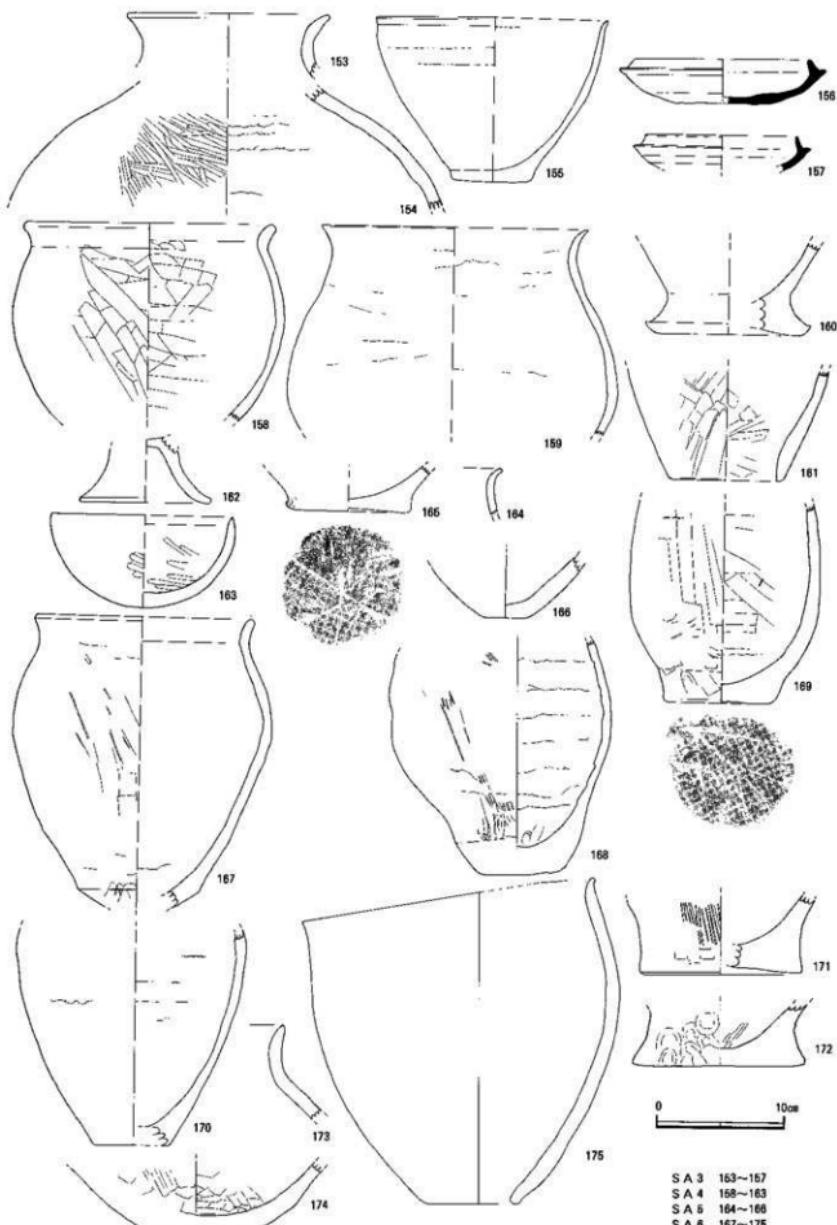


第24図 遺構実測図14 (SD 1、2)



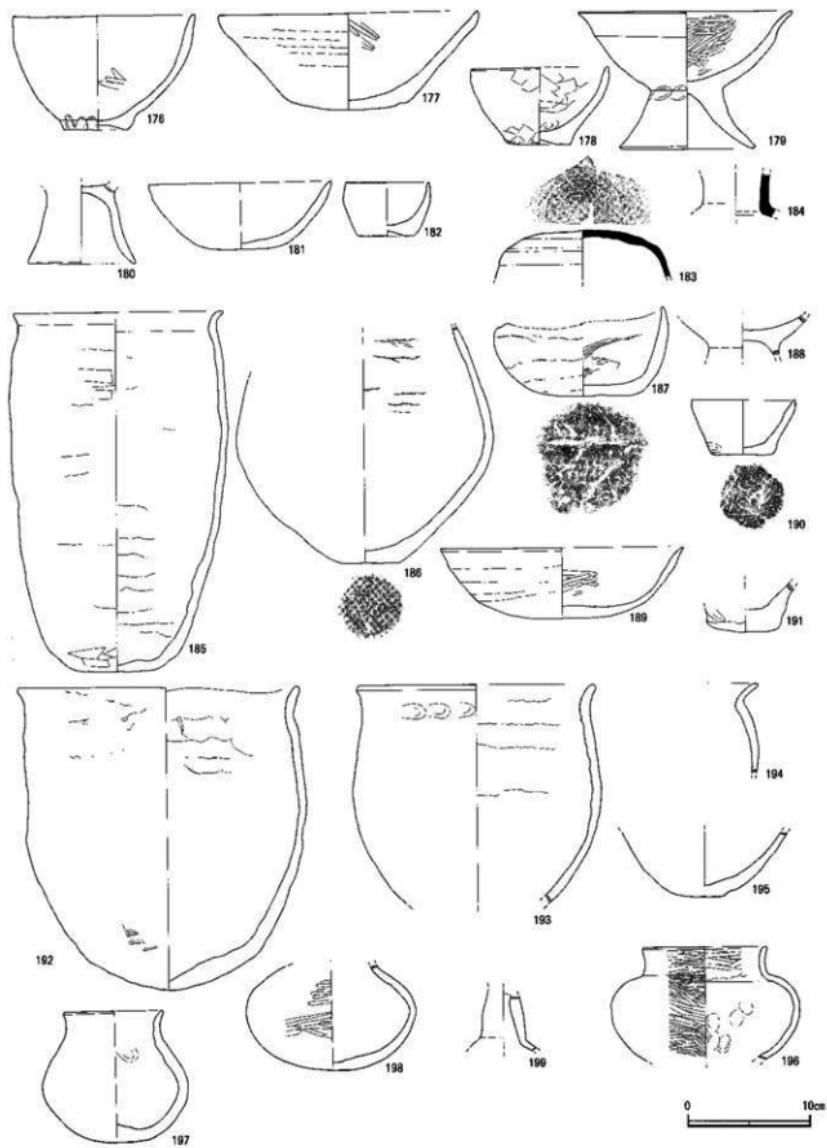
第25図 出土遺物実測図9 (SA 1、2)

S A 1 132~141
S A 2 142~152



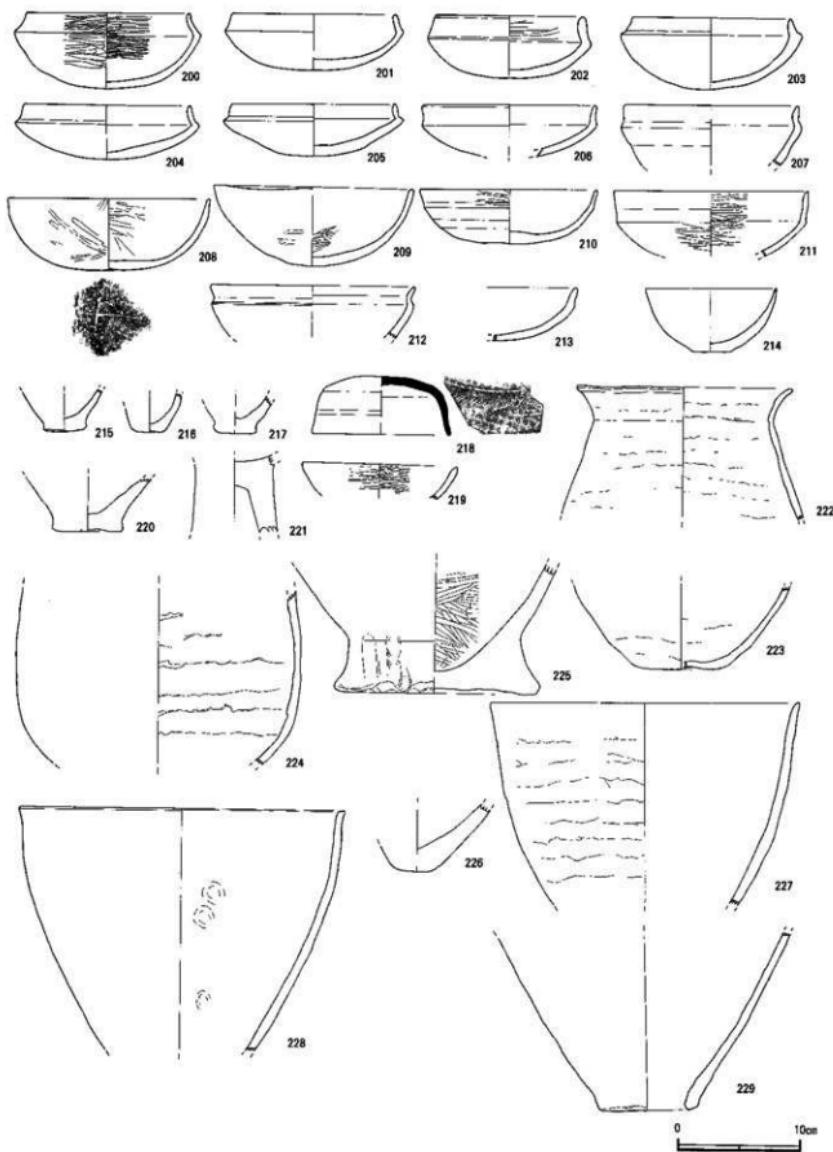
第26図 出土遺物実測図10 (S A 3、4、5、6)

SA 3 153~157
 SA 4 158~163
 SA 5 164~168
 SA 6 169~175



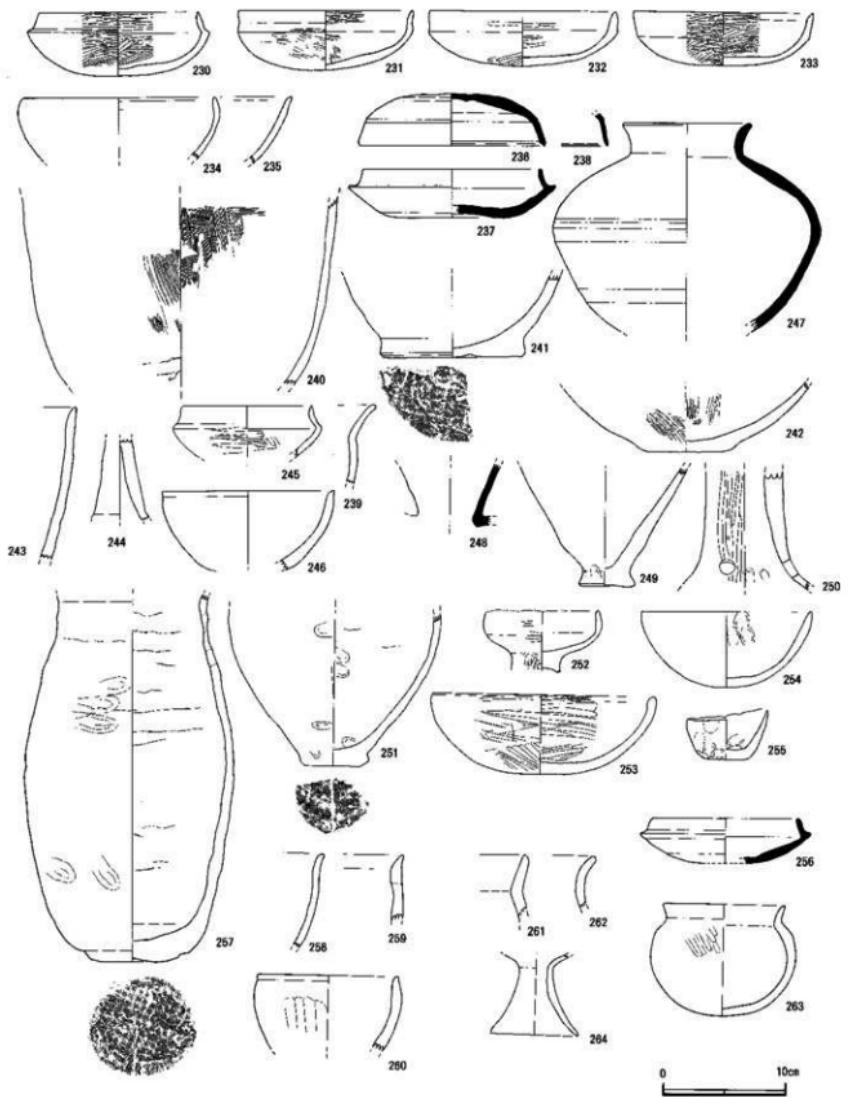
第27図 出土遺物実測図11 (SA 6、7、8)

SA 6 176~184
SA 7 185~191
SA 8 192~199



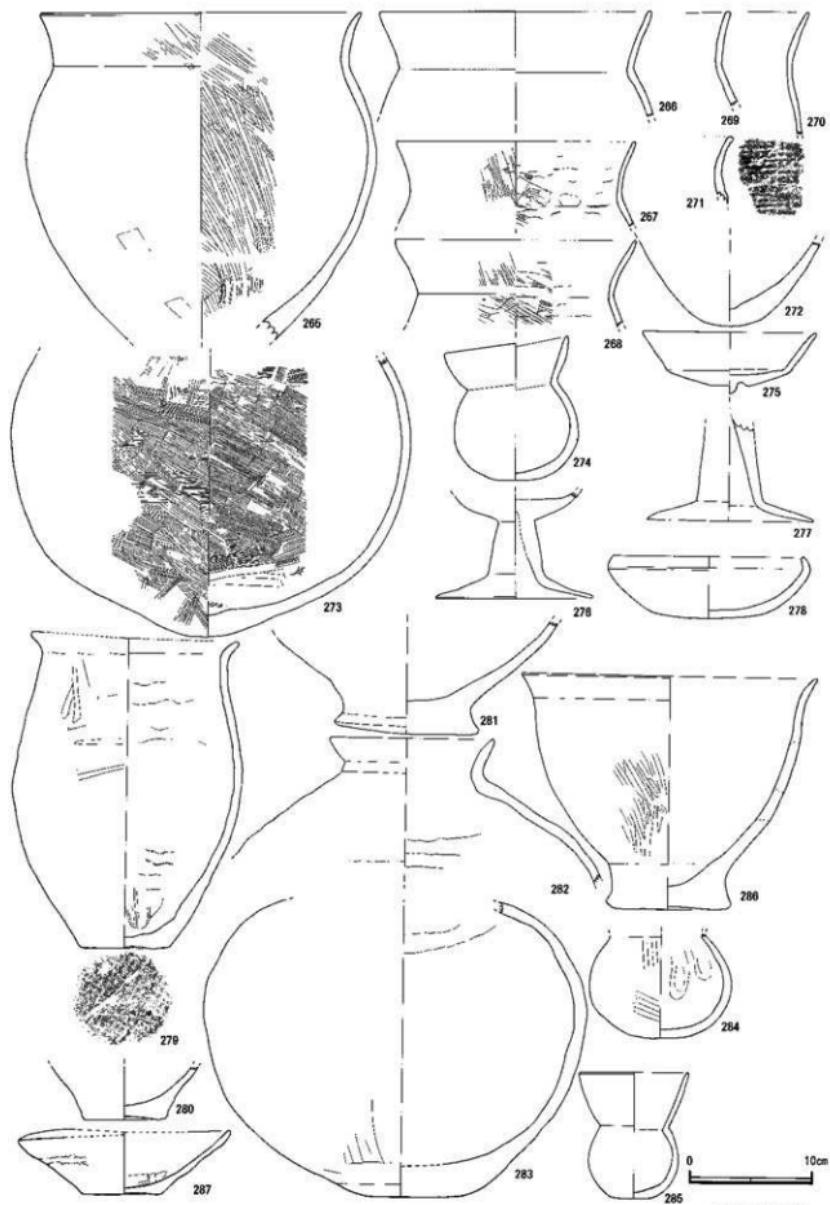
第28図 出土遺物実測図12 (SA 8、9、10)

SA 8 200-208
 SA 9 219-221
 SA 10 222-229



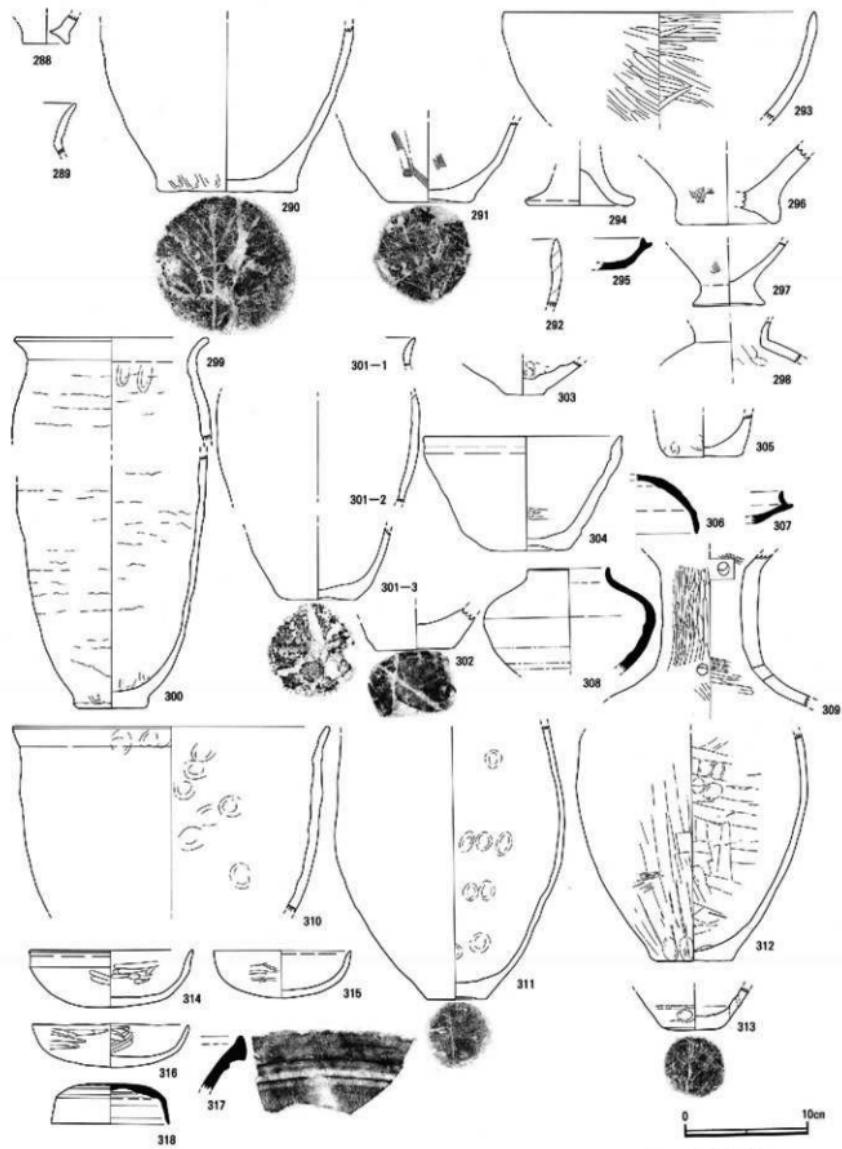
第29図 出土遺物実測図13 (S A 10、11、12、13、14)

S A 10	230~238
S A 11	239~250
S A 12	251~256
S A 13	257~260
S A 14	261~264



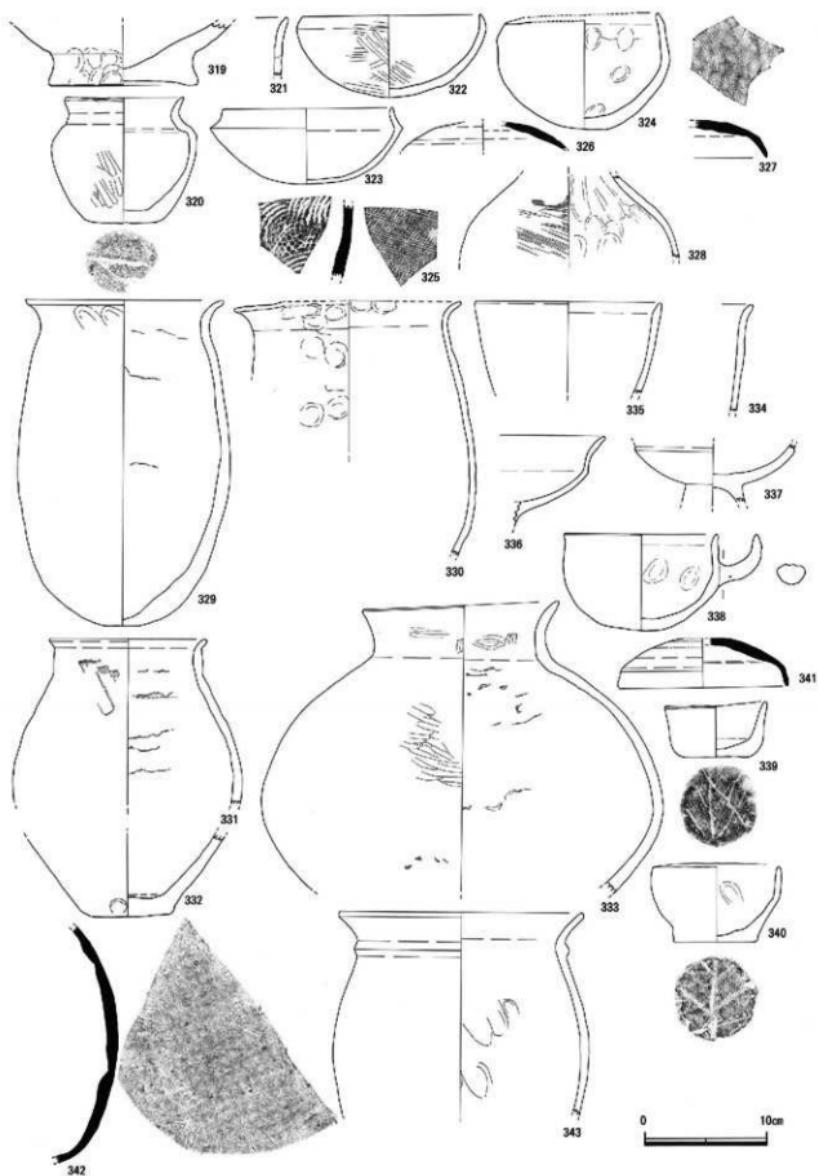
第30図 出土遺物実測図14 (S A 15、16)

S A 15 265~276
S A 16 279~287



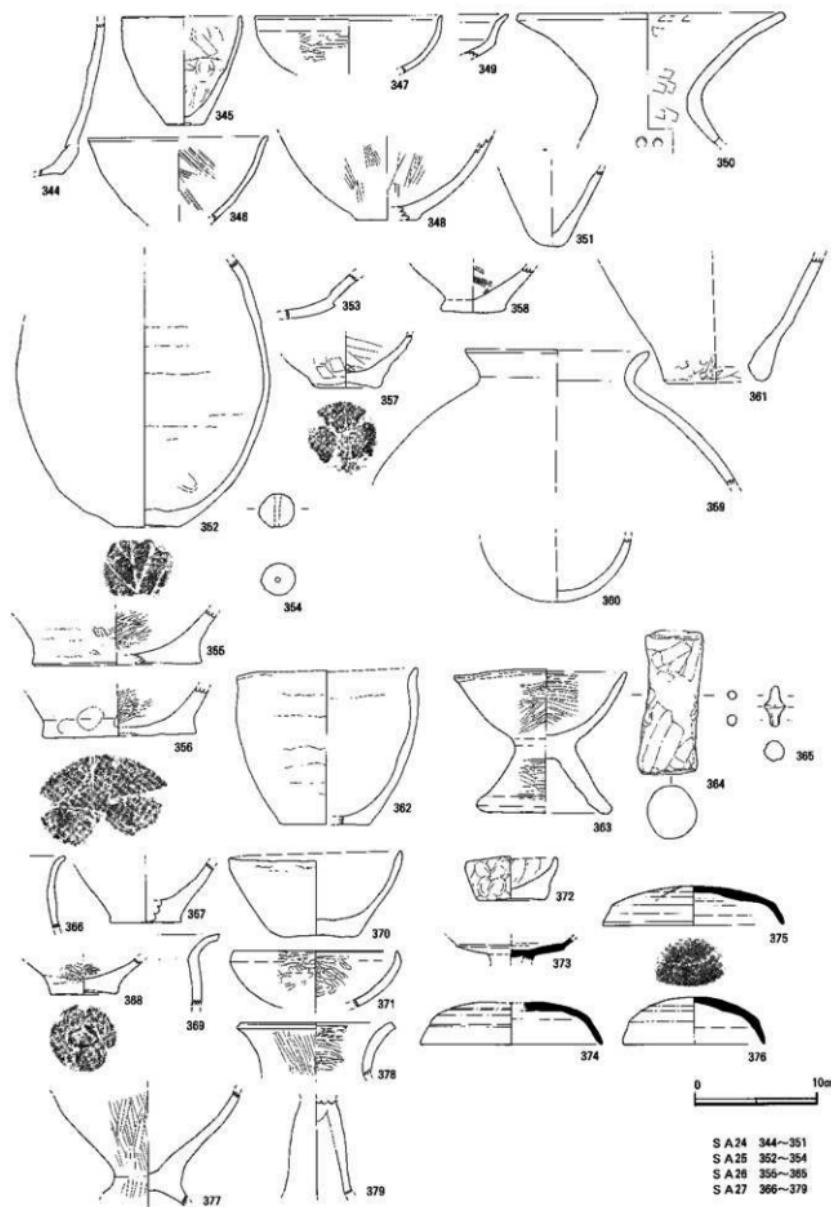
第31図 出土遺物実測図15 (S A17、19、20、21)

S A17 288
 S A19 289~298
 S A20 299~309
 S A21 310~318



第32図 出土遺物実測図16 (S A22、23)

S A22 319~328
S A23 329~343



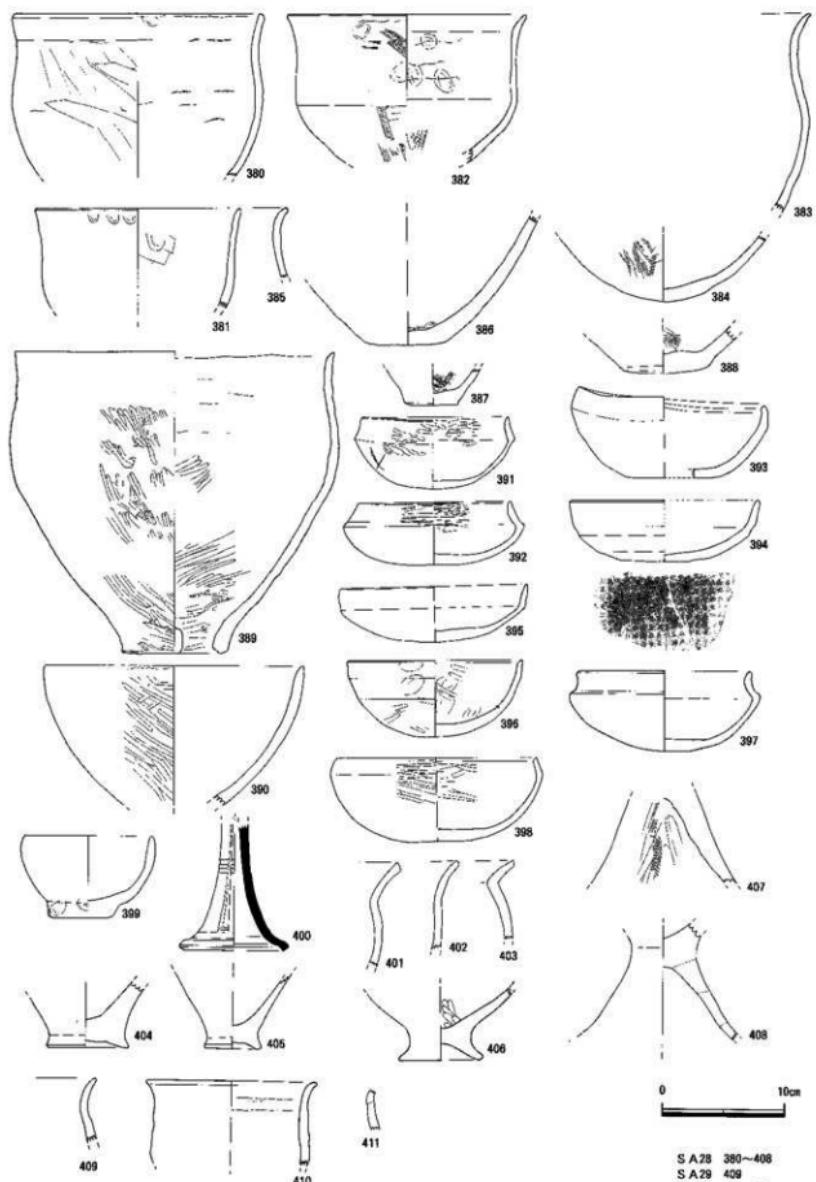
第33図 出土遺物実測図17 (S A24、25、26、27)

S A24 344~351

S A25 352~354

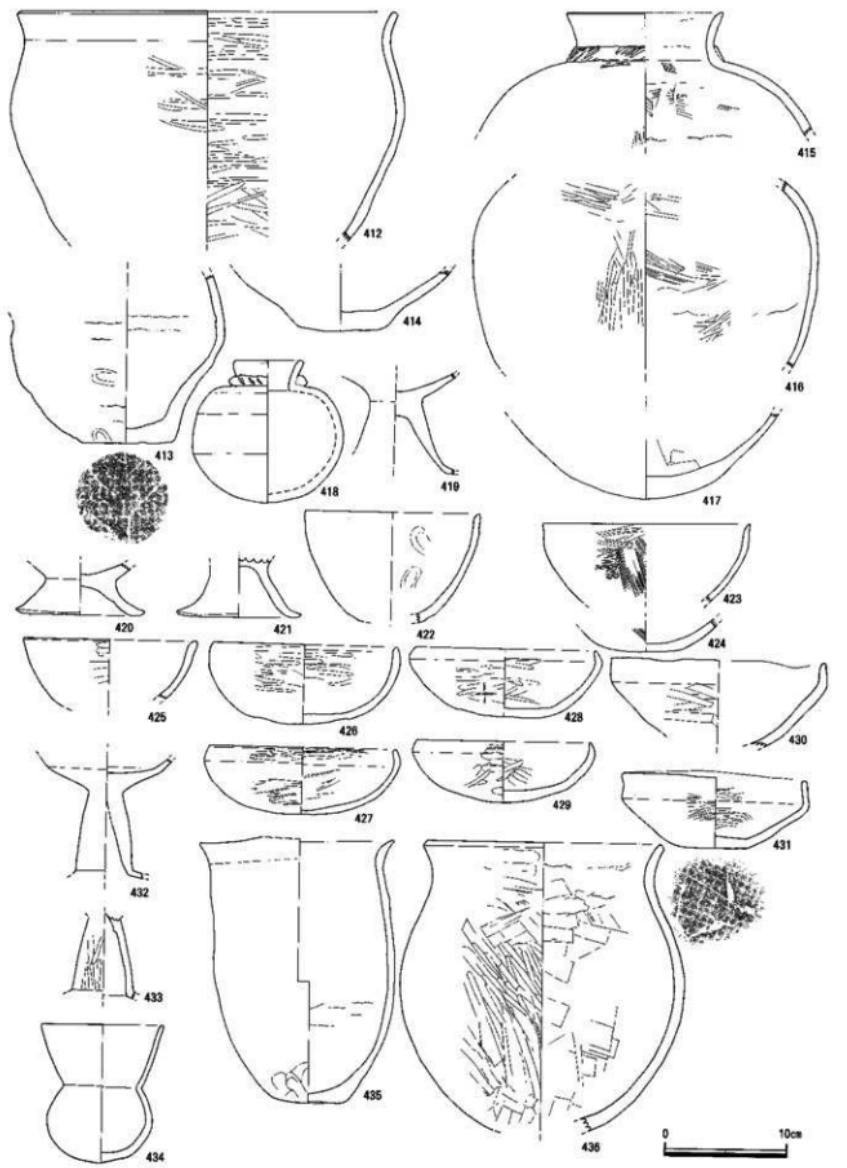
S A26 355~356

S A27 366~379

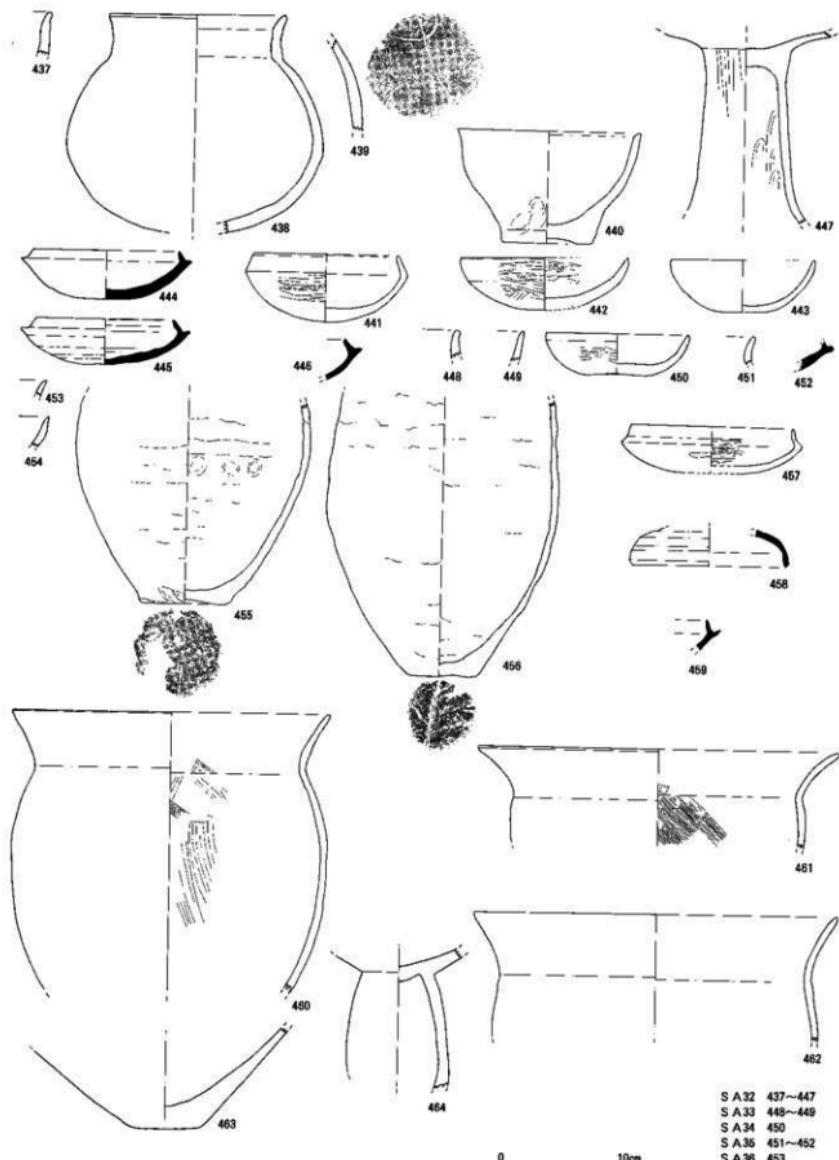


第34図 出土遺物実測図18 (S A28、29、30)

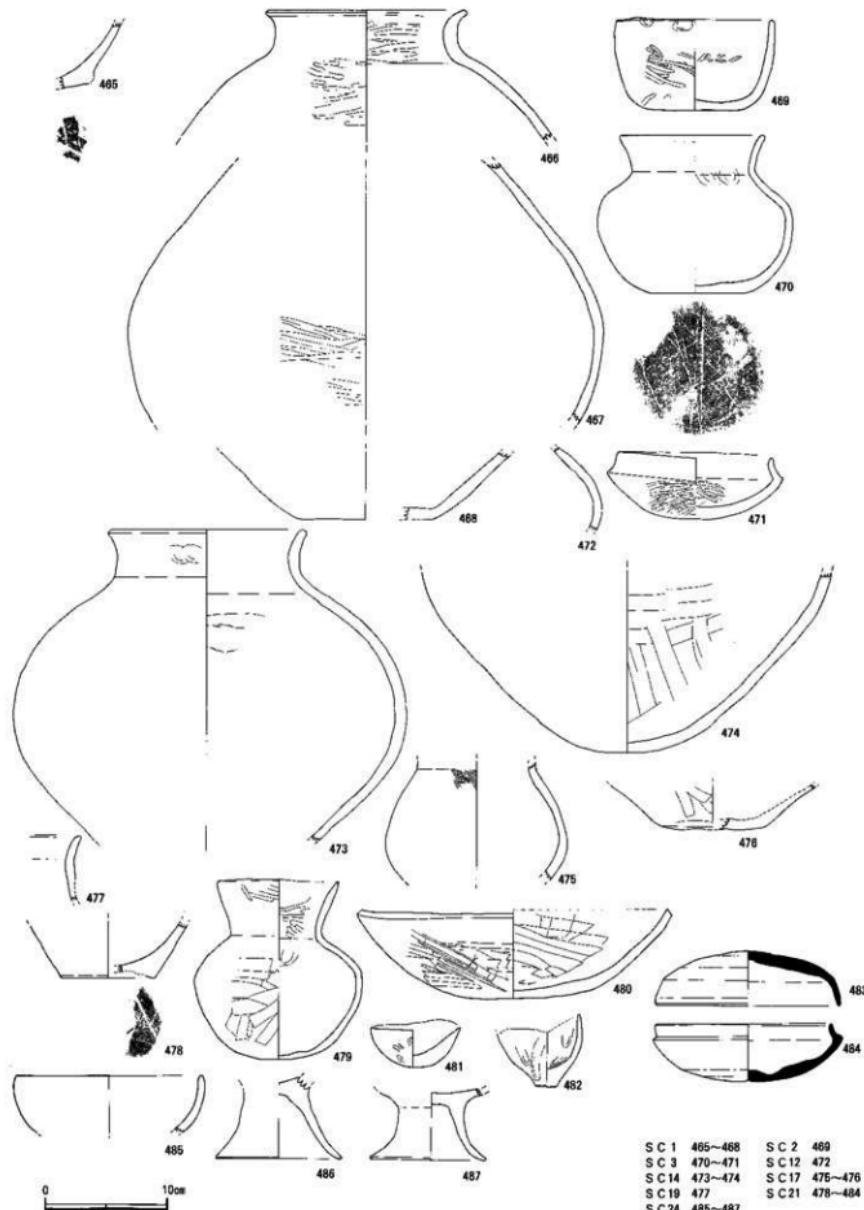
S A28 380~408
S A29 409
S A30 410~411



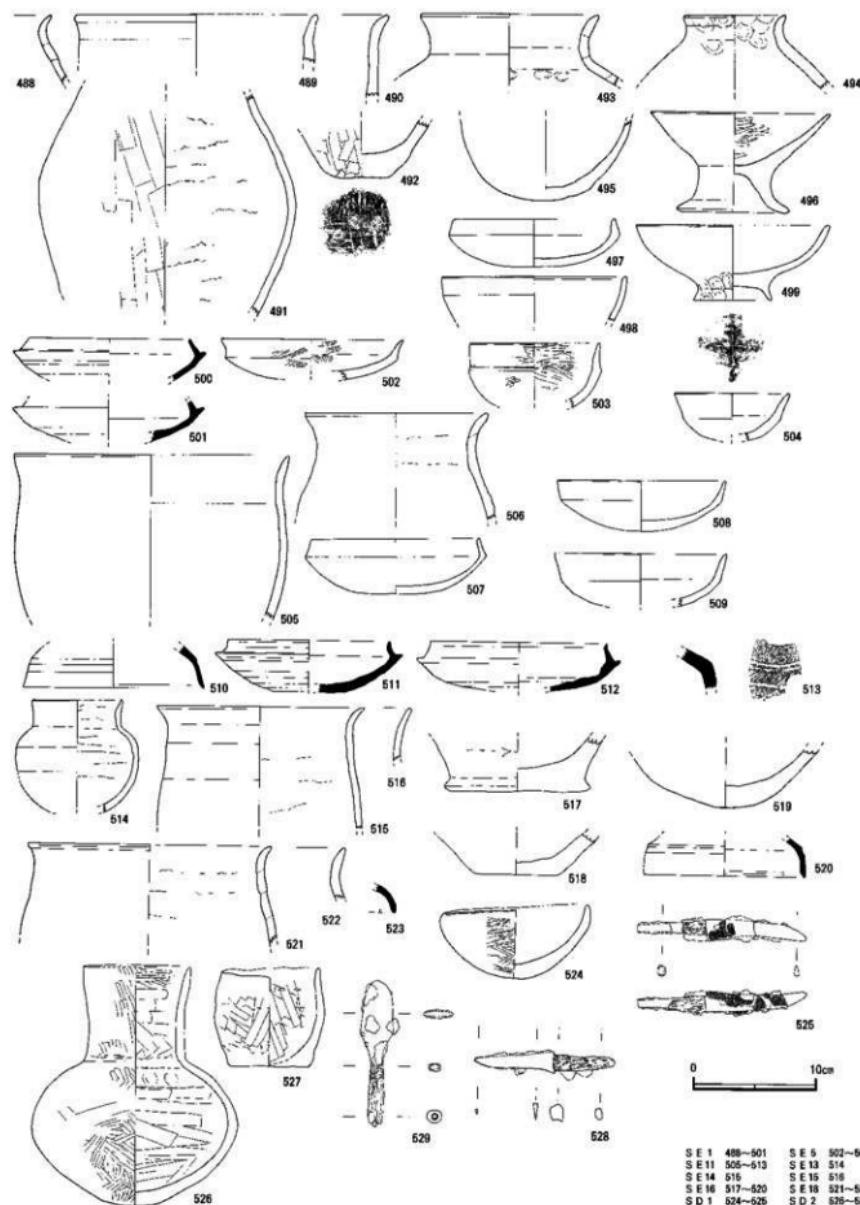
第35図 出土遺物実測図19 (S A31、32)



第36図 出土遺物実測図20 (S A32、33、34、35、36、37、38、40)



第37図 出土遺物実測図21 (S C 1、2、3、12、14、17、19、21、24)



第38図 出土遺物実測図22 (SE 1、5、11、13、14、15、16、18 SD 1、2)

SE 1	488~501	SE 5	502~504
SE 11	505~513	SE 13	514
SE 14	515	SE 15	516
SE 16	517~520	SE 18	521~523
SD 1	524~526	SD 2	526~529

第IV章 その他の遺構と遺物

第1節 調査の概要

掘立柱建物1軒、土坑9基、溝状遺構9条、ピットを検出した。土坑、溝状遺構、ピットの大半は遺物も少量でその切りあいから新しいと比定されるが、4号、7号溝状遺構は、それぞれ近世末～近代、中世に比定する事が可能と思われる。

第2節 掘立柱建物

1号掘立柱建物

28号住居の東側で検出された。桁行1間(1.7m)、梁行1間(1.6m)、深さ45～60cmを測る。遺物は出土しなかった。

第3節 溝状遺構

4号溝状遺構 [第39図 出土遺物実測図23]

調査区北東部で検出され、ほぼ東西にのびる。幅65cm、深さ10cmを測り、断面形は浅い皿状を呈す。530は陶器の碗である。

7号溝状遺構 [第39図 出土遺物実測図23]

調査区中央で検出され、南北にのびる。幅70cm、深さ15cmを測り、断面形は浅い皿状呈す。531、532は壺である。531は注口をもつ。533は鉢である。534は高杯である。

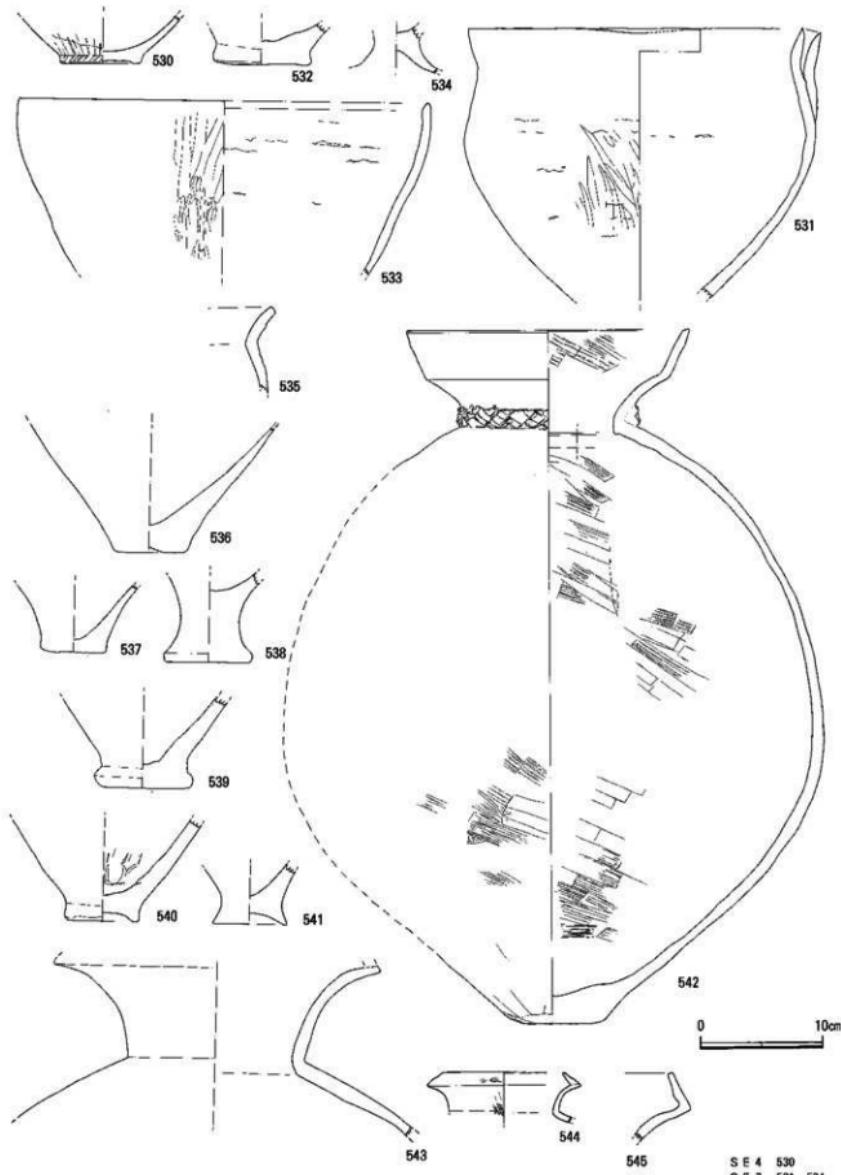
第4節 流路状遺構 [第39図 出土遺物実測図23～第40図 出土遺物実測図24]

調査区のはば中央部で検出され、弥生土器を中心とした土器を包含していた。

535～541、543～556は弥生土器である。535～541は壺である。543～549は盃である。550～553は高杯である。554～556は器台である。

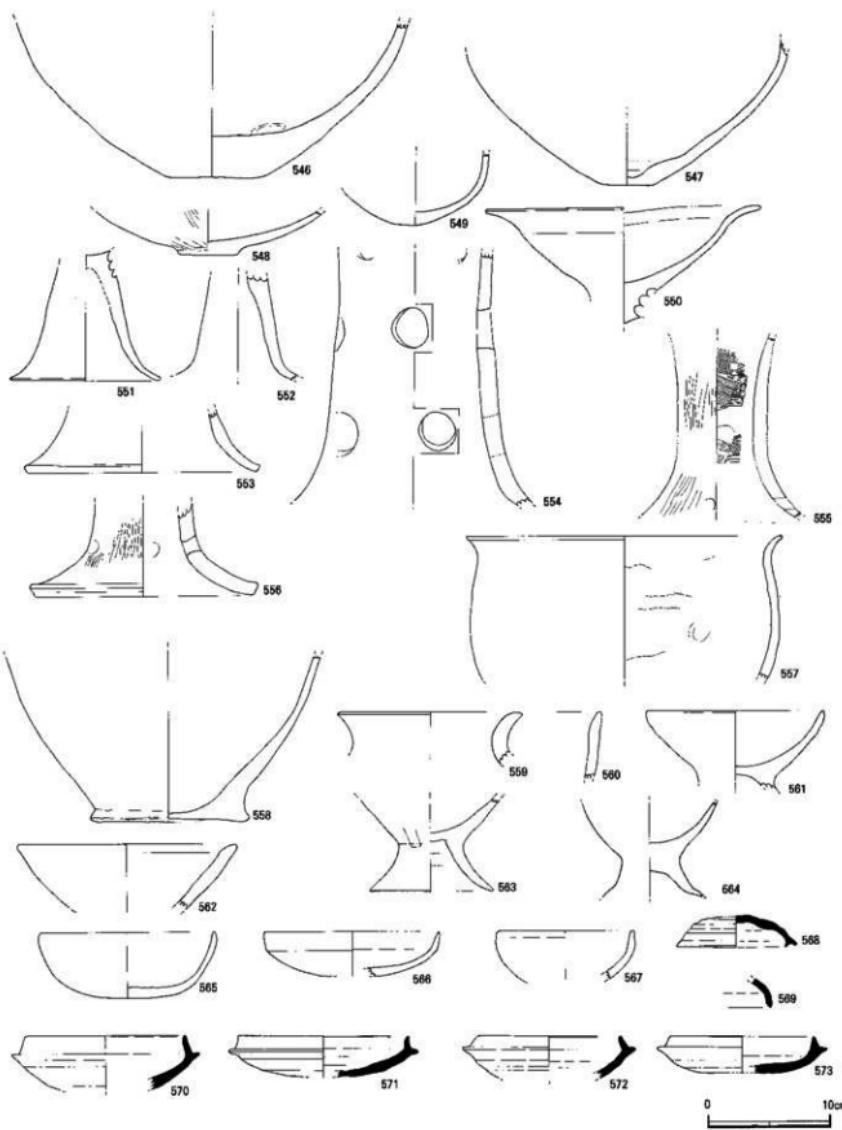
542、557～567は土師器である。557、558は壺である。542、559は盃である。560は瓶である。561～564は高杯である。565～567は杯である。

568、569は須恵器の坏蓋である。570～573は須恵器の坏身である。



第39図 出土遺物実測図23 (SE 4、7 流路状遺構)

SE 4 530
SE 7 531~534
流路状遺構 535~545



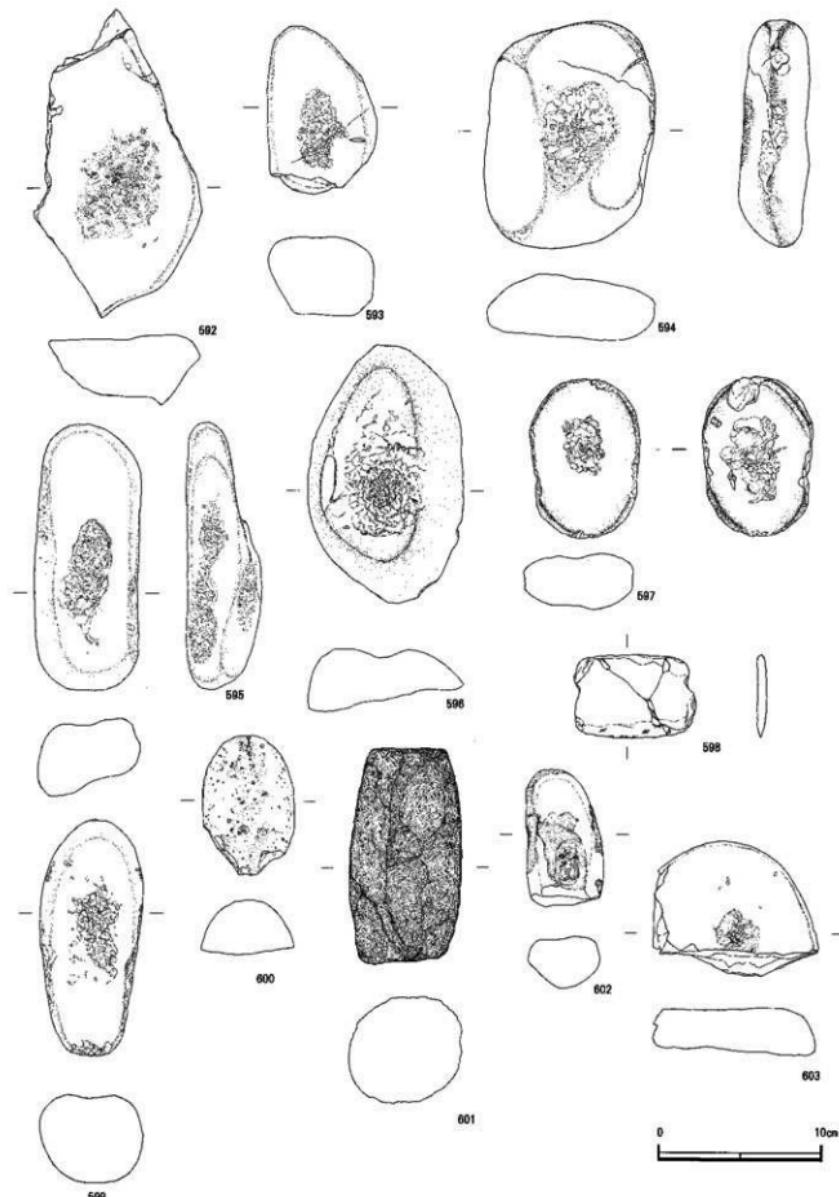
第40図 出土遺物実測図24（流路状遺構）



第41図 出土遺物実測図25（鉄器、石器）



第42図 出土遺物実測図26（石器）



第43図 出土遺物実測図27（石器）

第V章 ま　と　め

間越遺跡は、南北に帯状にのびる標高7～8m（水田面からの比高1.5m）、幅300～500mの微高地の南端付近に位置している。微高地を挟んで東西には水田が広がり、南には大淀川の支流大谷川が東流する。このように間越遺跡は、水稻耕作を主生業とし、定住が一般化する弥生時代以降においては、居住、生産、物流のいずれの面でも最良の地に立地している。また、遺跡周辺には、生目古墳群、大淀古墳群が所在しており、これらの古墳群に大型古墳が築かれた時期と集落の時期は重複していないが、強大な政治力、豊かな経済力を背景に古墳時代前期に宮崎平野中央部を掌握した首長の基盤の地に、古墳に埋葬された首長を支えた数世代後の人々が居住した集落のひとつと考えられる。

ここでは、調査結果、及びいくつかの問題点について、簡単にまとめ、結びとしたい。

【弥生時代の遺構と遺物】

当該期に属する遺構として、竪穴住居2軒、土坑10基、溝状遺構1条が検出された。遺構の時期は、概ね後期後葉に該当する。住居の検出は2軒に留まったが、遺構は調査区内でも、地表レベルの高い西側に集中しており、弥生時代の居住域は西側調査区外から更に南北へ帯状に広がるものと思われる。

10基検出された土坑は、掘り方が円形ないし梢円形を呈し、径1.5m前後のものが大半を占める。これらは、もともと貯蔵穴として掘られ、その用途終了後、廃棄土坑になったものであると思われる。このことは、遺物の出土状況からも伺える。ただ、例外的に23号土坑では、径1.7×1.55m、深さ0.7mの遺構内から甕26体以上、壺14体以上、鉢2体以上、高杯4体、器台3体以上の土器が、上層から底面まで折り重なって出土しており、何らかの特殊な状況下における短期間にの一括廃棄があったことが想定される。また、調査区東側で検出された北西～南東方向にのびる幅約20m、検出面からの深さ0.4～0.5mを測る谷状の落ち込みの埋土中からも、弥生土器、土師器が大量に出土した。遺物は混在した状態で出土しており、土層観察から、長期間かけてある程度埋まつた後に、短期間に一気に埋没した状況が確認され、6世紀後半後葉段階には、32、35号竪穴住居等が構築されている。

間越遺跡の北700mに位置する石ノ迫第2遺跡では、ほぼ同時期の集落が標高25mの台地上で確認されている¹¹⁾。このような近接する集落間の立地の違いは、広域共同体内での各集落の役割の違い、各集落構成員の階層差、出自等と密接に関連している可能性が考えられる。

【古墳時代の集落】

古墳時代の竪穴住居は、39基検出された。住居の一部が調査区外にかかるもの、住居間の切りあいにより壁を検出できなかったものが数多く、全体形が判明したのは、検出住居の約半数に留まった。旧地形は調査区西側から東側へゆるやかに傾斜しており、レベルの高い西側のほうが遺構間の切りあいが激しい。竪穴住居のなかで、最も大きなものは床面積約49m²の1号住居で、床面積25～30m²程度のものが多い。時期による住居の大きさの変化は特に認められなかった。ほとんどの

住居は、主柱穴4本であるが、大型の1、32号住居は主柱穴6本である。7号住居は3間×1間の掘立柱建物との重複の可能性も考えられるが、主軸方向が一致しており、竪穴住居内に各柱穴がきれいにおさまることから、柱4本が3.6m間隔をあけて2列に並ぶ特異な柱配列を採用した8本柱と想定した。また、柱配列を明確にすることが出来なかつたが、10号住居は6本柱、11号住居は6ないし8本柱と推測される。屋内施設としては、埋葬炉を有するものが14軒、カマドを付設する住居が3軒検出された。カマドはいずれも住居北壁に付設されている。また、15号住居は、全体の1/2強が他住居に切られ残存していないが、床面直上で広範囲にわたって焼土が検出され、竪穴住居廃棄後、住居掘りこみ内で焼却行為があつたと思われる。調査区内での竪穴住居の配置、分布については特に規則性は認められなかつたが、同時期の住居間では適度の間隔をあけて建てられており、この地を数世代にわたって居住域としたことが伺える。

その他の遺構としては、土坑が10基検出された。土坑は、全て円形を基調としたプランを呈し、1・14号土坑では、ほぼ完形に復元された壺が、また、2号土坑からは、完形の壺が1点、3号土坑からは、完形の小型の壺、杯が1点ずつ出土している。これらの土坑は、いずれも径1m以下で、浅く小規模なもので、特に1・14号土坑では土器片で、土坑内が覆われている状態であった。また、他の遺物片の混入も極めて少なかつた。用途については、何らかの理由による埋納、貯蔵・保管状態のままでの放棄が考えられるが、調査結果からそのいずれかを判断することはできなかつた。

【古墳時代の遺物】

間越遺跡では、土師器の出土数が多く、器種も豊富であった。しかし、須恵器は少なく、住居床面より出土したものは10数点のみであった。ここでは、比較的良好な状態で出土した住居出土土師器を中心に、古墳時代中期～後期の土器を5期に分けた。

第1期は、15号、40号竪穴住居出土の土器が挙げられる。器種は、土師器の壺、壺、高壺がみられ、壺は、口縁部がやや長く外方に立ち上がり、胴部は丸く張り、底部は丸底を呈す。頭部の屈曲が明瞭なもの（266、268）、屈曲がやや不明瞭なもの（265、267、269、270）の二相が存在する。他に最大径が口径となるもの（461、462）、頭部がほとんど屈曲せず、外面にタタキを施しているもの（271）もみられる。壺は、小型丸底壺の系譜をひく小型壺（274）が特色で、口径と胴部最大径がほぼ等しく平底を呈する。また、同様なものは、流れ込み資料であるが、16号竪穴住居（286）、31号竪穴住居（434）から出土しており、いずれも口縁部が長く外方に立ち上がり、底部形態は前者が平底、後者は丸底である。高壺は、壺部下方に明瞭な稜をもち（275）、脚部は柱部と裾部の境に明瞭な稜をもつ（276、277）。

1期に属する遺構は、竪穴住居2軒のみで出土遺物も少なく、須恵器も共伴していない。出土土器の特徴から、上闇F地区I～II期²¹、上の原第3遺跡出土資料²²に併行する時期とみられ、5世紀後半でも中葉に近い年代に比定される。

第2期は、1、2、4、10号住居出土遺物が該当する。器種は、土師器の壺、瓶、高壺、壺、須恵器の壺がある。壺は、丸底で、胴部は中位やや上方に膨らみ、頭部は締まらず口縁部は短く外反するもの（132、142、143、159）と、丸く張る胴部に短く外傾する器壁の厚い口縁部がつくものの（158）の二相がみられる。前者に比べ、後者は口縁部と胴部の境が明瞭である。瓶は、最大径が口

径となり、胴上半が僅かに張る（148, 227, 228）。高坏は、全体形がわかるものはないが、脚部は短く、「ハ」の字にひらく（162）。坏は、半球状のものを主体とするが（137～140, 150, 163, 234）、口縁部が直立するもの（141, 231, 232, 233）、須恵器の坏を模した口縁部が内傾するもの（230）もみられる。その他、甕もしくは鉢の底部と思われる下部がひろがる厚底の底部が出土している。須恵器は、10号住居よりTK10段階併行の坏蓋（236）が出土している。

2期は、6世紀前半～中葉頃に比定され、1期から2期の間には、約半世紀の断絶が認められる。甕の形態より1号住居住居が当該期で最も古く位置づけられ、10号住居が当該期の下限とみられる。2期は、時期幅がやや広く、1期に続き住居の密度も低い。また、2基検出された地下式横穴墓もこの時期の構築である。

第3期は、6、8、28、31号住居出土遺物に代表される。器種は、土師器の甕、壺、瓶、鉢、高坏、坏、須恵器の坏など多種にわたる。甕は、この時期には丸底のものと平底のものが共存し、丸底のものは口径と胴部最大径がほぼ等しく、口縁部は短く外反する。頸部はほとんど縮まらず、口縁部と胴部の境は不明瞭である（192, 193, 380～381, 412）。平底のものはやや長胴化し、胴中位もしくは中位やや上が最大径となる（167, 168, 170, 413）。壺は、大型のものは胴部が卵形を呈し、口縁部は直立気味に外方に立ち上がる。小型のものは器形に統一性をもたない（196～198, 418）。瓶は、胴上半部に最大径をもち、口縁部は僅かに外反する（175, 389）。高坏は、坏上部が僅かに屈曲し、口縁部は緩やかに外反する（179）。脚部は短く、「ハ」の字状にひらく。鉢は、平底で体部が内湾しながら立ちあがる塊状のもの（176, 178, 214）、底部の形状は不明だが、大型のものもみられる（390）。坏は、出土量が増え、器形もバラエティに富み、新たに須恵器の坏蓋を模した形態のものも出現する。3期で主流であった半球状のものは器高がやや低くなり数量も減る。代わって、須恵器を模した口縁部が内傾するもの、口縁部が直立するものが増加する。須恵器は、坏のみ出土しており、量は依然として少ない。

3期及び次の4期は、間越遺跡の最盛期に該当し、前時期に比べ造構密度が高くなる。この時期に該当する造構は、上記の住居以外に21号住居、3、21号土坑、1、10号溝状造構等が挙げられ、TK43段階併行もしくは、それよりやや上がる時期が想定される。

第4期は、16、22、23、32、38号住居出土の遺物に代表される。器種は、土師器の甕、壺、鉢、高坏、坏、塊、須恵器の坏、提瓶がみられる。土師器の甕は、平底で長胴化し、僅かに胴中位が張り、口縁部が短く外反する（279, 329～332）。口縁部と胴部の境は不明瞭だが、4期に比べると明瞭になる。壺は、この時期になると胴部が大きく張り、口縁部は直立気味に立ち上がり、緩やかに外反する（282, 283, 333, 438）。鉢は、厚い平底の底部をもち、体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部がゆるやかに外反する大型のものが新たに加わる（286）。高坏は、坏部中ほどに明瞭な稜をもち、口縁部が外反するもの（336）を特徴とする。坏は、前代に比べ出土数が減る。塊は、丸底で体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。把手のつくもの（338）とつかないもの（324）がある。須恵器は、坏が中心で、出土量は若干だが増加する。

第4期では、更に造構数が増える。当時期に該当する造構は、上記の他に5、11、27、36、38号住居、1、14号土坑等が挙げられ、TK43～209段階併行と想定される。

第5期になると、造構の分布は希薄になる。器種は、甕、鉢、坏、塊がみられ、長胴化が著しい

壺を特徴とする。これらは口縁部が短く外反し、胴部は長胴で中位が僅かに膨らみ、底部は平底を呈する。(185, 257, 299, 300)。5期は、7世紀前半に比定され、7、13、20、24号住居が該当する。

【地下式横穴墓】

間越遺跡では、地下式横穴墓が2基検出された。ともに単体埋葬を想定した小型のもので、平入り楕円形の玄室プランを有する。玄室天井はドーム形で、竪坑と玄室はごく短い羨道によって接続している。地下式横穴墓の周囲から、周溝、盛土等、古墳の痕跡は確認されなかった。副葬品は1号地下式横穴墓より刀子、土師器壺が、2号地下式横穴墓より鉄鎌、刀子、土師器の壺、コップ形土器が出上した。構築時期は出土土師器より6世紀前半に比定される。この項では、これまでに調査された宮崎市内の地下式横穴墓のうち、小型の平入り楕円形プランのものを中心に間越遺跡のものと比較、検討をおこなう。

宮崎市内では、現在までに約30基の地下式横穴墓が確認されており、大淀川左岸では、市北西部、国富町境の標高30mの台地上に立地する柿木原地下式横穴墓群で5基、間越遺跡の北東1.9kmの標高20mの台地上に立地する下北方地下式横穴墓群で9基が確認されている。柿木原地下式横穴墓群では2基が調査されており、1号地下式横穴墓は幅2.25m、奥行き0.95m、天井高0.8mの平入り楕円形の玄室プランであるが、玄室内には疊床を施し、羨道長が1.6mと長く⁴、間越遺跡の地下式横穴墓とは、その構造が大きく異なる。下北方地下式横穴墓群では4基が全体調査され、円墳である7号墳の埋葬施設の5号地下式横穴墓は、豊富な副葬品をもち、玄室長が5mを越える最古、最大級の地下式横穴墓である。他4号、6号が妻入り長方形の玄室プランで、平入りの玄室プランのものは8号地下式横穴墓1基のみである⁵。間越遺跡から南東に5.4km、標高5mの微高地に立地する大町遺跡では3基が調査されている⁶。大町遺跡は弥生～古墳時代の集落遺跡で、立地、集落内の構築という点で、間越遺跡と共通するが、大町遺跡の地下式横穴墓は⁷、3基が1軒の竪穴住居内に並列して造られており、廃棄後の住居床面から竪坑を掘り込み、住居外に玄室を構築する特異な工法を採用している。玄室の規模は幅0.9～1.46m、奥行き0.58～0.8m、天井高0.4～0.55mを測り、成人の埋葬はやや困難である。玄室内から隼上りⅡ段階併行の須恵器壺が出土しており、現時点では、最新の地下式横穴墓であると推測される。

大淀川右岸では、間越遺跡の北西1.1kmの標高25～30mの台地上に立地する牛目古墳群内で14基が発掘調査されている^{8) 9) 10)}。牛目地下式横穴墓群では全体が調査された8基のうち、7基が平入り楕円形の玄室プランで、玄室規模は幅1.5～2.1m、奥行き0.4～1.0m、天井高0.3～0.85mを測る。円墳である9号墳の周囲より検出された9-1、11-4地下式横穴墓からは、主頭鎌、三角鎌等の鉄鎌、刀子、鉄鎌、無肩有袋鉄斧、鉗が出土している。また、15m程離れた調査区から地下式横穴墓に伴うものか、周囲の円墳群に伴うものかは明確でないが、TK208～TK23段階の須恵器の壺、高壺、壺、壺、壺が出土している。これら2基の構築時期については副葬品の組み合わせ、竪坑上部供献土器と推測される須恵器の存在から、その上限は5世紀中葉頃に求められる。また、牛目地下式横穴墓群では小円墳の埋葬施設と推定されるもの、墳丘なし周溝を意識して構築されているものも比較的数多くみられ、出土遺物については、先述の2基を除けば少なく、遺物をまったくもたな

いものも5基含まれる。

これらのような1体を埋葬したら、余分な空間がほとんど存在しない小型の平入り楕円形の玄室プランの地下式横穴墓は5世紀代から7世紀前半までみられ、一時期に限ったものではない。立地については台地上の高塚古墳群内に構築されるもの、半地の集落内に構築されるものの二相がある。玄室天井はドーム形を呈し、内部構造は極めて質素で、また、遺体を埋葬しやすいよう羨道は幅広で短く、豊坑は玄室面積に比べ大きいものが多い。副葬品については、概ね少なく、副葬品の組み合わせは鉄鎌、刀子等の鉄製武器、工具を中心とするものから、須恵器、土師器の土器類を中心とするものへ移行するものとみられる。かつて、岩永哲夫氏は、西諸えびの地域を中心とする小型の地下式横穴墓を例に、幼少児埋葬の可能性を指摘された¹¹⁾。これまでの宮崎市域における地下式横穴墓の調査では、最も多く分布する生目地下式横穴墓群で小型の平入り楕円形の玄室プランのものが主流となっていることから、平野部においては、必ずしも小型の地下式横穴墓が幼少児埋葬をおこなっているとは言えず、その様相は異なる。ただ、間越遺跡、大町遺跡の例のような集落内に構築された小型の地下式横穴墓については、通常の地下式横穴墓群から隔離された幼少児埋葬もしくは、集落構成員の特殊な状況下における死に伴うものの可能性が高い。

間越遺跡の周辺の宮崎市生目地区では、近年、東九州自動車道関連、公園整備事業等により多くの遺跡の発掘調査が実施され、弥生から近世にいたる各時代の資料が蓄積されてきている。また、今後も史跡公園整備事業、道路改良事業が予定されており、これから実施される発掘調査によって、近い将来、日向の古代史を書き換えるような遺跡の発見が期待される。今回の調査では、弥生～古墳時代の集落の…様相を明らかにすることができたが、発掘調査、調査結果の検討とともに不十分なものとなってしまった。また、調査期間の大幅延長、現場出土遺物の盗難という事態を招いてしまい色々意味で悔いの残る調査となつた。調査の効率化、管理体制の問題も含めて今後の反省としたい。

【注】

- 1) 宮崎市教育委員会 「石ノ迫第2遺跡」「宮崎市文化財報告書」第40集 1999
- 2) 新富町教育委員会 「北原牧地区遺跡 上商遺跡F地区」「新富町文化財調査報告書」第18集 1995
- 3) 宮崎県埋蔵文化財センター 「上の原第3遺跡」「宮崎県埋蔵文化財センター・発掘調査報告書」第13集 1999
- 4) 宮崎市教育委員会 「柿木原地下式横穴墓56-1号江田原第1遺跡」 1989
- 5) 野間重幸 「下北方地下式横穴墓群」「宮崎県史」資料編(考古2) 1993
- 6) 宮崎市教育委員会 「大町遺跡」「宮崎市文化財報告書」第33集 1998
- 7) 上記報告書では、地下式横穴状造構として報告したが、調査後の資料の検討及び類例の増加により、本書では地下式横穴墓として取り扱う。
- 8) 宮崎市教育委員会 「史跡生目古墳群周辺遺跡発掘調査報告書」 1996
- 9) 注1文献
- 10) 宮崎市教育委員会 「史跡生目古墳群－保存整備事業 発掘調査概要報告書I-」「宮崎市文化財報告書」第42集 2000
- 11) 岩永哲夫 「地下式横穴墓群にみる小型形式のあり方について」「宮崎考古」第10号 1989

出土土器観察表

() 内は推定値

出土遺物番号	種類	形 品(cm)	測 定		色 測 定		計 算	備 考
			外 周	内 周	外 高	内 高		
1	陶生土器 甕	(24.9)		ハケ	ユビオサヌ ナダ	黄灰	桜	褐色の砂粒・細砂粒を多量に含む スス付着
2	陶生土器 甕			ナダ	ナダ	桜	桜	6mm以下の桜・細粒を多量に含む
3	陶生土器 甕	3.0	ナダ	ナダ	浅黄灰	浅黄灰	黒・褐色・灰の細砂粒を含み、白っぽく光る小さな砂粒を少量含む	
4	陶生土器 甕	4.6	ナダ	ナダ	桜	桜	白・灰・黒・褐色の細砂粒を含む	
5	陶生土器 甕			ナダ	ナダ	浅黄灰	3mm以下の褐色の砂粒・2mm以下の黒い砂粒を多量に含む	
6	陶生土器 甕	(3.2)	ユビオサエ ナダ	ナダ	浅黄灰	浅黄灰	3mm以下の褐色・1mm以下の黒い粒を多量に含む	
7	陶生土器 甕	5.8	ナダ	ナダ	にぶい桜	にぶい桜	5mm以下の褐色・乳白色・褐色等の粗い砂粒を多量に含む	
8	陶生土器 甕	7.0	風化者しい	ナダ	にぶい桜 灰・灰褐色	浅黄灰	砂粒・砂礫を多量に含む	
9	陶生土器 甕	14.3 21.0	4.1	ケズリ ナダ	ユビオサエ ユビオサヌ	にぶい黄灰	にぶい黄灰	灰褐色・赤褐色の砂粒を含み、同色の細砂粒を多量に含む
10	陶生土器 甕	(10.9)		ナダ	ナダ	にぶい黄灰	にぶい黄灰	3mm以下の褐色の繊維を少量、無色透明、黒色の光る粒を含む
11	陶生土器 甕	(11.7)		ユビオサヌ ユビオサヌ ナダ	ユビオサヌ ユビオサヌ ナダ	にぶい黄灰	にぶい黄灰	3.5mm以下の褐色の繊維・砂粒を多量に含む
12	陶化土器 甕	(13.3)	風化者しい		にぶい桜	にぶい桜	にぶい褐色の砂粒・細砂粒を多量に含む	
13	陶生土器 甕			ハケ後ナダ	ユビオサエ ユビオサヌ	桜	灰褐色 灰	褐色や灰の粗い砂粒と白い粒を含む
14	陶生土器 甕			ハケ後ナダ	ナダ	にぶい桜	灰	灰・灰褐色の微細粒を微量含む
15	陶生土器 甕			ナダ	ナダ	桜	桜	にぶい黄灰 灰灰
16	陶生土器 甕	(9.0)	ミガキ	ナダ	にぶい黄灰	灰	5mm以下の褐色の砂粒を含む	
17	陶生土器 甕	4.4	ナダ	ナダ	浅黄灰	黑	砂粒・砂礫を多量に含む	
18	陶生土器 甕	(3.0)	ミガキ	ハケ後ナダ ナダ	程、にぶい 灰	程、灰	3.5mm以下の赤褐色・灰・灰色の繊維を多量に含む	
19	陶生土器 甕		4.1	ミガキ?	ハケ後ナダ?	灰	砂粒を多量に含む	
20	陶生土器 甕	12.7		ナダ	ナダ	浅黄灰	3mm以下の褐色の砂粒を少量含む	
21	陶生土器 高环			ナダ	ナダ	桜	桜	3mm以下の砂粒・細砂粒と丸い黒い小粒を多量に含む
22	陶生土器 高环		風化者しい		風化者しい	にぶい黄灰	2mm未満の水色・灰の砂粒を多量に含む	
23	陶生土器 高环					桜	4mm以下の褐色の繊維を微量、灰・透明、黒の丸い粒を多量に含む	
24	陶生土器 高环		(15.3)	ナダ?	ナダ?	黄灰 灰白	黄灰	褐色・黑・灰・透明の光る微砂粒を多量に含む
25	陶生土器 高环			ナダ	ナダ	桜 灰灰	白・灰・灰褐色の微細粒を含む	
26	陶生土器 高环			ナダ	ナダ	にぶい黄灰	褐色・灰・褐色等の細砂粒を含む	
27	陶生土器 高环		17.6	風化者しい	風化者しい	桜	2mm以下の灰色・褐色の粒・1mm以下の水色の粒を含む	
28	陶生土器 ミニヨウ			ナダ	ナダ	浅黄灰	4mm以下の褐色・褐色の砂粒を含み、1mm以下の黒い砂粒を少量含む	
29	上部器 甕	14.7 16.6	1.0	ハケ ナダ ハケ後ナダ	オサエ ナダ ナダ	にぶい桜	褐色の砂粒・細砂粒を含む	
30	陶生土器 甕		(2.0)	ナダ?	ナダ?	にぶい桜 灰・灰 灰	黒・褐色・灰の砂粒・細砂粒を多量に含む	
31	陶生土器 甕		2.5	風化者しい	風化者しい	にぶい桜 明褐色	にぶい桜 桜	にぶい桜 桜・灰灰の砂粒を多量に含む
32	陶生土器 甕		3.0	ナダ	ナダ	にぶい黄灰	1mm以下の黒・褐色の細砂粒を多量に含む	
33	陶生土器 甕		2.4	ハケ ナダ	ナダ	浅黄灰	2mm以下の褐色・白・灰・黒の砂粒・1mm以下の同色の細砂粒を多量に含む	
34	陶生土器 甕		1.2	ナダ	ナダ	にぶい黄灰	にぶい黄灰の砂粒を含む	
35	陶生土器 甕	7.1		ナダ	ユビオサエ	灰白 浅黄灰	明褐色・灰灰の砂粒を含む	
36	陶生土器 甕	22.7		ハケ ナダ	ナダ	にぶい桜 灰灰	にぶい桜・褐色・乳白色・透明の光る砂粒・細砂粒を多量に含む	波状文
37	陶生土器 甕			ナダ ハケ	ナダ	浅黄灰	2mm以下の褐色の砂粒・黑色の繊細粒を含む	波状文
38	陶生土器 甕			ナダ	ナダ	黄灰	2mm以下の赤褐色・灰褐色の砂粒を含む	波状文
39	陶生土器 甕	20.8		ハケ ナダ	ナダ	にぶい黄灰	2mm以下の赤褐色・黑灰色の砂粒を含む	

出土土器観察表

() 内は確定値

出土状況 場所 番号	種類 器種	寸 法 (cm)	調査				地 質	土	備考
			外 面	内 面	外 面	内 面			
4号土坑	土師器 盆	15.5	風化著しい	風化著しい	桜	に高い桜	褐色・褐灰の砂粒・細砂を多量に含む	黒斑	
	陶土器 蓋		ナゲ	ナゲ	浅黄褐色	浅黄褐色	2mm以下の灰黄褐色・に高い青褐色の砂粒・細砂を含む		
	陶土器 蓋		ミガキ	ナゲ ケズリ	桜	桜	2.5mm以下の黒・褐色の砂粒・黒く光る母貝を多量に含む		
	陶土器 蓋		風化著しい	風化著しい	桜	桜	3mm以下の黒・褐色の砂粒・砂粒を多量に含む	透かし孔	
	陶土器 蓋	27.6	22.4	6.9	ナゲ スピコサエ	に高い桜 ハケ	浅黄褐色 灰褐色	5mm以下の黒・暗褐色の砂粒を多量に含む	
8号土坑	陶土器 蓋	(22.6)	ナゲ	風化著しい	に高い青褐色 灰褐色	に高い青褐色	5mm以下の赤褐色の砂粒を含む		
	陶土器 蓋		ナゲ	風化著しい	に高い青褐色	に高い青褐色	5mm以下の赤褐色の砂粒を含む		
	陶土器 蓋		ハケ	ハケ	褐灰・黒褐色 に高い青褐色	に高い桜	2mm以下の褐色の砂粒を含む		
	陶土器 蓋		ナゲ	に高い青褐色	に高い桜	に高い青褐色	5mm以下の灰黄褐色の砂粒を微量に含む		
	陶土器 蓋	(5.6)	ナゲ スピコサエ	風化著しい に高い青褐色	に高い青褐色 灰褐色	に高い青褐色	5mm以下の赤褐色の砂粒を含む		
9号土坑	陶土器 蓋	(9.6)	ナゲ	ナゲ	浅黄褐色	浅黄褐色	3mm以下の褐色の砂粒を含む		
	陶土器 蓋			4.0	風化著しい	桜	2mm以下の黒・灰の砂粒を含む		
	陶土器 蓋	(20.6)	(7.3)	(2.8)	風化著しい	に高い青褐色 黒	2mm以下の黒・白・褐色の砂粒を多量に含む		
	陶土器 蓋	(12.1)	(6.9)	ケズリ	ナゲ	に高い桜	3mm以下の灰白・褐灰の砂粒を多量に含む		
	土師器 蓋	(28.4)	ナゲ	ハケ	黄褐色 灰褐色	に高い桜	5mm以下の褐色の砂粒・砂粒を含む		
10号土坑	陶土器 蓋	10.7	17.5	ナゲ スピコサエ	ハケ スピコサエ	に高い青褐色 に高い青褐色	に高い桜	2mm以下の褐色の砂粒を多量に含む	
	陶土器 蓋			3.6	ナゲ	に高い桜	に高い青褐色	3mm以下の灰白・褐灰の砂粒を多量に含む	
	陶土器 蓋	(10.4)		風化著しい	ナゲ	に高い桜	に高い青褐色 灰褐色	5mm以下の褐色の砂粒・砂粒を含む	
	陶土器 高杯	(26.0)		ミガキ	ナゲ	桜	桜	1mm以下の黒・褐色の砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ナゲ	に高い青褐色	2mm以下の褐色の砂粒を微量含む		
16号土坑	陶土器 高杯				ナゲ	に高い青褐色	2mm以下の黒色の砂粒を微量含む		
	陶土器 高杯			5.0	ナゲ スピコサエ	に高い青褐色 黒	0.5~4.5mmの黒・褐色・灰の砂粒・砂粒・細砂を微量に含む		
	陶土器 高杯	(12.6)			ナゲ	に高い青褐色 に高い青	2mm以下の黒・白・褐色の砂粒を多量に含み、透明で光沢有細砂を微量含む		
	陶土器 高杯			4.9	風化著しい	ハケ	桜	3mm以下の褐色の砂粒を含み、1mm以下の黒葉身・石英を微量含む	
	陶土器 高杯			1.0	ナゲ	ナゲ	灰	1mm以下の褐色の砂粒を微量含む	
20号土坑	陶土器 高杯			3.4	風化著しい	青褐色	浅黄褐色	0.5~7mmの白・黒・褐色・灰の砂粒・砂粒・細砂を多量に含む	
	陶土器 高杯				ナゲ	桜	3mm以下の黒・白・褐色の砂粒を多量に含む		
	陶土器 高杯				ナゲ	に高い桜	4mm以下のに高い青褐色・灰の砂粒を含み、同色の砂粒・細砂を微量に含む		
	陶土器 高杯				ナゲ ハケ ケズリ	灰灰	2mm以下の黒・白・褐色の砂粒を多量に含む	力振り 灰灰	
	陶土器 高杯				ナゲ スピコサエ	浅黄褐色	3mm以下の黒・白褐色の砂粒・砂粒を含む	成灰文	
24号土坑	陶土器 高杯				ナゲ ハケ	に高い桜	に高い青褐色	2mm以下の黒・褐色の砂粒・砂粒を多量に含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の褐色の砂粒・砂粒・細砂を微量含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂を微量含む	
	陶土器 高杯				ハケ後	ケズリ後	浅黄褐色	1mm以下の黒・褐色の砂粒を含み、表面な傷跡を微量含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ナゲ	桜	4mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂・石英を多量に含む	
	陶土器 高杯				風化著しい	風化著しい	浅黄褐色	4mm以下の褐色の砂粒・砂粒を多量に含む	
	陶土器 高杯				ナゲ	ナゲ	桜	4mm以下の褐色の砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ナゲ	ナゲ	浅黄褐色	4mm以下の褐色の砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の褐色の砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の褐色の砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ハケ	ハケ	灰	2mm以下の青褐色の砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の褐色の砂粒・砂粒・細砂を微量含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂を微量含む	
	陶土器 高杯				ハケ後	ケズリ後	浅黄褐色	1mm以下の黒・褐色の砂粒を含み、表面な傷跡を微量含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ナゲ	桜	4mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒・細砂を微量含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	浅黄褐色	4mm以下の褐色の砂粒・砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の褐色の砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の褐色の砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の褐色の砂粒を含む	
	陶土器 高杯				ミガキ	ミガキ	に高い桜	4mm以下の褐色の砂粒を含む	

出土土器観察表

() 内は基準値

出土実機 遺物 番号	種類 形態	法 定 寸 寸 径 高 度 幅 径	外 面	内 面	色 調	地 土	備 考	
外生土器 甕	直口 縁	22.1	4.5	ナゲ ユビオサエ	ハケ、ナゲ ユビオサエ	灰 明灰灰	7.5mm以下の暗褐色、黒の砂礫・砂粒を 多量に含む	
80 外生土器 甕	(20.1) (26.7)	(6.4)	ナゲ	ナゲ	縫	縫	3mm以下の黒、褐色、明灰灰、赤褐色の 砂粒を多量に含む	
81 外生土器 甕	(19.0) (26.9)	5.1	ハケ ナゲ	ハケ ナゲ	黄 (黄)	黄	2mm以下の褐色、灰色の砂粒を含む	
82 外生土器 甕	(10.7) (25.6)	6.1	ユビオサエ ナゲ	ユビオサエ	に赤い質感	縫	6mm以下の褐色の砂礫を多量に 含む	
83 外生土器 甕	(23.8) 28.7	5.4	風化著しい ナゲ	ナゲ	黑 に赤い質感	縫	5mm以下の黒、褐色の砂礫・砂粒を多量 に含む	
84 外生土器 甕	(23.7) 30.5	5.5	ハケ後ナゲ	ナゲ	に赤い質感 灰灰灰	縫	4mm以下の黒、褐色、灰、黄褐色の砂礫・ 灰灰灰、黒の砂粒を多量に含む	
85 外生土器 甕	23.2	28.2	6.2	ナゲ ナゲ	ナゲ	に赤い質感	2mm以下の褐色の砂粒を多量に、3~7 mm以下の砂礫を混在させた	
86 外生土器 甕	24.7			ナゲ	に赤い質感	縫	4.5mm以下の褐色の砂礫・砂粒を含む	
87 外生土器 甕	22.8			ナゲ	に赤い質感	縫	5mm以下の黒、褐色の砂礫・砂粒を多量 に含む	
88 外生土器 甕	15.3			ナゲ	に赤い縫	縫	4mm以下の黒、褐色、灰の砂礫を含む	
89 外生土器 甕	13.7	19.1	4.6	ナゲ	ナゲ	縫 明赤褐	5mm以下の黒、褐色、灰の砂礫を含み、 白色と透明の微細粒を多量に含む	
90 外生土器 甕	(15.0)			ハケ後ナゲ	ナゲ	縫	0.3mm以下の白、黒、褐色の砂粒を含む	
91 外生土器 甕	(15.7)			ナゲ ナゲ	ナゲ	に赤い縫 黑	5mm以下の白、黒、褐色、灰の砂粒・縫 砂粒を多量に含む	
92 外生土器 甕	(29.5) (22.6)	(5.9)	ケズリ ナゲ	風化著しい ナゲ	縫	縫	褐色の砂粒・細砂粒を多量に含み、白、 黒、褐色の砂粒を含む	
93 外生土器 甕	(24.0)			ナゲ	に赤い縫	縫	2mm以下の白、褐色の砂粒・細砂粒を含む	
94 外生土器 甕	(28.6)			ケズリ ナゲ	明灰灰	に赤い縫	3mm以下の白、褐色の砂粒・細砂粒を多量に 含む	
95 外生土器 甕	(14.0) (14.1)	(5.7)	ナゲ ナゲ	ナゲ	縫 灰灰灰	縫	褐色の砂粒を多量に含む	
96 外生土器 甕				ナゲ	に赤い縫	縫	2mm以下の褐色、淡黃褐色の砂粒を多量に 含む	
97 外生土器 甕				ナゲ	に赤い縫	縫	2mm以下の白、黒、褐色、灰の砂粒を多量 に含む	
98 外生土器 甕				ナゲ	に赤い縫	縫	2mm以下の褐色の砂粒を多量に含む	
99 外生土器 甕	14.3	14.8	3.2	風化著しい ナゲ	ユビオサエ ナゲ	に赤い縫 明赤褐	1mm以下の水褐色の砂粒を多量に、2 mm以下の灰色の砂粒を微量含む	
100 外生土器 甕	10.2	12.8		ナゲ ナゲ	ナゲ ユビオサエ	縫	2.5mm以下の黒、褐色の砂粒を含む	
101 外生土器 甕			11.5	ナゲ ナゲ	ナゲ ナゲ	に赤い縫 に赤い縫	1.5mm以下の白、褐色の砂粒を含む	
102 外生土器 甕			5.5	ナゲ ナゲ	ナゲ	に赤い縫 灰灰灰	6mm以下の白、褐色の砂粒・砂粒を多量 に含む	
103 外生土器 甕			5.2	風化著しい ナゲ	ナゲ	浅灰灰	5mm以下の褐色の砂粒・砂粒を含む	
104 外生土器 甕			3.8	風化著しい ナゲ	ナゲ	浅灰灰	5mm以下の褐色の砂粒・砂粒を含む	
105 外生土器 甕	(12.2)	44.8		ナゲ ケズリ	ナゲ ナゲ	に赤い縫 縫、黑	3mm以下の白、黒、褐色の砂粒・砂粒、 灰灰灰、石英を多量に含む	
106 外生土器 甕	9.9	19.7		ユビオサエ ケズリ	ナゲ ナゲ	に赤い質感 ナゲ	に赤い質感 に赤い質感	1.5mm以下の白、褐色の砂粒を含む
107 外生土器 甕	10.5	19.6	(2.0)	ミガキ ケズリ	ユビオサエ ケズリ	に赤い縫 に赤い質感	1mm以下の白、黒、褐色の微細粒を含み、 細砂粒を微量含む	
108 外生土器 甕	10.0	18.1		ナゲ ケズリ	ナゲ ナゲ	灰、灰灰灰 土、ナゲ	灰、灰灰灰 灰、褐色、灰の砂粒を含み、光る病巣、 灰の砂粒を多量に含む	
109 外生土器 甕	9.4	18.7	3.4	ナゲ、ナゲ ケズリ	ナゲ、ナゲ ユビオサエ	に赤い質感 ナゲ	3mm以下の褐色、乳白色、黒く光る砂粒、 細砂粒を含む	
110 外生土器 甕	(12.9)			ナゲ ナゲ	ナゲ ナゲ	に赤い縫 に赤い縫	1mm以下の黒、透明の光る石英を含む	
111 外生土器 甕	(12.0) (17.0)	(4.6)	ケズリ ナゲ	ユビオサエ ナゲ	に赤い質感 灰灰灰	4mm以下の褐色、褐色の砂粒を含み、 灰灰灰、灰灰灰の砂粒・細砂粒を多量に含む		
112 外生土器 甕	8.1	17.1	2.2	ハケ後ナゲ	ナゲ、ハケ ユビオサエ	に赤い質感 黑	1mm以下の赤褐色の砂粒を含み、透明 の微細粒を微量含む	
113 外生土器 甕	8.5	(17.7)	2.5	ナゲ、ハケ タタキ	ナゲ ユビオサエ	浅灰灰 灰	5mm以下の黒、褐色、灰の砂粒・砂粒、 細砂粒を含む	
114 外生土器 甕	(10.6)			ナゲ	浅灰灰	浅灰灰 灰	6mm以下の白、黒、褐色の砂粒・砂粒を 多量に含む	
115 外生土器 甕			(1.0)	ナゲ ケズリ	ユビオサエ ナゲ	に赤い質感 縫	1.15と同一個体	
116 外生土器 甕			3.6	ナゲ ナゲ	ユビオサエ ナゲ	に赤い質感 縫	1.14と同一個体	
117 外生土器 甕			6.3	ナゲ ナゲ	ユビオサエ ナゲ	に赤い質感 灰灰灰	ヘラ印	

出土土器観察表

() 内は測定値

出上地番	遺物 番号	種類 規格	高 さ(cm)	底 径 (cm)	高 さ(cm)	底 径 (cm)	外 面 状 況	内 面 状 況	色 調	調 度	粘 土		備 考
											外 面 内 面	外 面 内 面	
23号上坑	118	第4土器 甌			(3.1)		ハケ ナダ	ハケ ナダ	淡黄褐色	灰白 土	1mm以下の黒・褐色の砂粒、石英の微細 な砂を多量含む		
	119	第5土器 甌			2.8		ケズリ目 ナダ	ナダ	淡黄褐色	淡黄褐色	4mm以下の黒・褐色、灰白の砂粒・砂粒 を含む		剥目
	120	赤土器 碗	35.5	SL.0	27.3		ナダ ミガキ ミガキ	ミガキ ナダ ハケ	淡黄褐色 にふく質感	淡黄褐色	5mm以上の光る砂粒を含み、細砂粒を多量に含む		透かし孔
	121	第4土器 甌	(19.8)				ミガキ ハケ	ミガキ ハケ	褐色 にふく質 感	褐色	3.5mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒・ 細砂粒を多量に含む		
	122	赤土器 碗					風化害なし		褐色	褐色	2mm以下の白・黒・褐色の砂粒・飛散粒、石 英の微細粒を多量に含む		
	123	赤土器 碗					風化害なし	ユビオサエ	褐色	褐色	1mm以下の褐色・灰・光る透明の微細 な砂を含む		透かし孔
	124	第4土器 盆台	(30.9)				ナダ ミガキ	ナダ ユビオサエ	褐色、黑 にふく質 感	褐色	1.5mm以下の褐色・灰・光る透明の砂粒・ 細砂粒を多量に含む		透かし孔
	125	赤土器 器台					ハケ後ナダ ナダ	ケズリ後 ナダ	淡黄褐色	淡黄褐色	2.5mm以下の白・褐色の砂粒・細砂粒を 多量に含む		透かし孔
	126	赤土器 器台					ハケ ミガキ	ナダ	にふく質 感 灰	褐色	1mm以下の褐色・光る透明の微細粒を多 量に含む		透かし孔
	127	第4土器 甌	(24.0)	(10.0)	(4.5)		ナダ ハケ	ナダ ハケ	淡黄褐色	淡黄褐色	4.5mm以下の褐色の砂粒を微量、3mm以 上の褐色の砂粒・微細粒を多量に含む		
10号溝北 道	128	赤土器 甌	31.8	9.0	3.8		ナダ ミガキ	ナダ ミガキ	褐色 にふく質 感	褐色	2mm以下の白・黒・褐色の砂粒・飛散粒、 黑母母・石英を多量に含む		
	129	赤土器 甌	9.8	13.6	2.1		ユビオサエ ナダ	ユビオサエ ナダ	淡黄褐色	褐色	2mm以下の赤褐色の砂粒を含む		穿孔
	130	第4土器 甌	17.3	33.4	5.9		ケズリ ミガキ	ナダ	褐色 にふく質 感	褐色	5.5mm以下の暗赤褐色の砂粒、黒の砂粒 を多量に含む		第10突起
	131	上部器 器台					風化害なし		淡黄褐色	淡黄褐色	3~4mmの白・褐色の砂粒を多量に含む		透かし孔
	132	土器部 甌	17.3	20.5	1.8		ハケ、ナダ ユビオサエ	ユビオサエ ハケ、ナダ	にふく質 感	褐色	砂粒・砂粒を多量に含む		スス付着
1号住居	133	土器部 甌	(17.2)				ナダ	ナダ	褐色	褐色	3mm程度の砂粒を多量に含む		スス付着
	134	土器部 甌			4.0		ハケ ナダ	ユビオサエ	にふく質 感	褐色	砂粒・細砂粒を多量に含む		スス付着
	135	土器部 甌			(11.3)		ヨコナダ	ナダ	にふく質 感	黒	砂粒、石英を含む		本の裏面
	136	上部器 器台			7.7		ナダ	ナダ	にふく赤褐色 にふく褐色	黑	赤褐色・褐褐色の砂粒を多量に含む		
	137	土器部 甌	14.6	6.6			ナダ後 ミガキ	ナダ後 ミガキ	にふく質 感	褐色	赤褐色の砂粒、灰褐色の砂粒を含む		朱ハラ印
	138	土器部 甌	15.5	6.4	2.8		ミガキ	ミガキ	明黄色	明黄色	5mm以下の赤褐色の粒を少量含む		スス付着 丹跡
	139	上部器 甌	16.0	6.2	4.6		ナダ	ユビオサエ	にふく質 感	褐色	2mm未満の砂粒を多量に含む		
	140	土器部 甌	(15.0)	5.6	4.8		ミガキ?	ミガキ?	にふく質 感	褐色の砂粒、光る微細粒を含む			
	141	土器部 甌	14.4	6.3	2.7		ミガキ	ユビオサエ	褐色	褐色	褐色・灰色の砂粒を含む		
	142	土器部 甌	(19.1)				ナダ、ハケ ユビオサエ	ナダ	にふく質 感	褐色	砂粒・砂粒・細砂粒を多量に含む		スス付着
2号住居	143	土器部 甌			1.3		ナダ、ハケ ユビオサエ	ナダ	にふく質 感	褐色	砂粒・細砂粒を多量に含む		スス付着
	144	上部器 器台			(7.1)		ケズリ	ナダ	淡黄褐色	褐色	3mm以下の白色や黒色、2mm以下の乳白 色の泥を含む		本の裏面
	145	土器部 甌			1.8		ハラケ後 ナダ	ハラケ後 ナダ	褐色	褐色	砂粒・細砂粒を多量に含む		一部摩耗
	146	上部器 器台			4.5		ハケ、ナダ ユビオサエ	ハケ、ナダ ナダ	にふく質 感	褐色	砂粒と少量の粉砂を含む		スス付着 木の裏面
	147	土器部 甌	12.8				風化害なし		褐色	褐色	5mm以下の褐色・灰褐色の砂粒を含む		剥目
	148	土器部 甌	(30.5)				ナダ	ナダ	にふく質 感	褐色	赤褐色・黒褐色の2~5mm大的砂粒を少 量含む		
	149	土器部 甌			11.4		ナダ	ハケ	褐色	褐色	赤褐色の微細粒を含む		
	150	土器部 甌	13.6	6.0			ミガキ	ユビオサエ ミガキ、ナダ	にふく質 感	褐色	赤褐色の微細粒を含む		ヘラ印
3号住居	151	上部器 器台	12.1	5.2			ナダ ミガキ	ミガキ	淡黄褐色	淡黄褐色	3mm以下の褐色、1mm以下の黒色・白色 の微細粒を少量含む		
	152	土器部 甌	14.3	4.1			四輪・ラケ ズリ、ナダ	ナダ	灰	灰	4.5mm以下の白色の砂粒を少量含む		剥目
	153	土器部 甌	(15.5)				ナダ	ナダ	淡黄褐色	淡黄褐色	5mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を 含む		154と同じ
	154	土器部 甌					ミガキ	ナダ	褐色	褐色	3mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を 含む		155と同じ
	155	土器部 甌	18.2	13.0	2.4		ナダ	ナダ	褐色 にふく質 感	褐色	砂粒と少量の砂粒を含む		スス付着
	156	土器部 甌	(13.7)	3.5	(6.2)		ナダ、圓輪 ハラケズリ	ナダ	オリーブ灰 にふく質 感	オリーブ灰	白・灰の粒を多量に含む		

出土土器観察表

() 内は推定値

出土場所 建物番号	種類 形態	高さ 径	底 高さ 径	國			色			土			備考
				外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面	内 面	
3号住居	土器部 皿	(11.8)		ナゲ	ナゲ	灰	灰			1m以下の白、灰の砂粒を含む			自然陶
4号住居	土器部 皿	(19.2)		ケズリ	ケズリ	褐、灰褐色 灰	に高い樹 脂灰、灰	砂粒・細砂粒を多量に含む					
	土器部 皿	20.7		風化著しい	ナゲ?	ナゲ?	に高い樹 脂灰、灰	0.5~4mm程度の褐色や灰色の粒を多量 に含む					
	土器部 皿	(11.0)		ナゲ	ナゲ	褐	黑	3mm以下の褐色・黑色の砂粒、1mm以下 の乳白色の砂粒を含む					
	土器部 皿	(8.4)		ケズリ	ケズリ	に高い樹 脂灰	に高い樹 脂灰	2~5mmの灰、褐色の砂粒・細砂粒を多量 に含む					
	土器部 皿	10.0		ナゲ	ナゲ	浅灰	灰	褐色粒を含む					
	土器部 皿	14.3	7.3	ミガキ	ミガキ	褐	浅灰 褐灰、灰	3mm以下の灰、灰の砂粒、1mm以下の光 る白・黑の粒を含む					丹塗り
5号住居	土器部 皿			ナゲ	ナゲ	に高い樹 脂灰	に高い樹 脂灰	3mm以下の墨褐色の砂粒、1mm以下の乳 白色的粒を含む					木の裏底
	土器部 皿			ナゲ	ナゲ	に高い樹 脂灰	灰	2mm以下の墨褐色・灰色の砂粒、1mm未 満の微細な丸粒を含む					
	土器部 皿			ユビオサエ	ユビオサエ	黑	2mm以下の墨褐色・灰色の砂粒、1mm未 満の微細な丸粒を含む						
	土器部 皿			風化著しい	風化著しい	浅灰	灰	2mm以下の墨褐色の砂粒、1mm以下の灰褐色 の細砂粒を多量に含む					
	土器部 皿	16.9		ナゲ	ナゲ	に高い樹 脂灰	に高い樹 脂灰	3mm以下の褐色・灰・白・黒の砂粒を多 量に含む					
	土器部 皿			ハケ	ナゲ	灰褐色	に高い樹 脂灰	6mm以下の赤褐色・灰色の砂砾を含む					ヌス付着
6号住居	土器部 皿	2.5		ナゲ	ナゲ	灰褐色	褐灰、灰	褐灰・褐色・に高い樹脂灰の砂粒・細 砂粒を多量に含む					木の裏底
	土器部 皿	7.9		ケズリ	ナゲ	褐灰 灰	ナゲ	木の裏底					
	土器部 皿			ナゲ	ナゲ	に高い樹 脂灰	ナゲ	褐色・に高い樹脂等の砂砾・砂粒を多量 に含む					ヌス付着
	土器部 皿	5.8		ナゲ	ナゲ	に高い樹 脂灰	ナゲ	褐色・に高い樹脂等の砂砾・砂粒を多量 に含む					
	土器部 皿	12.2		ハケ	ナゲ	褐	褐	褐色の砂粒を少量、砂粒・細砂粒を多量 に含む					
	土器部 皿	10.4		ユビオサエ	ミガキ	に高い樹 脂灰	ミガキ	褐色の砂粒を少量、砂粒・細砂粒を多量 に含む					
7号住居	土器部 皿			ナゲ	ナゲ	褐灰	褐灰	褐色の砂粒を含む					
	土器部 皿			ハケ	ナゲ	褐灰	褐灰	褐灰・褐灰の砂粒・細砂粒を多量に含む					
	土器部 皿	23.1	24.6	7.1	ナゲ	ケズリ	褐 灰	褐色・灰白の砂粒・細砂粒を多量に含む					
	土器部 皿	14.8	9.3	5.2	ナゲ	ミガキ	褐 灰	褐色・灰白の砂粒・細砂粒を多量に含む					
	土器部 皿	(16.0)	8.5	ケズリ	ナゲ	褐 灰	ナゲ	褐色・砂粒・細砂粒を多量に含む					
	土器部 皿	11.0	6.3	4.6	粗いナゲ	粗いナゲ	褐 灰	0.5~5.5mmの白・黒・褐色・灰の砂粒・ 砂砾を多量に含む					
8号住居	土器部 皿	17.5	11.2	10.5	ナゲ	ミガキ	に高い樹 脂灰	に高い樹 脂灰	5~10mmの褐色・灰の砂粒を多量に含む、 砂砾・粗砂粒を微量含む				
	土器部 皿			ユビオサエ	ナゲ	褐 灰	ナゲ	1mm以下の褐色の砂粒を含む					
	土器部 皿	14.8	5.5	4.0	ナゲ	ナゲ	に高い樹 脂灰	ナゲ	砂粒を多量に含む				
	土器部 皿	6.7	3.4	4.7	ナゲ	ミガキ	褐 灰	褐色・灰褐色を多量に含む					
	土器部 皿			ユビオサエ	ナゲ	褐 灰	ナゲ	3.5mm以下の暗褐色の砂粒を多量に含む					
	土器部 皿			ミガキ	ナゲ	褐 灰	ナゲ	4mm以下の灰褐色の砂粒を含む					ヘラ印
9号住居	土器部 皿	16.8	29.4	4.0	ナゲ	ナゲ	褐 灰	褐色の砂粒・砂砾・細砂粒を多量に含む、 3mm以上の白・黒の砂粒を含む					
	土器部 皿			風化著しい	風化著しい	褐 灰	ナゲ	木の裏底					
	土器部 皿			4.8	ナゲ	ナゲ	に高い樹 脂灰	に高い樹 脂灰	5mm以下の褐色の砂粒、3mm以下の黒い 砂粒を多量に含む				ヌス付着
	土器部 皿	13.0	7.3	5.9	ナゲ	ナゲ	褐 灰	に高い樹 脂灰、褐 灰	木の裏底				木の裏底
	土器部 皿	(19.8)	(5.8)	ミガキ	ミガキ	褐 灰	ミガキ	に高い樹 脂灰	褐色・灰の砂粒が少量含まれる				
	土器部 皿	(8.4)	(4.5)	4.7	ナゲ	ナゲ	に高い樹 脂灰	ナゲ	1mm前後の灰・黒の砂粒を微量含む				ヌス付着 木の裏底
10号住居	土器部 皿			ケズリ	ケズリ	褐 灰	ナゲ	に高い樹 脂灰	褐色・灰白の砂粒を少量含む				
	土器部 皿	22.7	34.9	ナゲ	ハケ	に高い樹 脂灰、黑	ナゲ	に高い樹 脂灰	4.5mm以下の暗褐色の離を多量に含む				ヌス付着
	土器部 皿	19.2		ナゲ	ユビオサエ	褐 灰	ナゲ	に高い樹 脂灰	褐色の砂粒が少量、褐灰・灰の砂粒が多 量に含まれる				ヌス付着
	土器部 皿			ナゲ	ナゲ	に高い樹 脂灰	ナゲ	先灰・砂粒を含む					
	土器部 皿			2.3	ナゲ	丁寧なナゲ	ナゲ	明礬灰	褐色の砂粒・細砂粒を含む				

出土土器観察表

() 内は推定値

出土遺物 番号	遺物 名	法 量(cm)	調 査		色 調		上 部	備 考
			口 径	高 度	外 面	内 面		
196	土器器 底	(9.8)			ミガキ ミガキ、ナメリ ユビオサエ	明赤褐色 明赤褐色	橙 橙	黒・灰・褐色の細粒を微量含む
197	土器器 底	7.4	10.8	風化帶い ナダ?	ナダ?	明赤褐色 赤褐色	橙 橙	赤褐色の砂粒を含む
198	土器器 底			ミガキ?	丁寧なナダ?	橙 橙	細粒を多量に含む	丹波りか?
199	土器器 底				ナダ?	ナダ?	淡黄 淡黄	4mm以下の灰色、2mm以下の黒・褐色の砂粒を含む
200	土器器 底	13.3	6.2	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	橙 橙	細粒を多量に含む
201	土器器 底	(13.5)	4.6	風化帶い ナダ?	風化帶い ナダ?	赤褐色 赤褐色	明赤褐色 明赤褐色	1mm以下の赤褐色・黒褐色・乳白色の砂粒を含む
202	土器器 底	12.0	5.1		ナダ? ミガキ?	ヘラミガキ ナダ?	橙 橙	細粒、微細粒を微量含む ヌス付着
203	土器器 底	13.0	5.9	風化帶い ナダ?	風化帶い ナダ?	橙 橙	細粒を多量に含む	黒底
204	土器器 底	(13.6)	4.5		ナダ?	淡赤褐色 ナダ?	赤褐色 赤褐色	細粒を多量、光る砂粒を少量含む
205	土器器 底	(13.4)	4.3	ヘラミガキ 「草な」ナダ?	ヘラミガキ	明赤褐色 明赤褐色	橙 橙	細粒をごく少量含む
206	土器器 底	(13.9)		ナダ?	ナダ?	橙 橙	細粒を含む	
207	土器器 底	(14.0)		ナダ?	ナダ?	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	2~3mmの褐色の砂粒、半透明の細粒を少量含む
208	土器器 底	(16.5)	5.9	ミガキ?	ミガキ?	にぶい橙 にぶい橙	にぶい橙 にぶい橙	にぶい・褐色の砂粒を多量に含む
209	土器器 底	16.3	6.5	ナダ後 ミガキ?	ミガキ?	赤褐色 赤褐色	橙 橙	2mm以下の灰色・赤褐色の砂粒を含む
210	土器器 底	(16.0)		ミガキ ナダ?	ミガキ ナダ?	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	明赤褐色 明赤褐色	にぶい黄褐色を含む
211	土器器 底	14.4	4.5	ミガキ	「草な」ナダ?	にぶい橙 橙	細粒を多量に含む	丹波り
212	土器器 底	(16.7)		ナダ?	ナダ?	橙 橙	3mm以下の灰・褐色の砂粒、発光する砂粒を含む	
213	土器器 底			ミガキ	ミガキ	明赤褐色 明赤褐色	光る砂粒を含む	
214	土器器 底	(10.6)	5.2	3.1	ナダ?	ナダ?	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	1mm以下の黒・褐色の砂粒を少量含む
215	土器器 底 (ヒニュウ)				ナダ?	淡黄 淡黄	淡黄褐色 淡黄褐色	2mm以下の褐色・赤褐色の砂粒を含む
216	土器器 底 (ヒニュウ)				ナダ?	ナダ?	淡黄褐色 淡黄褐色	1mm以下の灰・赤褐色の砂粒を含む
217	土器器 底 (ヒニュウ)				ナダ?	ナダ?	淡黄褐色 淡黄褐色	2mm以下の褐色の砂粒、1mm以下の黒の砂粒を含む
218	土器器 底 風化帶 砂質	11.2	4.8		ナダ?	ナダ?	青灰 青灰	細砂粒、砂粒を含む
219	土器器 底	(12.6)		ケズリ ナダ?	ケズリ ナダ?	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	灰 灰	灰・褐色の細粒を含む
220	土器器 底			5.1	風化帶い ナダ?	風化帶い ナダ?	淡黄褐色 淡黄褐色	3mm以下の褐色の砂粒、2mm以下の灰・褐色の砂粒を多量に含む
221	土器器 底			風化帶い ナダ?	風化帶い ナダ?	橙 橙	2mm以下の砂粒を多量に含み、微細なガラス状の粒を少量含む	
222	土器器 底	(17.5)		粗いナダ?	粗いナダ?	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	5.5mm以下の褐色の砂粒、2mm以下の赤褐色・黒の砂粒を含む 220と同一個体
223	土器器 底			6.0	粗いナダ?	粗いナダ?	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	赤褐色の砂粒を含み、3~4mmの砂粒を少量含む 222と同一個体
224	土器器 底				ナダ?	ナダ?	淡黄褐色 淡黄褐色	7mm以下の粗い砂粒を多量に含む スス付着
225	土器器 底				ナダ?	ナダ?	明赤褐色 明赤褐色	3mm以下の褐色の砂粒を少額、1~2mmの灰褐色・黒の砂粒を多量に含む 223と同一個体
226	土器器 底				1.5	ナダ?	ナダ?	2mm以下の褐色・灰・黒の砂粒、1mm以下の黒・白の砂粒を多量に含む 222と同一個体
227	土器器 底	(25.3)			ナダ?	ナダ?	黄褐色 黄褐色	1~3mmの灰・灰・褐色の砂粒を多量に含む スス付着
228	土器器 底	(26.5)			粗いナダ?	ユビオサエ ナダ?	淡黄褐色 にぶい黄褐色	褐色・黒の砂粒、細砂粒を多量に含み、白の細砂粒を少量含む 222と同一個体
229	土器器 底				7.1	ミガキ ケズリ ナダ?	明赤褐色 明赤褐色	7mm以下の粗い砂粒を含む スス付着
230	土器器 底	13.1	5.1	ミガキ	ミガキ	明赤褐色 明赤褐色	細砂粒を多量に含む スス付着	1.5mm以下の黒・暗褐色・光沢のある砂粒を多量に含む 222と同一個体
231	土器器 底	14.1	4.9	ミガキ ナダ?	ミガキ ナダ?	明赤褐色 明赤褐色	黒褐色の透明・暗褐色の砂粒を含む	丹波り
232	土器器 底	15.2	4.5	ミガキ	ミガキ	明赤褐色 明赤褐色	赤褐色の透明・暗褐色の砂粒を含む	
233	土器器 底	14.6	4.4	ミガキ	ミガキ	橙 明赤褐色	1mm以下の黒・褐色の砂粒を含む	丹波り
234	土器器 底	15.7			ナダ?	にぶい橙 にぶい橙	褐色の砂粒を多量に含む	黒底

出土土器観察表

() 内は推定値

出土遺構	遺物番号	種類	法 長 (m)	法 幅 (m)	高 度 (m)	厚 さ (mm)	外 面		内 面		色 調		性 状	備 考
							外 面	内 面	外 面	内 面	色 調			
10号住居	235	土器部 分					ミガキ ナゲ	ミガキ ナゲ	に赤い背景 明赤鉄	に赤い背景 明赤鉄	2 mm以下の褐色、1 mm以下の明赤鉄の砂 粒を含む		刀取り	
	236	堆土壁 灰	15.0	4.3			同様ルテ スリ、ナゲ	ナゲ	明褐色	明褐色	3 mm以下の白の砂粒を少量含む			
	237	堆土壁 灰	(14.6)				ナゲ ケズリ	ナゲ	灰	灰	4 mm以下の白の砂粒を含む			
	238	堆土壁 灰					ナゲ	ナゲ	灰	灰	1 mm以下の白・黒の細砂粒を含む			
11号住居	239	土器部 分					ナゲ	ナゲ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	3 mm以下の褐色系の砂粒を少量、同色系の 砂粒・細砂粒を多量に含む			
	240	土器部 分					ハケ ナゲ	ハケ ナゲ	浅黄緑	浅黄緑	2~5 mmの大粒の褐色を多量に含み、 1 mm以下の小粒を含む			
	241	土器部 分		(11.3)			ナゲ	1掌なナゲ	浅黄緑	浅黄緑	2 mm以下の褐色と黒の砂粒を含む		木の葉底	
	242	土器部 分		(5.5)			ハケ	ニビオサエ ナゲ、ハケ	浅黄緑	浅黄緑	3 mmの大粒の褐色、1 cm以下の茶の砂粒を 多量に含む			
	243	土器部 分					ナゲ	丁寧なナゲ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	に赤い褐色、乳白色、黒の砂粒を多量に 含む			
	244	土器部 分					ナゲ	ナゲ	穂	穂	白・黒・灰の細砂粒を少量含む			
	245	土器部 分	(10.5)				ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	穂	穂	細砂粒を多量に含む			
	246	土器部 分	(14.1)				ナゲ	ナゲ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	褐色の砂粒・細砂粒を含む			
	247	堆土壁 灰	10.3				ケズリ	ナゲ	灰	灰	灰白の砂粒を少量含む			
	248	堆土壁 灰					ナゲ	ナゲ	オリーブ緑	オリーブ緑	1 mm以下の茶及び淡黄色の砂粒を含む			
12号住居	249	堆土壁 灰					ナゲ	ナゲ	に赤い穂	に赤い穂	褐色の砂粒を含む			
	250	堆土上器 台					ミガキ	ナゲ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	砂粒を含む		スヌ付器 邊かし孔	
	251	土器部 分				4.5	ナゲ	ナゲ ニビオサエ	に赤い穂	に赤い穂	褐色、褐灰色の砂粒を多量に含む		木の葉底	
	252	土器部 分	9.5				風化やすい、風化やすい	赤褐色	赤褐色	赤褐色	2.5 mm程の暗赤褐色の粒を微量。白・暗褐色 の細砂粒を多量に含む			
	253	土器部 分	18.1	6.5	3.7	ミガキ	ミガキ	穂	穂	穂	褐色の砂粒・細砂粒、透明な砂粒子を多 量に含む			
	254	土器部 分	(13.9)	6.7		ナゲ	ナゲ ニビオサエ	に赤い穂	に赤い穂	穂	褐色の砂粒と灰・白・黒の細砂粒を含 む			
	255	土器部 分	6.5	3.0	3.5	ナゲ エビヅサエ ナゲ、四脚 ハラクズリ	ナゲ エビヅサエ ナゲ、四脚 ハラクズリ	穂	穂	穂	黒・灰・白・褐の細砂粒を多量に含む			
	256	堆土器 床	(11.8)	3.6	(3.7)	ナゲ	ナゲ	穂	穂	穂	細砂粒と1 mm以下の乳白色の粒を少量含 む			
	257	土器部 分				4.7	ナゲ	ナゲ	に赤い褐色	に赤い褐色	赤褐色・茶褐色の砂粒・砂粒・細砂粒を多 量に含む		木の葉底	
	258	土器部 分					ナゲ	ナゲ	赤褐色 に赤い穂	赤褐色 に赤い穂	暗褐色の砂粒・細砂粒を多量に含む			
13号住居	259	土器部 分					ナゲ	ナゲ	に赤い穂	に赤い穂	暗褐色・黑・白の砂粒・細砂粒を多量に 含む			
	260	土器部 分					ケズリ ナゲ	ナゲ	に赤い穂	に赤い穂	褐色・黑の砂粒・細砂粒を多量に含む			
	261	土器部 分					ナゲ	ナゲ	に赤い穂	に赤い穂	5 mm以下の褐色の粗い砂粒を多量に含む			
	262	土器部 分					ナゲ	ナゲ	浅黄緑	浅黄緑	1 mm以下の褐色や灰褐色の砂粒を含む			
	263	土器部 分	(10.3)	9.2			ミガキ	ナゲ	浅黄緑	浅黄緑	細砂粒を少量と白と黒の光る微小な粒を 含む			
	264	土器部 分				7.1	ナゲ	ナゲ	浅黄緑	浅黄緑	黒と褐色の細砂粒と白と黒の光る微小な粒 を多く少量含む			
14号住居	265	土器部 分					ハケ ナゲ	ハケ ナゲ	穂、赤 穂	穂、赤 穂	褐色の砂粒、褐色・黒・白・透明な細砂 粒を多量に含む			
	266	土器部 分					ナゲ	ナゲ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	1 mm以下の褐色や灰・褐灰色の砂粒を含む			
	267	土器部 分					ハケ ナゲ	ハケ ナゲ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	赤褐色・灰色・黒の細砂粒を多量に含む			
	268	土器部 分					ナゲ ナゲ	ナゲ ナゲ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	褐色の砂粒・細砂粒を多量に含む			
	269	土器部 分					ナゲ ナゲ	ナゲ	浅黄緑	浅黄緑	4 mm以下の褐色の砂粒と3 mm以下の黒い 砂粒を多量に含む			
	270	土器部 分					ナゲ タキ	ナゲ タキ	に赤い穂	に赤い穂	に赤い褐色・褐色の砂粒・細砂粒を含む		スヌ付器	
	271	土器部 分					ナゲ	ナゲ	穂	穂	に赤い黄緑			
	272	土器部 分					ナゲ	ニビオサエ	穂	穂	1 mm以下の褐色・黒・褐灰色の砂粒を多 量に含む			
	273	土器部 分					ナゲ ナゲ	ナゲ ナゲ	穂、黄緑	穂、黄緑	1 mm以下の灰・黒・褐色の細砂粒を多量 に含む			

出土土器観察表

() 内は推定値

出土遺構 番号	種類 目	法 基 (cm)	調 査 色				地 土	備 考
			内 面	外 面	内 面	外 面		
15号住居	土器部 品	10.2	11.2	ナゲ	ユビオサエ にぶい黄緑	にぶい黄緑 にぶい黄緑	褐色の砂粒を少々、細砂粒を多量に含む	
	上端部 高杯	(14.0)		ナゲ	風化著しい	にぶい黄緑	2mm以下の褐色・赤褐色・灰色の砂粒を多量に含む	
	土器部 品		12.9	風化著しい	風化著しい	淡黄緑	にぶい黄	褐灰・黒等の砂粒を含む
	土器部 品		13.6	ナゲ	ナゲ	赤褐色	赤褐色	灰色・赤褐色の鐵錆粒を多量に含む
	上端部 高杯	15.5	5.1	風化著しい	風化著しい	橙	橙	細砂粒を直っぽく見る所、小粒をごく少量含む 丹波引
	土器部 品	16.7	25.5	6.0	ナゲ	ナゲ にぶい黄緑	明石開 8mm以下の褐色系の砂を多量に含む	スズ付着 木の裏底
16号住居	土器部 品		6.1	ナゲ	ナゲ	にぶい黄	灰褐色の砂粒・細砂粒を多量に含む	
	上端部 高杯			ナゲ	淡赤緑	棕黑	2mm以下の褐色・赤褐色・黒・灰色の砂粒を多量に含む	ヘラ印?
	土器部 品			ナゲ	ナゲ にぶい黄	棕黑	光る透明の粒や深紅の粒、砂粒・砂塵を多量に含む	アヌ付着 283と同一個体
	土器部 品		7.0	風化著しい	ナゲ	棕 にぶい黄	7mm以下の白・黄・灰の砂粒・砂粒・細砂粒を多量に含む	282と同一個体
	上端部 高杯			ミガキ	ユビオサエ	棕灰	褐色・赤褐色の砂粒・細砂粒を多量に含む	
	土器部 品	9.0	10.4	2.0	風化著しい	風化著しい	淡黄緑	2mm以下の褐色・黒の砂粒・細砂粒を多量に含む
	土器部 品	34.0	19.2	8.2	ミガキ ナゲ	ナゲ にぶい黄	棕 にぶい黄	5mm以下の赤褐色・褐色・黒の砂粒・細砂粒を多量に含む
	上端部 高杯	17.4	5.3	6.3	ケズリ	淡黄緑	淡黄緑 8mm以下の褐色の砂粒を多量に含む 下の丸白の粒を少量含む	木の裏底
17号住居	土器部 品		3.9	ナゲ ユビオサエ	ユビオサエ	黒	赤褐色 淡黄	
	土器部 品			ナゲ?	ハケ?	棕	灰	
	上端部 高杯					棕	7mm以下の赤褐色・褐色・黒の砂粒を多量に含む	
	土器部 品		10.8	風化著しい	風化著しい	棕 にぶい黄緑	4mm以下の赤褐色・瓦白色の砂粒を含む	木の裏底
	上端部 高杯		6.4	ナゲ オサエ	ハケ 細いナゲ	黑褐色 黄褐色	4mm以下の赤褐色・瓦白色の砂粒を含む	木の裏底
	土器部 品	(35.4)		ナゲ ミガキ	ナゲ ミガキ	棕 にぶい黄緑	褐色の砂粒を多量に含む	
19号住居	土器部 品		8.1	ナゲ	ナゲ	棕	1mm以下の褐色・黒・灰褐色の細砂粒を含む	
	須磨器 片			ナゲ?	ナゲ	灰	2mm以下の赤褐色・瓦白色の砂粒を含む	
	土器部 品			ナゲ?	ナゲ	棕	4mm以下の赤褐色・瓦白色の砂粒を多量に含む	
	上端部 高杯			ナゲ	ナゲ	棕	3mm以下の黒や赤褐色の砂粒を含む	
	土器部 品			ナゲ ミガキ	ナゲ ミガキ	棕 にぶい黄緑	褐色の砂粒を多量に含む	
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	棕	1mm以下の褐色・黒・灰褐色の細砂粒を含む	
	須磨器 片			ナゲ	ナゲ	棕	2mm以下の赤褐色の粒を微量、瓦白色の粒をごく少量含む	
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	棕	2mm以下の赤褐色・瓦白色の砂粒を含む	
20号住居	土器部 品		7.6	ナエ. ナ デ. ハケ	ハケ後ナエ	黑	2mm以下の赤褐色・瓦白色の砂粒を含む	
	須磨器 片		5.6	ナエ後ナエ	ナエ	淡黄緑	にぶい黄	
	土器部 品			ナエ	ナエ	棕	赤褐色の砂粒を含む	
	須磨器 片			ナエ	ナエ	淡黄緑	2mm以下の褐色の砂粒を含む	
	土器部 品			ナエ	ナエ	棕	2mm以下の褐色の砂粒を含む	
	須磨器 片			ナエ	ナエ	棕	2mm以下の褐色の砂粒を含む	
	土器部 品			ナエ	ナエ	棕	2mm以下の褐色の砂粒を含む	
	須磨器 片			ナエ	ナエ	棕	2mm以下の褐色の砂粒を含む	
21号住居	土器部 品		3.0	黒いナゲ	ユビオサエ	黑褐色	2mm以下の褐色の砂粒を含む	
	土器部 品	(16.1)	9.4	6.1	ユビオサエ	褐	褐色の砂粒を多量に含む	スズ付着 300と同一個体
	上端部 高杯			ナゲ	ナゲ	棕	褐色の砂粒を含む	木の裏底
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	棕	褐色の砂粒を含む	299と同一個体
	上端部 高杯			ナゲ	ナゲ	棕	3mm以下の白・褐色の砂粒を含む	
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	棕	2mm以下の褐色の砂粒を含み、2~3mmの赤褐色の砂粒を微量含む	
22号住居	土器部 品		6.0	ナゲ	ナゲ	棕 にぶい黄緑	4mm以下の褐色・黒の砂粒を多量に含む	木の裏底
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	棕	褐色な透けた粒子を多量、砂粒・細砂粒を多量に含む	
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	棕	褐色の砂粒を多量に含む	
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	棕	褐色の砂粒を多量に含む	
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	棕	褐色の砂粒を多量に含む	
23号住居	土器部 品		1	ナゲ	ナゲ	灰	1mm前後の白色の砂粒を少量含む	
	須磨器 片			ナゲ	ナゲ	灰	0.1~3mmの白の砂粒・細砂粒を含む	自然釉
	須磨器 片			ナゲ	ナゲ	灰	1mm以下の黒・灰・瓦等の砂粒を多量に含む	追加記入
	土器部 品			ミガキ	ミガキ	棕	褐色の砂粒を多量に含む	
24号住居	土器部 品	25.4		ナゲ	ナゲ	棕	褐色・砂粒を多量に含む	
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	棕	褐色・砂粒を多量に含む	

出土土器観察表

() 内は推定値

出土箇所	遺物 種類	種 類	量 (cm)	調査		色		地 土	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面		
21号住居	土器部 品	土器部 品	4.6	ナゲ	ナゲ	にぶい黄 金、赤 黒、褐色、赤	褐色、暗褐色の砂粒、細砂粒を多量に含む	木の茎皮	
	土器部 品		6.3	ケズリ	ハケ	褐色	にぶい黄 金	2mm以下の灰、黒、褐色の砂粒を多量に含む	木の葉皮
	土器部 品		3.2	ユビオサエ ナゲ	ユビオサエ ナゲ	褐色	褐色	褐色の砂粒を多量に含む	木の葉皮?
	土器部 品		13.3	ナゲ ミガキ	ミガキ	にぶい褐 色	にぶい褐 色	丸る粒子を多量に含む	
	土器部 品		11.2	ミガキ	ミガキ	褐	褐	褐色の細砂粒を多量に含む	
	土器部 品		12.8	ミガキ	ミガキ	赤	褐	細かい砂粒を多量に含む	
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	灰 暗灰	褐色	褐色の細砂粒を少量含む	液状灰
	土器部 品		9.6	ナゲ	ナゲ	褐色	褐色	砂粒を含む	
22号住居	土器部 品		11.8	ナゲ ユビオサエ ナゲ	ナゲ	にぶい褐 色 にぶい褐 色	褐色 にぶい褐 色	4~3mmの砂粒を多量に含む	スス付着
	土器部 品		9.6	10.4	4.2	ユビオサエ ナゲ	褐色 にぶい褐 色	褐色を多量に含み、砂粒、細砂粒も含む	スス付着 木の茎皮
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	にぶい褐 色	にぶい褐 色	透明、灰白の粒子を無数、砂粒、細砂粒を多量に含む	
	土器部 品		14.5	6.7	ミガキ	ミガキ	褐色	褐色	褐色、灰、灰の砂粒、細砂粒を多量に含む
	土器部 品		12.9	6.2	ケズリ ナゲ	ナゲ	褐	褐色	2mm以下の褐色の砂粒、1mm以下の乳白色、褐色の細砂粒を含む
	土器部 品		12.5	8.9	1.8	ケズリ ナゲ	オサエ ナゲ	にぶい褐 色 にぶい褐 色	褐色を含む
	土器部 品			タクキ	タクキ	灰	灰	褐色砂粒を含む	黑道
	土器部 品			ケズリ ナゲ	ナゲ	灰黃	灰黃	2mm以下の灰白色、褐色の砂粒を少量含む	
23号住居	土器部 品			ナゲ	ナゲ	透黃	透黃	青灰色の砂粒を含む	ヘリ印
	土器部 品			ナゲ、ハケ	ユビオサエ ナゲ	にぶい黄 色 にぶい黄 色	にぶい黄 色	灰青灰色の細砂粒を含み、透明の粒子を微量含む	
	土器部 品		16.2	26.8	3.7	ケズリ	風化著しい	褐色の砂粒を含む	スス付着
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	にぶい褐 色	にぶい褐 色	6mm以下の砂粒、砂粒、細砂粒を多量に含む	スス付着
	土器部 品		12.5	ナゲ	ナゲ	にぶい黄 色	にぶい黄 色	4mm以下の褐色の粗い砂粒を多量に含む	333と同・個体
	土器部 品			ミガキ	ナゲ	にぶい黄 色 灰黃	にぶい黄 色 灰黃	5.5mm位の砂粒、砂粒、細砂粒を多量に含む	黒道 331と同・個体
	土器部 品		16.0	ハケ	ナゲ	にぶい褐 色	にぶい褐 色	褐色、透明の砂粒、細砂粒を多量に含む	
	土器部 品			ナゲ	ナゲ	灰 灰黃	灰 灰黃	4mm以下の褐色の粗い砂粒を少量含む	
24号住居	土器部 品			カキ	ユビオサエ ナゲ	灰 灰 灰黃	灰 灰 灰黃	褐色を含む	
	土器部 品		12.4	7.9	ナゲ	ユビオサエ ナゲ	褐色 褐色	褐色、赤 褐色、褐色	褐色の砂粒を多量に含む
	土器部 品		9.2	4.2	6.0	ナゲ	ユビオサエ ナゲ	褐色	褐色の砂粒を多量に含む
	土器部 品		10.2	6.5	6.8	ナゲ	ユビオサエ ナゲ	褐色	褐色、黒、白、透明の先る砂粒を多量に含む
	土器部 品		13.7	4.0		ナゲ、圓盤 ハラカズリ	ナゲ	褐色	褐色の砂粒を少量含む
	土器部 品					カキ	ユビオサエ ナゲ	褐色	3mm以下の白角の粒を少量含む
	土器部 品		9.6	8.9	2.6	ナゲ	ユビオサエ ナゲ	褐色 褐色	褐色の砂粒を多量に含む
	土器部 品					ハケ	ナゲ	褐色	褐色の砂粒を多量に含む

出土土器觀察表

() 内に補定値

出土遺跡 番号	遺物番号	種類	法 長 寸	法 幅 寸	高 度 寸	外 面	内 面	色 調	地 土	備 考
						左	右	上	下	
24号住居	350	乳生土器 高台	21.5			ナゲ	ナゲ	に赤い黄緑 に赤い黄緑	褐色の細砂粒・砂粒を多量に含む	透かし孔 底面
	351	乳生土器 高台				ナゲ	ナゲ	に赤い黄緑 に赤い黄緑	褐色の細砂粒・砂粒を多量に含む	底面
	352	土器器 高台		5.1		ナゲ	ナゲ	に赤い黄緑 に赤い黄緑	褐色の細砂粒・砂粒を含む	スス付着、黒葉 水の露氷
25号住居	353	土器器 高台				ミガキ	ミガキ	浅黄緑	褐色の砂粒・細砂粒を含む	
	354	土器器 高台				/	/	灰白 に赤い黄緑	褐色の砂粒・細砂粒を多量に含む	
26号住居	355	土器器 高台		13.6		ナゲ	ミガキ	褐 に赤い黄緑	褐色の砂粒を含む	
	356	土器器 高台		12.2		ナゲ エビオササ	ミガキ	赤 に赤い黄緑	褐色や赤色の砂粒を含む、透明で光る微 細粒も微量含む	木の露氷
	357	土器器 高台				ナゲ	ナゲ	に赤い黄緑	4.5mm以下の赤褐色、見る明るい粒、黒の 砂粒を多量に含む	
	358	土器器 高台		2.2		ナゲ	ハケ	に赤い黄緑 に赤い黄緑	白と黒の光る微小な粒と、1mm以下の赤 色の細砂粒を含む	
	359	土器器 高台	14.9			風化著しい	樹	樹	褐色の砂粒・細砂粒を含む	
	360	土器器 高台				ナゲ	ナゲ	に赤い黄緑	4mm以下の褐色、2mm以下の灰白色の粒 を含む	
	361	土器器 高台		7.7		ナゲ	ナゲ	樹 黒	黒、灰色、褐色の砂粒を多量に含む	
27号住居	362	土器器 高台	14.6	12.7	7.1	ナゲ	ナゲ	小佛 に赤い黄 に赤い黄 用陶器	褐色の砂粒を含む	スス付着
	363	土器器 高台	14.0	11.8	10.2	ミガキ	ミガキ ナゲ	褐色 に赤い黄 用陶器	褐色・乳白色・黒の微細粒を多量に含む	
	364	土器器 支脚				エビオササ	/	樹	1.5mm以下の細褐色の砂粒・黒の光る粒 を微細含む	
	365	土器器 不明								葉柄型
	366	土器器 不明				ナゲ	ナゲ	に赤い黄 に赤い黄	4mm以下の褐色・乳白色の粒・砂粒を多 量に含む	
	367	土器器 不明		5.1		ナゲ	ハケ ナゲ	樹 に赤い黄	赤褐色・黒・白色の細砂粒を含む	
	368	土器器 不明		5.2		ミガキ ナゲ	ミガキ ナゲ	に赤い黄 に赤い黄	2mm未満の赤褐色・黒灰色の砂粒を含む	
28号住居	369	土器器 不明				ミガキ ナゲ	ミガキ ナゲ	褐色 に赤い黄 用陶器	褐色・灰の砂粒・細砂粒を多量に含む	
	370	土器器 不明	14.0	6.1	5.7	ナゲ	ナゲ	に赤い黄 に赤い黄	黑・褐色・灰白の砂砾を多量に含み、黑・ 灰・灰褐色の砂粒・細砂粒を含む	黒面
	371	土器器 不明	13.4			ミガキ	ミガキ	平腹 に赤い黄	黑や透明の発泡粒を微量含む	
	372	土器器 ミナチアフ 底盤 高台	7.3	3.6	3.6	エビオササ ナゲ	ナゲ	樹 に赤い黄	褐色・褐色・灰の細砂粒を多量に含む	
	373	土器器 底盤 高台				ナゲ	ナゲ	灰	白色・黑色の微細粒を含む	
	374	土器器 底盤 高台	14.6	3.3		ケズリ	ナゲ	青灰	1mm以下の淡黄色・灰色の砂粒を含む	
	375	土器器 底盤 高台	14.7	3.4		圓筒ベラク アヌ	ナゲ	褐色	2mm以下の乳白色の細砂粒を少量含む	
29号住居	376	土器器 底盤 高台	11.5	3.9		ケズリ ナゲ	エビオササ ナゲ	灰	灰色の砂粒と黒い火の衝撃粒を含む	
	377	乳生土器 高台				風化著しい	ナゲ	樹 に赤い黄	黑・褐色・灰白等の砂粒・細砂粒を多量に 含む	
	378	乳生土器 高台	12.3			ミガキ	ミガキ	樹	褐色・灰・白の細砂粒を多量に含む	
	379	乳生土器 高台		8.1		風化著しい	風化著しい	樹 に赤い黄	白・褐色・灰・褐色の砂粒を少量、白・黑・灰 褐色の細砂粒を多量に含む	
	380	土器器 高台	30.0			ケズリ	ナゲ	に赤い黄 に赤い黄	三・褐色・灰・赤褐色の細砂粒を少量含 む	スス付着
	381	土器器 高台	16.8			ナゲ	ナゲ	に赤い黄 樹	褐色の細粒・砂粒を含む	
	382	土器器 高台	19.3			エビオササ エビオササ ハケ	エビオササ エビオササ ハケ	樹 に赤い黄	褐色・灰・黒の砂粒・細砂粒を多量に含 む	スス付着 384と同一個体
30号住居	383	土器器 高台				ハケ	ナゲ	に赤い黄 に赤い黄	赤褐色の4mm以下の砂粒を含む	スス付着 383と同一個体
	384	土器器 高台				ハケ	ナゲ	に赤い黄 に赤い黄	4mm以下の赤褐色の砂粒を含む	スス付着 383と同一個体
	385	土器器 高台				ナゲ	ナゲ	に赤い黄 に赤い黄	褐色・乳白色の砂粒・細砂粒を含む、透 明の粒を微量含む	
	386	土器器 高台			4.1	ナゲ	ナゲ	樹	褐色・黑・白色の砂粒・細砂粒・細砂粒を 少量含む	
	387	土器器 高台			3.8	ナゲ	ハケ	樹	1mm以下の灰褐色や赤褐色の砂粒、透明の 火の衝撃粒を少量含む	
	388	土器器 高台				ナゲ	ハケ	樹 に赤い黄	2mm以下の褐色・灰色の砂粒、1mm以下 の淡黄色の砂粒を含む	

出土土器観察表

() 内は推定値

出土位置 番号	種類 名	形 状 (cm)	調 査 部	色 調		施 上	備 考	
				外 面	内 面			
389	土器部 底	26.2	24.8	7.5	ミガキ ナダ	ミガキ ナダ	透明 褐色 に赤い粒 に赤い粒 黒	透明・黒色の光る微細粒を多量に含む 1~2mmの砂粒、1mm以下の細胞粒を少 量含む
390	土器部 底	21.1			ミガキ	ミガキ	透明 褐色 に赤い粒 黒	1~2mmの砂粒、1mm以下の細胞粒を少 量含む
391	土器部 底	11.8	5.6		ミガキ	ミガキ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色の微細な砂粒、透明・黒の光る粒を 多量に含む
392	土器部 底	12.4	5.1		ミガキ	ミガキ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色の微細な砂粒、透明・黒の光る粒を 多量に含む
393	土器部 底	15.1	6.6		ナダ ケズリ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色の微細な砂粒、透明・黒の光る粒を 多量に含む
394	土器部 底	15.2	5.0		ナダ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黑	半透明の光る微細な粒を少量含む
395	土器部 底	15.2	4.6		ナダ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黑	1mm以下の褐色・灰褐色の砂粒と白や黒の 光る小透明の粒を微量含む
396	土器部 底	14.1	6.3		ミガキ?	ミガキ?	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色・灰褐色の砂粒、細胞粒を多量に含む 丹塗り
397	土器部 底	14.0	6.6		ナダ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色・明瞭の砂粒、細胞粒を含む
398	土器部 底	16.3	6.9		ミガキ	ミガキ	透明 褐色 に赤い粒 黒	細胞粒を多量に含む
399	土器部 底	10.3	6.8	4.1	スピオサエ ナダ	風化著しい	透明 褐色 に赤い粒 黒	赤褐色・灰色の細胞粒を含む
400	土器部 底			8.1	ナダ	ナダ	灰	黒・白の細砂粒を少量含む
401	土器部 底				ナダ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	2.5mm以下の褐色の粒、砂粒を多量に含 み、透明・乳白色の粒を含む
402	陶土上 部				ナダ ハケ	ハケ	透明 褐色 に赤い粒 黒	4mm以下の褐色・灰の粒、砂粒・細胞粒 を微量含む
403	陶土上 部				ナダ ハケ	ユビオサエ	透明 褐色 に赤い粒 黒	透明・黒の光る粒を多量に、乳白色・褐 色の粒を微量含む
404	陶土上 部			6.5	ナダ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	砂粒と白色の粒を少量含む
405	陶土上 部			4.5	風化著しい	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	黒・灰・白・褐の細砂粒、透明の粒を多 量に含む
406	陶土上 部			6.5	ナダ	ミガキ	透明 褐色 に赤い粒 黒	4mm以下の赤褐色の砂粒を含む
407	陶土上 部				ハケ後ナダ	スピオサエ ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	2mm以下の褐色・赤褐色の砂粒を多量に 含む
408	陶土上 部				風化著しい	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	2mm以下の褐色・赤褐色の砂粒を多量に 含む
409	土器部 底				風化著しい	風化著しい	透明 褐色 に赤い粒 黒	透明の砂粒を含む
410	土器部 底			13.7		ナダ ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	1mm以下の白・褐色の細胞粒を含む
411	土器部 底				ナダ	風化著しい	透明 褐色 に赤い粒 黒	4mm以下の褐色の砂粒を含む
412	土器部 底			56.4	ミガキ	ミガキ	褐色 に赤い粒 黒	褐色の砂粒を含む
413	土器部 底			6.2	ナダ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色の砂粒を含む
414	土器部 底			4.0	風化著しい	風化著しい	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色の砂粒を含む
415	土器部 底			12.5	ミガキ	ハケ ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	半透明・褐色の砂粒、透明の光る微細粒 を含む
416	土器部 底				ミガキ	ハケ ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色・灰褐色の砂粒を含み、無色透明の 光る微細粒を微量含む
417	土器部 底				ナダ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	半褐色・褐色の砂粒、微細な光る粒を 含む
418	土器部 底			8.4	11.7	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	3mm以下の褐色の砂粒、1mm以下の黒い 砂粒を含む
419	土器部 底				風化著しい	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	細胞粒、白く光る微小な粒を少量含む
420	土器部 底			8.6	風化著しい	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色色・灰色の砂粒を含む
421	土器部 底			9.3	ナダ ケズリ	スピオサエ ナダ ケズリ	透明 褐色 に赤い粒 黒	2mm以下の赤褐色の砂粒を含み、透明の 微細粒も少量含む
422	土器部 底			(14.2)		ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色の砂粒・細胞粒を含む
423	土器部 底			16.8	ハケ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	細胞粒を含む
424	土器部 底			2.6	ハケ	ナダ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色色の砂粒を微量、黒・褐色・白・透 明の細砂粒を含む
425	土器部 底			13.8	ミガキ	ミガキ	透明 褐色 に赤い粒 黒	細胞粒を少量、白く光る微小な粒をごく 少量含む
426	土器部 底	(15.1)	(6.6)		ミガキ	ミガキ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色の砂粒を含む
427	土器部 底	15.2	5.5		ミガキ	ミガキ	透明 褐色 に赤い粒 黒	褐色色の透明粒子、褐色色の砂粒を多量に 含む

出土土器観察表

() 内は推定値

出土遺物	遺物番号	幅(cm)	高(cm)	裏面	外面	内面	外向	内向	胎土		備考
									口径	筋	
31号住居	428	14.7	5.6		ミガキ	ミガキ	明治織機 に古い模様	明治織機 に古い模様	赤褐色、赤褐色の砂粒を含む		風灰 焼灰
	429	14.1	5.0		ミガキ	ミガキ	縦	縦	細粒と光る白っぽい微小な砂を多く含む		
	430	17.1			ケズリ ナデ	ナデ	に古い模様 発火	に古い模様 発火	4. 5cm以下の暗赤褐色の模様の、砂粒・繊維状を微量含む		
	431	14.7	6.2		ミガキ	ミガキ	横	明治織機	2 mm以下の赤褐色・灰色の砂粒を含む		木の葉底
	432	14.7			ナデ	ナデ	浅黄緑 横	浅黄緑 横	褐色・黒灰色の砂粒を含む		
	433				ミガキ	ナデ	灰白	灰白	透明の光る微細粒を多量に含む		
	434	9.6	11.4		ナデ	ナデ	浅黄緑 暗灰質	浅黄緑 暗灰質	3 mm以下の褐色の砂粒と赤い模様を少 量含む		
32号住居	435	15.8	21.7	3.7	エビオサ ナデ	ナデ	縦	縦	に古い褐色 赤褐色、灰褐色	5 mm以下の灰色・褐色・墨の繊維を多量に 含む	
	436	19.1			ケズリ ミガキ	ケズリ	に古い模 暗褐色	に古い模 暗褐色	3~5 mmの褐色・灰・赤褐色の砂粒を少 量含む		
	437				ナデ	ナデ	に古い模様	浅黄緑	1 mm以下の墨・褐色の砂粒・微細な黒斑 点・石英を微量含む		
	438	14.4			ナデ	ナデ	に古い模様 灰褐色	に古い模 灰褐色	褐色・乳白色・黒の砂粒・繊維状を多量 に含む		
	439				ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	に古い模	に古い模	灰色・墨・褐色の砂粒を含む		鏡面
	440	15.0	9.2	7.0	ナデ	ナデ	横	横	0.6mm以下の灰褐色・炭の跡の砂粒・砂粒を多 量に、同色の繊維状も含む		
	441	11.8	5.2		ミガキ	ナデ	浅黄緑 横	浅黄緑 横	光る墨色・透明の砂粒・繊維状・砂粒を有 む		
33号住居	442	13.6	4.5		ミガキ	ミガキ	に古い模 横	に古い模 横	褐色・暗褐色の砂粒・繊維状を多量に含 む		
	443	11.8	4.3		風化著しい		風化著しい	風化著しい	3 mm以下の褐色・灰・白の砂粒・繊維状を含む		
	444	12.0	4.0		風化著しい		風化著しい	風化著しい	1 mm以下の灰白の砂を多量に含む		
	445	11.3	3.7		ナデ	ナデ	青灰	青灰	砂粒・繊維状を含む		
	446	(12.4)			ナデ	ナデ	灰	灰	0.1~3 mmの白・黒の砂粒・繊維状を含 む		自然釉
	447				ミガキ	ナデ	に古い模 横	横	褐灰・暗褐色の砂粒・繊維状を多量に含む		
	448				ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	に古い模	に古い模	0.3mm以上の褐色の砂粒・砂粒を含む		
34号住居	449				風化著しい		風化著しい	風化著しい	風化著しい		
	450	11.7	3.3		ナデ ミガキ	ナデ	に古い模 縫合	に古い模 縫合	0.3mm以下の褐色の砂粒を微量含む		
35号住居	451					ナデ	ナデ	横	に古い模 縫合		
	452				ナデ	ナデ	灰	灰	1 mm以下の褐色・灰・黒の繊維状・砂粒子 を多量に含む		
36号住居	453				ナデ	ナデ	横、褐色 縫合	横、褐色 縫合	褐色・灰・白・黒の砂粒・繊維状を多量 に含む		木の葉底 スス付着
	454				風化著しい		横	横	5 mm以下の赤褐色の砂粒を少量含む		
38号住居	455				風化著しい		風化著しい	横	2 mm以下の赤褐色の砂粒・繊維状を少量 含む		
	456				ナデ	ナデ	に古い赤褐色 暗褐色	に古い赤褐色 暗褐色	に古い赤褐色・暗褐色の砂粒を含む		木の葉底
	457	13.3	3.9		ミガキ	ミガキ	浅黄緑	浅黄緑	光る透明・黒の砂粒・砂粒・繊維状を多量 に含む		
	458	(12.6)			ナデ	ナデ	灰	灰	8 mm以下の白の砂粒を含む		
	459				ナデ	ナデ	灰	灰	1. few以下の白・黒の砂粒を多量に含む		
40号住居	460				ナデ	ナデ	に古い模 縫合	に古い模 縫合	3 mm以下の褐色・灰・黑・白の砂粒・繊 維状を多量に含む		スス付着
	461				ハケ	ナデ	に古い模 縫合	に古い模 縫合	光る透明・黒の砂粒・砂粒・繊維状を多量 に含む		スス付着
	462				ナデ	ナデ	ハケ	ハケ	褐色の砂粒を多量に含み、光る透明・ 黑色の砂粒を含む		
	463				ナデ	ナデ	に古い模 縫合	に古い模 縫合	光る白・砂粒・砂粒を多量に含む		スス付着
1号土坑	464				風化著しい		風化著しい	横	2 mm以下の赤褐色の砂粒・赤褐色の砂粒を多 量に含む		
	465				ナデ	ナデ	に古い模 縫合	に古い模 縫合	1 mm以下の赤褐色の砂粒・灰褐色の砂粒を少 量含む		木の葉底
	466	(10.6)			ミガキ	ナデ	黄褐色 縫合	黄褐色 縫合	5 mm以下の褐色の砂粒・霧・透明の砂粒・ 砂粒を多量に含む		丹度り 467. 468と同一個体

出土器觀察表

出土土器観察表

() 内は推定値

出土状況 番号	種類	基盤	高さ(cm)	外側	内側	外側	内側	外側	内側	地土		備考	
										口径	底径		
11分類状況 道	土器	上部器 底	(14.9)		ナゲ	ナゲ	に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	3mm以下の赤褐色の砂粒を含み、1mm以 上の石英を微量含む			
	土器	土器器 底	(13.6)	4.5	(4.8)	風化著しい	風化著しい	淡黄緑	淡黄緑	1mm以下の黒・褐色の砂粒を微量含む			
	土器	土器器 底	(13.8)	(4.3)		風化著しい	風化著しい	に古い特 徴	に古い特 徴	褐色の砂粒を含む			
	土器	上部器 底	(14.0)		ナゲ	ナゲ	淡黄緑	に古い特 徴	に古い特 徴	0.2mm以下の褐色・灰褐色の砂粒を多量に 含む			
	土器	底盤器 底	(14.8)		ケズリ	ナゲ	黄灰	黄灰	黄灰	1mm以下の灰白・墨褐色の砂粒を含む			
	土器	底盤器 底	(12.2)		ナゲ	ナゲ	灰オリーブ	灰	灰	1.5mm以下の白の砂粒を含む			
13分類状況 道	土器	底盤器 底	(14.4)		ケズリ	ナゲ	灰	灰	灰	1mm以下の褐色の砂粒を微量含む			
	土器	底盤器 底			ナゲ	ナゲ	灰	灰	灰	2mm以下の白の砂粒を含む	剖面		
	土器	土器器 底	(7.3)		風化著しい	ナゲ	に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	1mm以下の褐色の砂粒を含む			
	土器	上部器 底	(17.0)		風化著しい	風化著しい	明赤緑	明赤緑	明赤緑	5mm以下の褐色の砂粒を含む			
	土器	土器器 底			ナゲ	ナゲ	橙	橙	橙	1mm以下の黒・褐色の砂粒と石英を含む			
	土器	上部器 底			ナゲ	ナゲ	淡黄緑	淡黄緑	淡黄緑	3.5~5.0mmの黒・褐色・灰の砂粒・細砂 を含む			
16分類状況 道	土器	土器器 底	(11.0)		ナゲ	ナゲ	に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	3mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む			
	土器	上部器 底			風化著しい	風化著しい	灰	灰	灰	2mm以下の乳白色・透明の砂粒を微量含む	剖面		
	土器	土器器 底	14.7	4.5	風化著しい	ナゲ	橙	橙	橙	6mm以下の褐色の砂粒・砂粒を多量に含 む			
	土器	底盤器 底	(13.0)		ケズリ	ナゲ	灰	灰	灰	1.5mm以下の白の砂粒を含む			
	土器	上部器 底	(19.0)		ナゲ	ナゲ	橙	に古い特 徴	に古い特 徴	4mm以下の褐色の砂粒を含む			
	土器	土器器 底			ナゲ	ナゲ	暗灰	暗灰	暗灰	5mm以下の白・灰・褐色の砂粒・砂粒・ 細砂を多量に含む	剖面		
19号状況 道	土器	底盤器 底			ハケ	に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	1mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む			
	土器	底盤器 底			ナゲ	ナゲ	灰	灰	灰	4mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む			
	土器	上部器 底			ケズリ	ナゲ	橙	橙	橙	3mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む			
	土器	土器器 底			ケズリ	ナゲ	淡黄緑	淡黄緑	淡黄緑	2mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む			
	土器	底盤器 底			ミガキ	ミガキ	黄灰	黄灰	黄灰	3mm以下の白・灰・褐色の砂粒を多量に含 む			
	土器	上部器 底	11.8	5.6	ケズリ	ナゲ	橙	に古い特 徴	に古い特 徴	4mm以下の白の砂粒を含む			
2号地下 式様大系	土器	土器器 底	8.7	19.7	(1.8)	ミガキ	ミガキ	黄灰	黄灰	黄灰	5mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む		
	土器	ナカダ器 コップ型	7.9	7.3	6.4	ナゲ	ケズリ	に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	4mm以下の白の砂粒を含む		
4号状況 道	陶器	底盤		(6.5)	/	/	淡黄	淡黄	淡黄	1mm以下の白の砂粒を微量含む			
	土器	土器器 底		(27.4)	風化著しい	ナゲ	に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	4mm以下の褐色の砂粒を多量に含む。 白や黒の少量の微細粒を含む			
	土器	上部器 底			6.5	風化著しい	風化著しい	橙	橙	5mm以下の灰・褐色の砂粒・乳白色的砂 粒を含む			
	土器	土器器 底		(33.4)	ミガキ	ナゲ	淡黄緑	に古い特 徴	に古い特 徴	5mm以下の褐色の砂粒を微量に含む			
	土器	ナカダ器 底			風化著しい	風化著しい	橙	橙	橙	0.5mm以下の褐色の微細粒を微量含む			
	土器	上部器 底			風化著しい	風化著しい	に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	4mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む、透明 な白い砂の微量を含む			
7分類状況 道	陶器	底盤					淡黄緑	淡黄緑	淡黄緑	4mm以下の赤褐色の砂粒を多量に含む			
	土器	土器器 底					に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	白や黒の少量の微細粒を含む			
	土器	上部器 底					橙	橙	橙	5mm以下の灰・褐色の砂粒・乳白色的砂 粒を含む			
	土器	土器器 底					淡黄緑	淡黄緑	淡黄緑	透明の砂粒を多量に含む			
	土器	ナカダ器 底					に古い特 徴	に古い特 徴	に古い特 徴	5mm以下の褐色の砂粒を多量に含む			
	土器	上部器 底			4.4	風化著しい	風化著しい	に古い特 徴	に古い特 徴	0.5mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む、透明 な白い砂の微量を含む			
北路状況 道	陶器	底盤					風化著しい	風化著しい	風化著しい	4mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む			
	土器	土器器 底					ナゲ	ナゲ	ナゲ	0.5mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む			
	土器	土器器 底					ナゲ	ナゲ	ナゲ	6mm以下の白・灰・褐色の砂粒・砂粒・ 細砂を多量に含む			
	土器	ナカダ器 底			7.1	ナゲ	ナゲ	黄灰	黄灰	5mm以下の白・灰・褐色の砂粒を多量に含む			
	土器	生土器 底			9.0	ナゲ	ナゲ	橙	橙	4mm以下の白・灰・褐色の砂粒を多量に含 む			
	土器	生土器 底			(6.0)	風化著しい	風化著しい	橙	橙	2mm以下の白・灰・褐色の砂粒を多量に含 む			
542	土器	上部器 底	(22.2)	37.1	4.9	ハケ	ハケ	に古い特 徴	に古い特 徴	4mm以下の黒・褐色の砂粒を含み、砂粒・ 細砂を多量に含む	剖面欠		
543	土器	生土器 底				風化著しい	風化著しい	赤褐色	赤褐色	2mm以下の白・赤褐色の砂粒を含み、1~ 3mm以下の光・透明の砂粒を微量含む			
544	土器	生土器 底				ナゲ	ナゲ	に古い特 徴	に古い特 徴	4mm以下の白・灰・褐色の砂粒を含む	板状文		
545	土器	生土器 底				風化著しい	風化著しい	ナゲ	ナゲ	0.5~3mmの白・黒・褐色・灰の砂粒・ 細砂を多量に含む			
546	土器	生土器 底				ナゲ	ナゲ	ユビオニ	明赤緑	8mm以下の白・灰・褐色・灰の砂粒・砂 粒を多量に含む			
547	土器	生土器 底				風化著しい	風化著しい	橙	橙	6mm以下の水褐色・灰褐色の砂粒を含む			

出土土器観察表

() 内は推定値

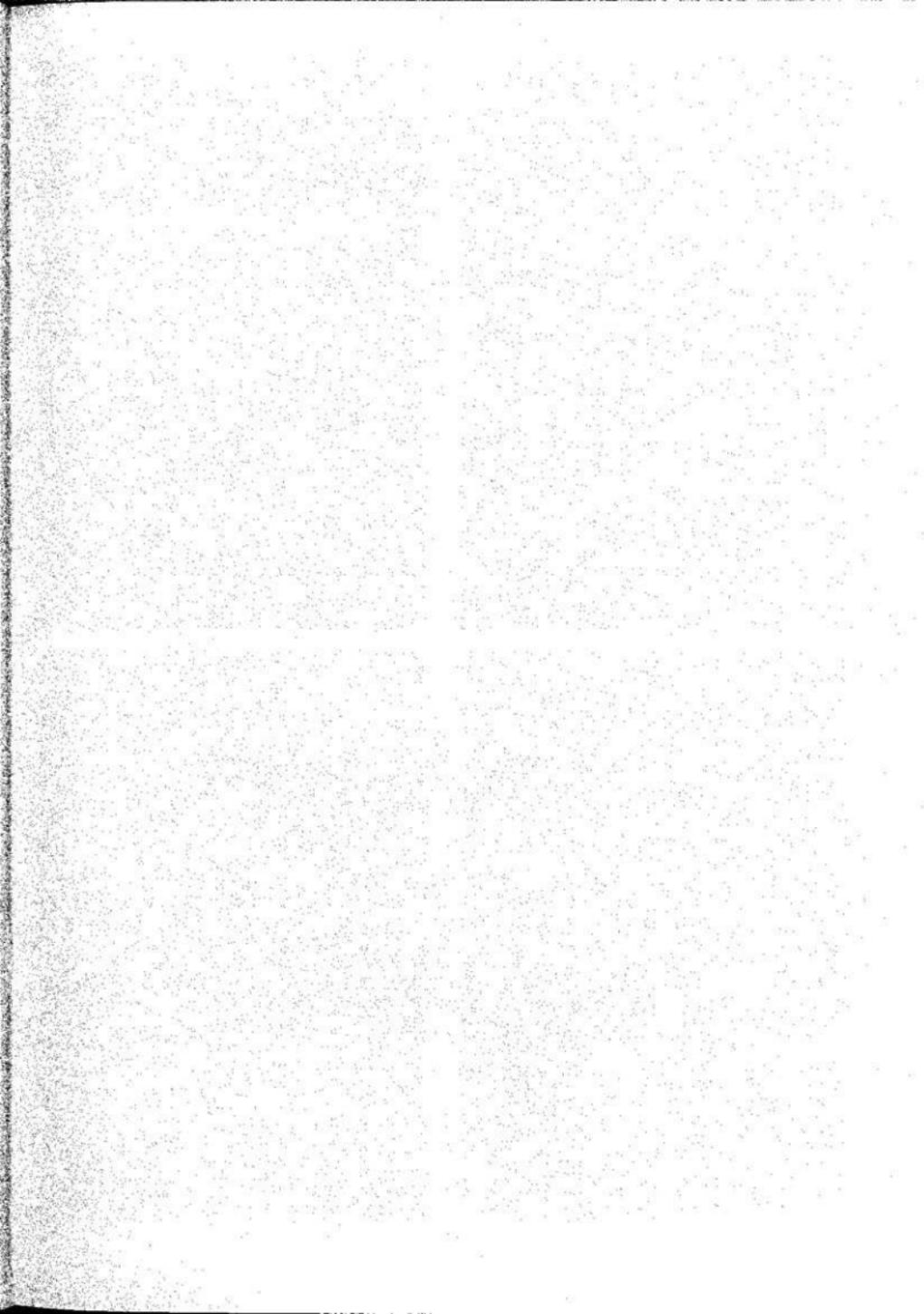
出土地点	遺物番号	種類	第幾	法 量(cm)	調 査		色 調		地 上	備 考	
					口 径	基 高	施 密	外 面	内 面		
淀川	548	陶土器	甕		5.0	ミガキ	風化著しい	にぶい緑	にぶい灰	1.5mm以下の白・褐色の砂粒を含み、1mm以下の石粉を微量含む	
	549	陶土器	甕			ナゲ	ナゲ	灰白	灰白	3mm以下の褐色の砂粒、微量を石粉を含む	
	550	陶土器	高杯	(22.0)		風化著しい	風化著しい	桜	桜	5mm以上の白・褐色・灰の砂粒・砂粒・細砂粒を多量に含む	
	551	陶土器	高杯				風化著しい	ナゲ	淡黄緑	3mm以下の白・褐色の砂粒を含み、1mm以下の石粉を微量含む	
	552	陶土器	高杯			風化著しい	ナゲ	淡黄	灰	2.5mm以下の褐色の砂粒、1mm以下の白の砂粒を含む	
	553	陶土器	高杯	(18.7)		ナゲ	ナゲ	にぶい緑	淡黄緑	5mm以下の白・黒・褐色の砂粒・砂粒を多量に含む	
	554	陶土器	器台			風化著しい	風化著しい	桜	桜	白・黒・褐色・灰の砂粒、墨黒素・石灰を多量に含む	透かし孔
	555	陶土器	器台			ミガキ	ハタケ	明褐色	桜	6mm以下の褐色の砂粒、光る乳白色の砂粒を多量に含む	透かし孔
	556	陶土器	器台	(17.8)		ミガキ	ナゲ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	2mm以下の黒・褐色の砂粒・細砂粒を含む	透かし孔
	557	土器	器			ナゲ	ナゲ	桜	桜	0.5mm以下の褐色、にぶい黄緑の砂粒、砂粒を多量に含む	
	558	土器	器	12.0		風化著しい	風化著しい	桜	桜	5.5mm以下の褐色・灰の砂粒を含む	
	559	土器	器	(14.0)		風化著しい	風化著しい	にぶい黄緑	にぶい黄緑	2mm以下の白・褐色の砂粒を含み、1mm以下の石粉を微量含む	
	560	土器	器			ナゲ	ハタケ後ナゲ	にぶい緑	にぶい緑	1.5mm以下の黒・褐色・灰・うす茶の砂粒・細砂粒を含む	
	561	土器	高杯			風化著しい	風化著しい	淡黄緑	淡黄緑	3mm以下の褐色の砂粒を微量含み、白・褐色の砂粒・細砂粒を含む	
	562	土器	高杯	(17.6)		風化著しい	風化著しい	黄緑	桜	0.1mm以下の褐色・灰の微細粒を微量含む	
	563	土器	高杯			風化著しい	風化著しい	にぶい緑	にぶい緑	2mm以下の白・黒の砂粒を含む	
	564	土器	高杯			風化著しい	風化著しい	桜	にぶい緑	4mm以下の褐色・にぶい黄緑の砂粒を多量に含み、門との砂粒を微量含む	
	565	土器	杯	(14.2)	5.4	風化著しい	風化著しい	桜	桜	2mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	566	土器	杯	(14.3)		風化著しい	風化著しい	黄緑	黄緑	1mm以下の赤褐色の砂粒を含む	
	567	土器	杯	(10.8)		ナゲ	ナゲ	淡黄緑	淡黄緑	1mm以下の褐色の砂粒、微量を石粉を含む	
	568	土器	杯	8.0		ケヌリ ナゲ	ナゲ	明褐色 暗褐色	明褐色 暗褐色	0.5~2mmの白・黒・褐色の砂粒・細砂粒を微量含む	
	569	土器	杯	(13.3)		ナゲ	ナゲ	灰	灰	2mm以下の白・灰の砂粒を含む	
	570	土器	杯	(13.0)		ナゲ ヘラズリ	ナゲ ヘラズリ	桜	桜	1mm以下の白い砂粒を微量含む	
	571	土器	杯			ナゲ	ナゲ	灰	灰	白・黒の砂粒を微量含む	
	572	土器	杯	(11.8)		ナゲ	ナゲ	灰	灰	3mm以下の白・黒の砂粒を含む	
	573	土器	杯	11.6	3.0	6.1	同款ヘラズ リ	ナゲ	桜	2mm以下の黒褐色の砂粒、乳白色の性を少量含む	

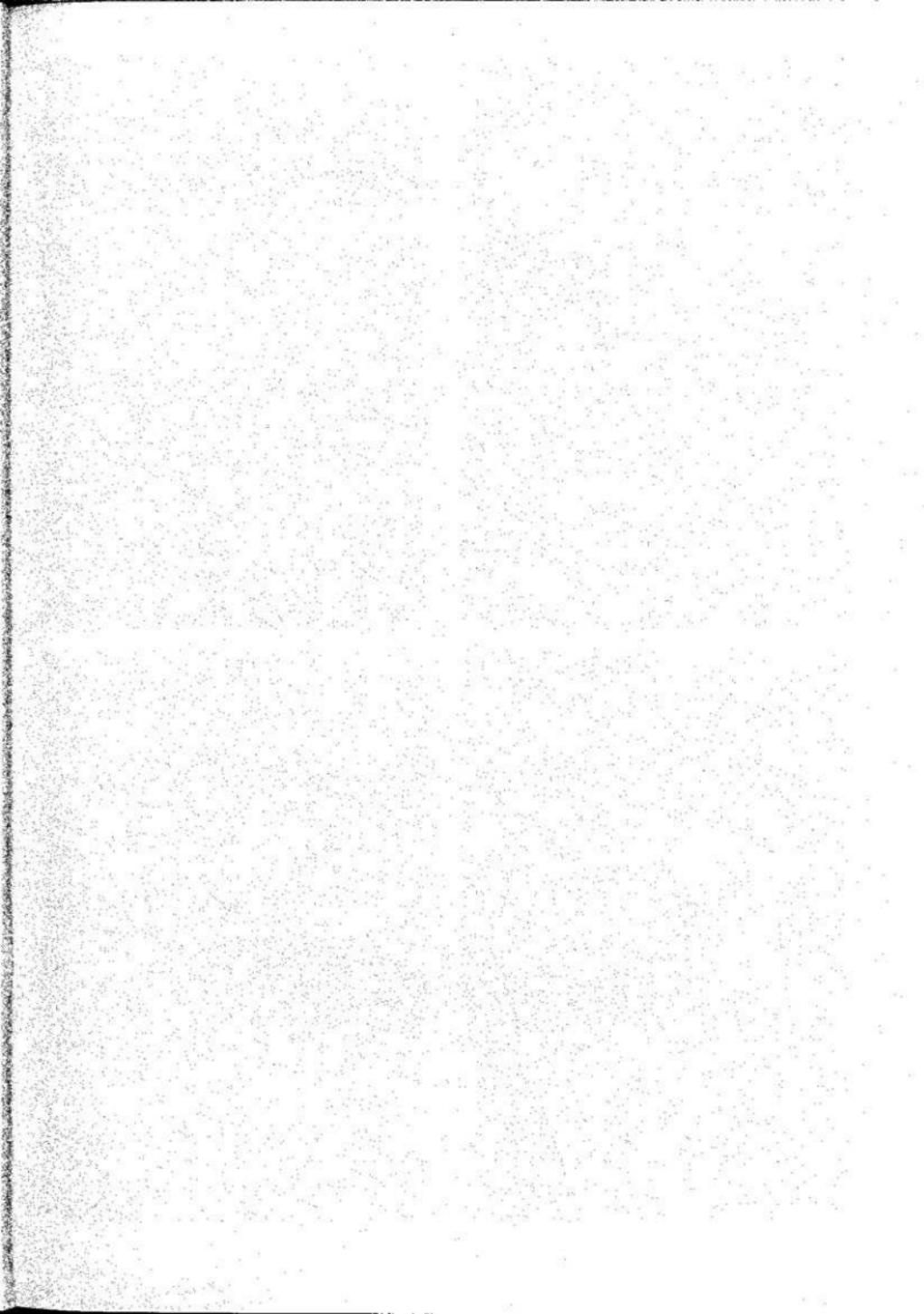
出土鉄器観察表

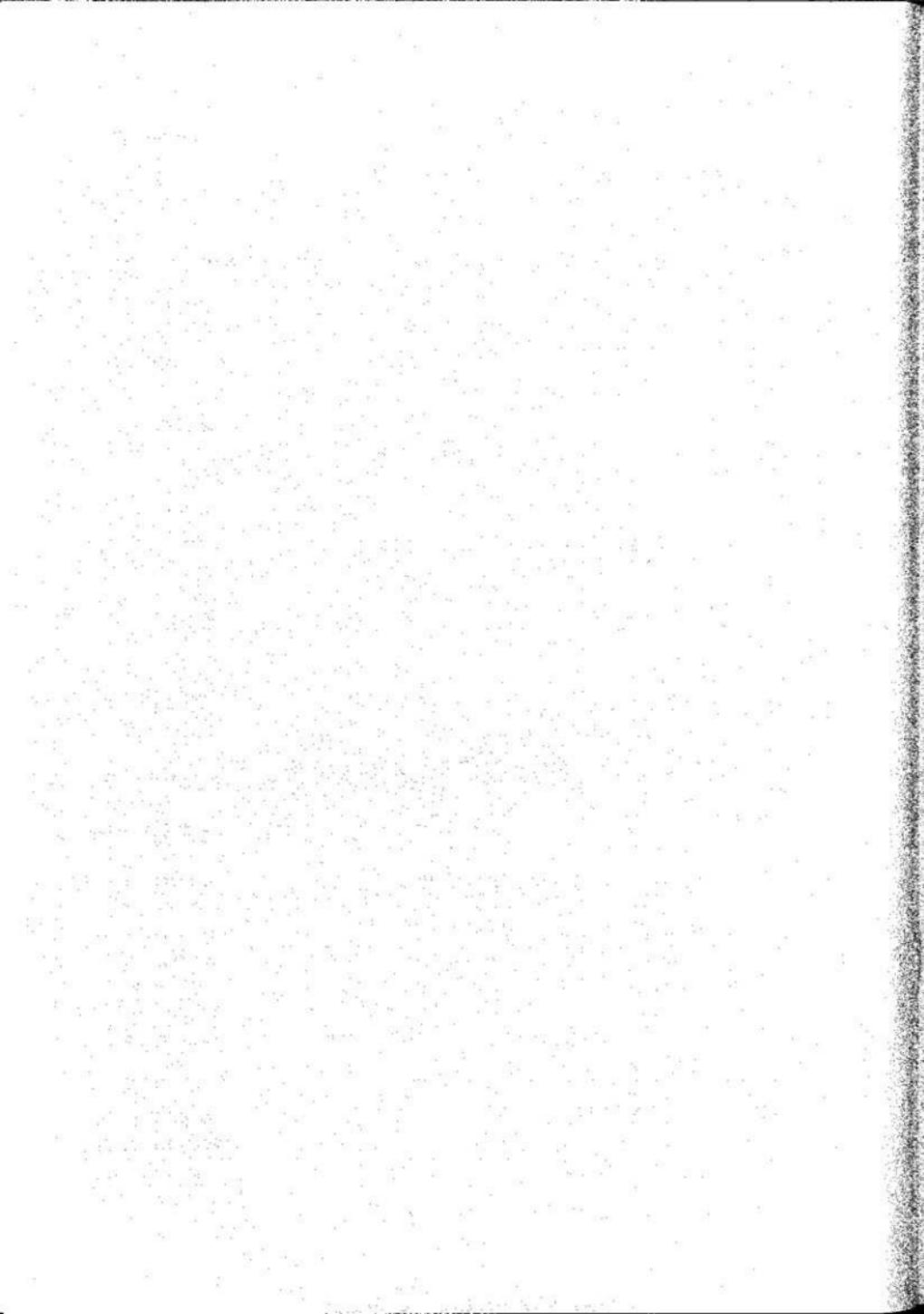
番号	出土遺構	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
525	1号地下式横穴墓	刀子	13.80	1.30	0.50			柄の厚み0.9cm
528	2号地下式横穴墓	刀子	11.50	1.50	0.50			
529	2号地下式横穴墓	鐵 鐸	12.00	2.70	0.40	33.0		銅皮で柄を巻いている
574	3号住居	鐵 鐘	7.60	2.10	0.40			
575	20号住居	鐵 斧	4.80	6.10	1.30	18.2		
576	23号住居	刀子	9.15	1.30	0.50			

出土石器観察表

番号	出土遺構	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
577	1号住居	敲 石	17.60	6.00	4.60	710.0	砂岩	
578	18号住居	凹 石	14.40	9.90	3.60	810.0	砂岩	
579	8号住居	敲 石	21.20	9.60	4.50	1,140.0	砂岩	
580	2号住居	砥 石	27.50	14.50	10.00	5,586.0	砂岩	
581	8号住居	凹 石	16.80	7.90	8.00	1,660.0	砂岩	
582	10号住居	凹 石	9.30	8.50	3.75	510.0	砂岩	
583	10号住居	敲 石	13.70	5.50	4.00	410.0	砂岩	
584	11号住居	石包丁	5.00	4.70	1.00		頁岩	
585	16号住居	砥 石	14.50	5.20	1.70	160.0	砂岩	
586	19号住居	砥 石	9.00	3.40	0.70	31.5	砂岩	
587	19号住居	石包丁	5.85	8.10	0.80	57.5	頁岩	
588	20号住居	砥 石	8.40	5.15	1.75	80.0	頁岩	
589	20号住居	凹 石	13.40	10.70	6.30	1,028.0	砂岩	
590	22号住居	凹 石	12.90	8.50	3.20	400.0	砂岩	
591	22号住居	砥 石	5.30	2.70	1.25	32.2	砂岩	
592	25号住居	門 石	19.00	10.30	4.30	820.0	砂岩	
593	26号住居	凹 石	10.40	6.70	4.90	390.0	砂岩	
594	28号住居	凹 石	14.96	10.16	4.30	938.0	砂岩	
595	28号住居	凹 石	16.50	6.40	4.40	710.0	砂岩	
596	34号住居	凹 石	16.00	9.60	3.90	680.0	砂岩	
597	38号住居	凹 石	9.85	6.70	3.40	300.0	砂岩	
598	41号住居	石包丁	7.40	5.10	5.50	39.9	頁岩	
599	3号上杭	門 石	14.80	6.30	5.80	730.0	砂岩	
600	9号上杭	すり石	8.60	5.70	3.40	195.0	砂岩	
601	1号溝状遺構	支 脚	13.30	6.90	6.50	225.0	鰐石	
602	1号溝状遺構	凹 石	8.45	4.75	3.10	182.0	砂岩	
603	10号溝状遺構	敲 石	8.10	10.00	2.90	350.0	砂岩	









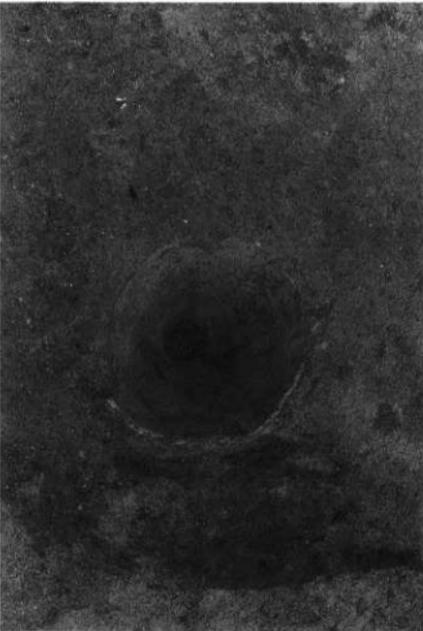
1号住居遺物出土状況



1号住居遺物出土状況



1号・6号住居遺物出土状況



1号住居埋焼